



Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Presence Release 8.0、 8.5、および 8.6

2011 年 12 月 27 日

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Presence
Copyright © 2011 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2011–2012, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1

- Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のインストールおよび設定 1-1**
 - Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のインストールおよびアップグレード方法 1-1
 - RTMT のインストール 1-2
 - RTMT のアップグレード 1-3
 - RTMT の複数インストール 1-4
 - サーバ上のサービス、サブレット、およびサービス パラメータ 1-5
 - RTMT のナビゲート方法 1-6
 - RTMT の起動 1-6
 - RTMT インターフェイス 1-7
 - サーバで設定できないコンポーネント (RTMT Collector および Alert Manager) 1-8
 - RTMT のアンインストール 1-8

CHAPTER 2

- RTMT でのシステム パフォーマンスのモニタリング 2-1**
 - RTMT でのパフォーマンス モニタリングについて 2-1
 - パフォーマンス モニタリング 2-1
 - システム概要ステータス 2-2
 - サーバステータス 2-2
 - システム概要とサーバステータスの表示およびモニタリング 2-4
 - Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の概要の表示およびモニタリング 2-6

CHAPTER 3

- RTMT での設定プロファイルおよびカテゴリの使用 3-1**
 - RTMT での設定プロファイルの管理方法 3-1
 - デフォルトの設定プロファイル 3-1
 - 設定プロファイルの追加 3-2
 - 設定プロファイルの復元 3-2
 - 設定プロファイルの削除 3-3
 - RTMT でのカテゴリの管理方法 3-3
 - カテゴリの追加 3-4
 - カテゴリの名前変更 3-4
 - カテゴリの削除 3-5

CHAPTER 4

- RTMT でのパフォーマンス カウンタの表示および設定 4-1**
 - RTMT でのパフォーマンス カウンタの表示方法 4-1
 - パフォーマンス カウンタの表示 4-2

パフォーマンス カウンタの拡大	4-4
RTMT でのパフォーマンス カウンタの管理方法	4-4
パフォーマンス カウンタの追加	4-4
パフォーマンス カウンタの削除	4-5
パフォーマンス モニタリング カウンタのポーリング レートの設定	4-6
カウンタ データの表示方法	4-6
カウンタの説明の表示	4-7
カウンタ データの表示	4-8
データ サンプルの表示	4-8
Perfmon カウンタからのデータをローカルに記録する方法	4-10
カウンタ ログの開始	4-10
カウンタ ログの停止	4-11
Troubleshooting Perfmon データ ロギング	4-12
Perfmon ログ ビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールでのログ ファイルの表示について	4-14
Perfmon ログ ビューアでのログ ファイルの表示	4-14
パフォーマンス ログ ビューアの拡大と縮小	4-16
Microsoft パフォーマンス ツールを使用した Perfmon ログ ファイルの表示	4-17
SysLog ビューアのログ ファイルについて	4-18

CHAPTER 5

アラートの使用 5-1

アラートについて	5-1
アラートのオプション	5-1
事前設定のアラート	5-2
アラートのフィールド	5-3
アラート ログ	5-5
Alert Central での作業	5-5
アラート プロパティの設定	5-7
アラート アクションの設定方法	5-10
アラート アクションの設定	5-10
アラート通知用電子メールの設定	5-12
トレース ダウンロードの有効化	5-12
Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止	5-14
Log Partition Monitoring の設定	5-15
ベスト プラクティス	5-16
コア ダンプに関するアラートの設定と関連ログの収集	5-16

CHAPTER 6

RTMT の Trace and Log Central の設定 6-1

- トレース収集について 6-1
 - トレース収集の時間帯と日付範囲 6-2
 - トレース収集のログ 6-2
- トレース収集の準備方法 6-3
 - 証明書のインポート 6-3
 - RTMT の Trace & Log Central オプションの表示 6-3
- トレースのサポートの種類について 6-4
 - RTMT の Trace & Log Central におけるディスク I/O と CPU 制御 6-4
 - トレース圧縮サポート 6-4
- トレース収集の設定方法 6-5
 - トレース ファイルの収集 6-5
 - インストール ログの収集 6-8
 - クエリー ウィザードの使用法 6-8
 - トレース収集のスケジュール方法 6-13
 - トレース収集ステータスの表示とスケジュールされた収集の削除 6-17
 - クラッシュ ダンプの収集 6-17
- ローカル ブラウズを使用した収集されたトレース ファイルの表示 6-20
- 収集されたトレース ファイルをリモート ブラウズで表示する方法 6-21
 - トレース収集属性の設定 6-21
 - トレース結果の表示 6-23
- リアルタイム トレースを使用してトレース ファイルを表示する方法 6-25
 - リアルタイム データの表示 6-25
 - ユーザ イベントのモニタリング 6-26
- RTMT のトレース設定の更新 6-29

APPENDIX A

システムのパフォーマンス オブジェクトとカウンタ A-1

- Cisco Tomcat Connector A-2
- Cisco Tomcat JVM A-4
- Cisco Tomcat Web Application A-5
- Database Change Notification Client A-6
- Database Change Notification Server A-6
- Database Change Notification Subscription A-7
- Database Local DSN A-7
- DB User Host Information Counters A-7
- Enterprise Replication DBSpace Monitors A-8
- Enterprise Replication Perfmon Counters A-8

IP A-8
Memory A-9
Network Interface A-11
Number of Replicates Created and State of Replication A-12
Partition A-13
Process A-13
Processor A-15
System A-15
TCP A-16
Threads A-17
AXL Web Service A-18
Ramfs A-18

APPENDIX B

Cisco Unified Presenceのパフォーマンス オブジェクトおよびカウンタ B-1

Cisco XCP B-1
Presence Engine B-5
プロキシ B-9
Client Profile Agent B-13

INDEX



CHAPTER 1

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のインストールおよび設定

- 「Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のインストールおよびアップグレード方法」 (P.1-1)
- 「サーバ上のサービス、サブレット、およびサービス パラメータ」 (P.1-5)
- 「RTMT のナビゲート方法」 (P.1-6)
- 「サーバで設定できないコンポーネント (RTMT Collector および Alert Manager)」 (P.1-8)
- 「RTMT のアンインストール」 (P.1-8)

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のインストールおよびアップグレード方法

Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool (RTMT) は、クライアント側のアプリケーションとして実行され、Cisco Unified Presence コンポーネントのリアルタイムの動作をモニタします。Real-Time Monitoring Tool では、Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) と Transmission Control Protocol (TCP) を使用して、システム パフォーマンス、デバイス ステータス、デバイス検出、および Cisco Unified Presence 対応のコンピュータ テレフォニー インテグレーション (CTI) アプリケーションをモニタします。RTMT は、HTTPS を使用して直接デバイスに接続し、システムの問題をトラブルシューティングします。



(注)

RTMT がデスクトップ上のアプリケーションとして動作していない場合でも、アラームやパフォーマンス モニタリングの更新などのタスクは、サーバ上でバックグラウンド処理として続行されます。

Real-Time Monitoring Tool では、次の作業を実行できます。

- システムの健全性をモニタするための、事前に定義された管理オブジェクトをモニタする。
- 値がユーザ設定のしきい値を超えるか下回ったときに、オブジェクトのさまざまなアラートを電子メール形式で生成する。
- トレースを収集し、RTMT に備わっているさまざまなデフォルト ビューアで表示する。
- SysLog ビューアで syslog メッセージを表示する。
- パフォーマンスモニタリング カウンタと連動する。
- 「RTMT のインストール」 (P.1-2)
- 「RTMT のアップグレード」 (P.1-3)

- 「RTMT の複数インストール」(P.1-4)

RTMT のインストール

RTMT は 800 × 600 以上の解像度に対応し、Windows 98、Windows XP、Windows 2000、または KDE クライアントか Gnome クライアント、あるいはその両方を使用する Red Hat Linux にインストールできます。

はじめる前に

- インストールする RTMT のバージョンに、クラスターで稼働している Cisco Unified Presence のバージョンとの互換性があることを確認してください。たとえば、Cisco Unified Presence 6.X をサポートする RTMT バージョンは Cisco Unified Presence 7.X をサポートしません。
- Microsoft Windows 搭載の Cisco Unified Presence サーバで使用するために以前に RTMT をインストールした場合は、ローカル コンピュータの別のフォルダに Cisco Unified Presence 用の RTMT をインストールする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. Microsoft Windows オペレーティング システム搭載のコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool-Windows に対応する [ダウンロード (Download)] を選択します。
 - b. Linux オペレーティング システム搭載のコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool-Linux に対応する [ダウンロード (Download)] を選択します。
- ステップ 4** 実行可能ファイルを任意の場所にダウンロードします。
- ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. Windows バージョンをインストールするには、デスクトップ上に表示される RTMT アイコンをダブルクリックするか、ファイルをダウンロードしたディレクトリを見つけて RTMT インストールファイルを実行します。抽出プロセスが開始されます。
 - b. Linux バージョンをインストールするには、ファイルに実行権限があることを確認します。たとえば、コマンド `chmod +x CcmServRtmtPlugin.bin` (大文字と小文字を区別) を入力します。
- ステップ 6** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 7** [はい (Yes)] を選択してライセンス契約書に同意します。
- ステップ 8** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. RTMT をインストールする場所を選択します。
 - b. デフォルトの場所を使用しない場合は、[参照 (Browse)] を選択して別の場所に移動します。[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 9** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 10** [完了 (Finish)] を選択して、インストールを完了します。
-

トラブルシューティングのヒント

- [セットアップ ステータス (Setup Status)] ウィンドウが表示されているときは、[キャンセル (Cancel)] を選択しないでください。
- Windows Vista コンピュータに RTMT をインストールする場合、ユーザ アカウント制御のポップアップ メッセージに、「認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求していません (An unidentified program wants to access your computer.)」と表示されます。[許可 (Allow)] を選択して RTMT の処理を続行します。

関連項目

『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』

RTMT のアップグレード

RTMT を使用すると、ユーザ設定とダウンロードしたモジュールの jar ファイルはクライアント コンピュータのローカルに保存されます。ユーザが作成したプロファイルは Cisco Unified Presence データベースに保存されるので、ツールをアップグレードした後は RTMT でそれらの項目にアクセスできます。

はじめる前に

互換性を確実にするため、クラスタ内のすべてのサーバで Cisco Unified Presence のアップグレードを行ってから RTMT をアップグレードすることを推奨します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a.** Microsoft Windows オペレーティング システム搭載のコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool-Windows に対応する [ダウンロード (Download)] を選択します。
 - b.** Linux オペレーティング システム搭載のコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool-Linux に対応する [ダウンロード (Download)] を選択します。
- ステップ 4** 実行可能ファイルを任意の場所にダウンロードします。
- ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。
 - a.** Windows バージョンをインストールするには、デスクトップ上に表示される RTMT アイコンをダブルクリックするか、ファイルをダウンロードしたディレクトリを見つけて RTMT インストール ファイルを実行します。抽出プロセスが開始されます。
 - b.** Linux バージョンをインストールするには、ファイルに実行権限があることを確認します。たとえば、コマンド `chmod +x CcmServRtmtPlugin.bin` (大文字と小文字を区別) を入力します。
- ステップ 6** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 7** アップグレードのインストールの場所を変更できないので、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 8** [完了 (Finish)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

[セットアップ ステータス (Setup Status)] ウィンドウが表示されているときは、[キャンセル (Cancel)] を選択しないでください。

関連項目

『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』

RTMT の複数インストール

コンピュータに単一の RTMT をインストールした場合、一度にモニタできるのは 1 台のサーバまたは 1 つのクラスタのみになります。たとえば、次のエンティティのいずれかをモニタできます。

- 1 台のサーバ上の Cisco Unified Presence 製品。
- クラスタの健全性をモニタするクラスタ内のノード。

異なるサーバまたはノードの製品をモニタするには、サーバまたはノードからログオフしてから、他のサーバにログインする必要があります。

コンピュータに複数の RTMT をインストールした場合、別々のサーバにインストールされている複数の Cisco Unified Presence 製品を同時にモニタできます。



(注) 次の制限事項に注意してください。

バージョンの異なる Cisco Unified Presence を同時に実行しているクラスタをモニタするには、RTMT の複数のバージョン (Cisco Unified Presence リリースごとに 1 つのバージョン) をインストールする必要があります。プラグインの複数のバージョンをインストールする場合、それらのバージョンが別々のフォルダに存在する限り、同一のクライアントにインストールできます。インストール時にフォルダ内に別のバージョンが検出されると、メッセージが表示されます。インストールを続行するには、そのバージョンを別のフォルダにインストールします。

1 台のコンピュータに複数の RTMT をインストールするときは、別々のフォルダにインストールする必要があります。1 台のコンピュータにインストールする RTMT は、4 つまでにすることを推奨します。

RTMT を追加インストールするとショートカット アイコンが上書きされるので、次の作業を実行してください。

1. 前のインストールの保存先フォルダにある `jrtmt.exe` へのショートカットを作成することによって、別のアイコンを作成します。
2. アイコンの名前を適宜変更します。

インストール時に選択したフォルダ内に別のバージョンが検出されると、メッセージが表示されます。インストールを続行するには、そのバージョンを別のフォルダにインストールします。



(注) コンピュータは、最後に終了した RTMT クライアントから IP アドレスや RTMT フレーム サイズなどのユーザ設定を保存します。

サーバ上のサービス、サーブレット、およびサービス パラメータ

RTMT クライアントをサポートするには、サーバ上で多数のサービスをアクティブにして、実行する必要があります。RTMT では、次のサービス/サーブレットを使用します。

- **Cisco AMC サービス** : このサービスは、インストール後に自動的に開始されます。このサービスによって、RTMT はクラスタ内のノードに存在する情報をリアルタイムで取得できます。**Cisco Unified Presence** は、最初のノードを自動的にプライマリ コレクタとして割り当てます。プライマリ コレクタに障害が発生しても、RTMT で引き続き情報を取得できるように、**Cisco Unified Presence** 管理ページのサービス パラメータで後続ノードをフェールオーバー コレクタとして設定する必要があります。

次のリストは、RTMT に関連付けられたいくつかの **Cisco AMC** サービス パラメータを示しています。パラメータの最新リストについては、**Cisco Unified Presence** 管理ページで [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。次に、サーバと **Cisco AMC** サービスを選択します。

- Primary Collector
- Failover Collector
- Data Collection Enabled
- Data Collection Polling Rate
- Server Synchronization Period
- RMI Registry Port Number
- RMI Object Port Number
- Alert Manager Enabled
- Logger Enabled

これらのサービス パラメータの詳細については、**Cisco Unified Presence** 管理ページの [サービス パラメータ設定 (Service Parameter configuration)] に表示される [?] ボタンを選択してください。

次のリストは、RTMT に関連付けられたいくつかのネットワーク サービス/サーブレットを示しています。**Cisco Unified Serviceability** で [ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択すると、これらのサービスが表示されます。

- **Cisco CallManager Serviceability RTMT** : **Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool** をサポートします。このサービスは、インストール後に自動的に開始されます。
- **Cisco RIS Data Collector** : **Real-time Information Server (RIS)** は、パフォーマンス カウンタ統計、生成された重大アラームなどの情報をリアルタイムで保持します。**Cisco RIS Data Collector** サービスは、**Real-Time Monitoring Tool**、**SOAP** アプリケーション、および **AlertMgrCollector (AMC)** などのアプリケーションに対して、サーバに保存された情報を取得するためのインターフェイスを提供します。
- **Cisco Tomcat Stats Servlet** : **Cisco Tomcat Stats Servlet** では、RTMT またはコマンドライン インターフェイスを使用することで、**Tomcat perfmon** カウンタをモニタできます。このサービスが CPU 時間などのリソースを過剰に使用していると思われる場合以外は、このサービスを停止しないでください。
- **Cisco Trace Collection Servlet** : **Cisco Trace Collection Servlet** は **Cisco Trace Collection Service** と連携してトレース収集をサポートし、ユーザが RTMT クライアントでトレースを表示できるようにします。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバ上のトレースは収集または表示ができなくなります。

- Cisco Trace Collection Service : Cisco Trace Collection Service は Cisco Trace Collection Servlet と連携してトレース収集をサポートし、ユーザが RTMT クライアントでトレースを表示できるようにします。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバ上のトレースは収集または表示ができなくなります。
- Cisco Log Partition Monitoring Tool : このサービスはインストール後に自動的に開始され、サーバ上のログパーティションのディスク使用量をモニタします。
- Cisco SOAP-Real-Time Service APIs : Cisco SOAP-Real-Time Service APIs は、インストール後に自動的に開始され、RTMT でデバイスや CTI アプリケーションの情報をリアルタイムで収集できるようにします。
- Cisco SOAP-Performance Monitoring APIs : このサービスはインストール後に自動的に開始され、SOAP API を介したさまざまなアプリケーションのパフォーマンス モニタリング カウンタを RTMT で使用できるようにします。
- Cisco RTMT Reporter サブレット : このサービスはインストール後に自動的に開始され、RTMT に関するレポートの公開を可能にします。

RTMT のナビゲート方法

- 「RTMT の起動」 (P.1-6)
- 「RTMT インターフェイス」 (P.1-7)

RTMT の起動

はじめる前に

Cisco AMC サービスは、インストール後に自動的に開始されます。Cisco Unified Presence は、最初のノードを自動的にプライマリ コレクタとして割り当てます。プライマリ コレクタに障害が発生しても、RTMT で引き続き情報を取得できるよう、Cisco Unified Presence 管理ページで後続ノードをフェールオーバー コレクタとして設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** プラグインをインストールした後、[スタート (Start)] > [すべてのプログラム (All Programs)] > [Cisco] > [Presence Serviceability] > [Real-Time Monitoring Tool 8.5] を選択します。
- ステップ 2** [ホスト IP アドレス (Host IP Address)] フィールドに、パブリッシャ ノードの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ステップ 3** [ユーザ名 (User Name)] フィールドに CCMAdministrator アプリケーション ユーザのユーザ名を入力します。たとえば、このユーザのデフォルト ユーザ名は **CCMAdministrator** です。
- ステップ 4** [パスワード (Password)] フィールドに、CCMAdministrator アプリケーションのユーザ名に対して設定されたユーザ パスワードを入力します。
- ステップ 5** アプリケーションでサーバのリッスンに使用するポートを入力します。デフォルト ポート番号は、8443 です。
- ステップ 6** [セキュア接続 (Secure connection)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [OK] を選択します。
- ステップ 8** [はい (Yes)] を選択して、証明書ストアを追加します。
-

トラブルシューティングのヒント

- Windows Vista オペレーティング システム搭載のコンピュータで RTMT を使用する場合、ユーザアカウント制御のポップアップ メッセージに、「認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています (An unidentified program wants to access your computer.)」と表示されます。[許可 (Allow)] を選択して RTMT の処理を続行します。
- ユーザ名とパスワードの認証に失敗した場合、またはサーバが到達不能である場合、サーバと認証詳細の再入力を求めるプロンプトが表示されます。[キャンセル (Cancel)] を選択してアプリケーションを終了することもできます。
- 認証に成功すると、RTMT はローカル キャッシュから、またはバックエンドの Cisco Unified Presence バージョンに一致するモニタリング モジュールがローカル キャッシュに含まれていない場合にはリモート ノードから、モニタリング モジュールを起動します。

RTMT インターフェイス

[RTMT] ウィンドウは、次のメイン コンポーネントで構成されます。

- メニュー バー：次のメニュー オプションが含まれています。
 - [ファイル (File)]：既存の RTMT プロファイルの保存、復元、削除、Java ヒープ メモリ使用量のモニタリング、証明書の管理、Cisco Unified Reporting Tool へのアクセス、Cisco Unified Serviceability の [サービスアビリティ レポートのアーカイブ (Serviceability Report Archive)] ウィンドウへの移動、および RTMT からのログオフまたは終了を可能にします。
 - [システム (System)]：システム概要のモニタリング、サーバリソースのモニタリング、パフォーマンスカウンタの使用、アラートの使用、トレースの収集、syslog メッセージの表示、およびプラグインへのアクセスを可能にします。
 - [CUP]：サーバ上の Cisco Unified Presence および Cisco Jabber の要約情報の表示を可能にします。
 - [編集 (Edit)]：カテゴリの設定 (表形式用)、デバイスとパフォーマンス モニタリング カウンタに対するポーリング レートの設定、クリック起動チャネルの非表示化、および RTMT のトレース設定の編集を可能にします。
 - [ウィンドウ (Window)]：1 つの RTMT ウィンドウまたはすべての RTMT ウィンドウを閉じる操作を可能にします。
 - [アプリケーション (Application)]：管理およびサービスアビリティの Web ページ参照とダウンロードする RTMT プラグインへのアクセスを可能にします。
 - [ヘルプ (Help)]：RTMT のマニュアルおよびオンライン ヘルプへのアクセスと RTMT バージョンの表示を可能にします。
- クイック起動チャネル：[RTMT] ウィンドウの左側にあるペインです。タブを選択し、サーバの情報やアプリケーションの情報を表示できます。タブには複数のアイコンがあり、これらのアイコンを選択して各種のオブジェクトをモニタできます。
- モニタ ペイン：[RTMT] ウィンドウの右側にあるペインです。モニタリング結果が表示されます。

サーバで設定できないコンポーネント (RTMT Collector および Alert Manager)

RTMT Collector コンポーネントは、アプリケーションとともに自動的にインストールされます。同じく自動的にインストールされる Alert Manager がアラート履歴をログ ファイルに記録するのに対し、RTMT Collector は事前設定されたモニタリング オブジェクトの情報をログに記録します。

また、重要な perfmon オブジェクト値はパフォーマンス ログ ファイルに記録されます。



ヒント

実行が必要な設定タスクはありませんが、RTMT Collector および Alert Manager は冗長性をサポートします。プライマリ コレクタまたはマネージャに何らかの障害が発生した場合でも、プライマリ サポートが可能になるまで、セカンダリ コレクタおよびマネージャがタスクを実行します。RTMT Collector および Alert Manager は、パフォーマンスへの影響を最小限にするために最初のノードで実行されます。

RTMT のアンインストール

RTMT を使用すると、ユーザ設定とモジュールの jar ファイル (キャッシュ) はクライアント コンピュータのローカルに保存されます。また、キャッシュはサーバ データベースに保存されます。RTMT をアンインストールする際は、キャッシュを削除するか、または保存するかを選択します。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行して、RTMT をアンインストールします。
- a. [スタート (Start)] > [すべてのプログラム (All Programs)] > [Cisco] > [Presence Serviceability] > [Real-Time Monitoring Tool 8.5 のアンインストール (Uninstall Real-Time Monitoring Tool 8.5)] を選択します。
 - b. KDE クライアントか Gnome クライアント、またはその両方を使用する Red Hat Linux で [スタート (Start)] > [アクセサリ (Accessories)] > [Real-time Monitoring Tool のアンインストール (Uninstall Real-time Monitoring tool)] を選択します。
- ステップ 2** プラグインのアンインストールを終了します。

トラブルシューティングのヒント

- Windows Vista コンピュータで RTMT をアンインストールする場合、ユーザ アカウント制御のポップアップ メッセージに、「認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています (An unidentified program wants to access your computer.)」と表示されます。[許可 (Allow)] を選択して RTMT の処理を続行します。



CHAPTER 2

RTMT でのシステム パフォーマンスのモニタリング

- 「RTMT でのパフォーマンス モニタリングについて」 (P.2-1)
- 「システム概要とサーバ ステータスの表示およびモニタリング」 (P.2-4)
- 「Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の概要の表示およびモニタリング」 (P.2-6)

RTMT でのパフォーマンス モニタリングについて

- 「パフォーマンス モニタリング」 (P.2-1)
- 「システム概要ステータス」 (P.2-2)
- 「サーバ ステータス」 (P.2-2)

パフォーマンス モニタリング

Real-Time Monitoring Tool は、Cisco Unified Presence Administration および Serviceability ソフトウェアと統合されます。RTMT は、すべての Cisco Unified Presence コンポーネントのパフォーマンス情報を表示します。RTMT はパフォーマンスのトラブルシューティングを実行するためにアラート通知を行います。また、パフォーマンス カウンタを定期的にポーリングして、そのカウンタのデータを表示します。perfmon カウンタをチャート形式または表形式で表示できます。

perfmon モニタリングでは、次のタスクを実行できます。

- クラスタ内のすべての Cisco Unified Presence ノードおよびデータベース サーバを含めてパフォーマンス カウンタをモニタする。
- 一連の事前設定されたオブジェクトを継続的にモニタし、電子メールのメッセージ形式で通知を受信する。
- カウンタのしきい値設定をアラート通知に関連付ける。電子メールまたはポップアップ メッセージによる通知が管理者に送信されます。
- カスタマイズされたトラブルシューティング タスクのために、モニタされているカウンタ、しきい値設定、アラート通知などの設定を保存して復元する。
- 1 つのパフォーマンス比較図で、最大 6 つの perfmon カウンタを表示する。

Real-Time Monitoring Tool は、パフォーマンス カウンタをチャート形式または表形式で表示します。チャート形式では、小型の情報ウィンドウが表示されます。作成する各カテゴリ タブに対して、最大 6 つのチャートが [RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT performance monitoring)] ペインに表

示されます。[perfmon モニタリング (perfmon monitoring)] ペイン内のカウンタをダブルクリックすることで、特定のカウンタを表示できます。チャート ビューがデフォルトになっているため、カテゴリ タブを作成するときは、パフォーマンス カウンタを表形式で表示するように設定します。

カウンタ チャート (表エントリ) は、[システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] メニューにある [チャート/表エントリの削除 (Remove Chart/TableEntry)] メニュー項目を使用して削除できます。



ヒント

事前設定された各モニタリング ウィンドウのポーリング レートは固定されたままであり、デフォルト値で 30 秒が指定されます。AMC (Alert Manager and Collector) サービス パラメータの収集レートが変化すると、事前に準備されたウィンドウのポーリング レートも更新されます。また、各チャート内のタイム スタンプは、バックエンド サーバの時刻ではなく、RTMT クライアント アプリケーションのローカル時刻に基づきます。

関連項目

[「カウンタの説明の表示」 \(P.4-7\)](#)

システム概要ステータス

Real-Time Monitoring Tool は、システムの健全性をモニタするのに役立つ一連のデフォルト モニタリング オブジェクトを提供します。デフォルト オブジェクトには、システムおよびサポートされているその他のサービスに関するパフォーマンス カウンタや重要イベント ステータスなどがあります。

RTMT のシステム概要により、重要な共通情報を単一のモニタリング ペインでモニタできます。システム概要では、次の事前に定義されたオブジェクトに関する情報を表示できます。

- 仮想メモリの使用率
- CPU 使用率
- 共通パーティションの使用率
- アラート履歴のログ

サーバステータス

サーバ カテゴリでは、サーバ上のさまざまなアプリケーションについて CPU とメモリの使用率、プロセス、ディスク領域の使用率、および重要なサービスがモニタされます。

CPU とメモリのモニタでは、各サーバ上での CPU の使用率と仮想メモリの使用率に関する情報が提供されます。サーバ上の各 CPU の情報には、各プロセッサがさまざまなモードおよび動作 (User、Nice、System、Idle、IRQ、SoftIRQ、および IOWait) でプロセスを実行するのに費やした時間の比率が含まれます。この CPU の比率は、アイドル時間を除いたすべてのモードおよび動作で実行に費やされた時間の合計になります。メモリの情報には、キロバイト単位での合計メモリ、使用メモリ、空きメモリ、共有メモリ、バッファメモリ、キャッシュされたメモリ、合計スワップメモリ、使用スワップメモリ、空きスワップメモリが含まれ、使用中の仮想メモリの比率も含まれます。

プロセス モニタでは、システム上で実行しているプロセスに関する情報が提供されます。RTMT は、各プロセスについて、プロセス ID (PID)、CPU 使用率、ステータス、共有メモリ (KB)、Nice (レベル)、VmRSS (KB)、VmSize (KB)、VmData (KB)、スレッド数、ページフォールト数、およびデータスタック サイズ (KB) を表示します。

ディスク使用率モニタリング カテゴリでは、共通パーティションとスワップパーティションのディスク使用量の比率がチャートで示されます。また、各ホストでの各パーティション (アクティブ、ブート、共通、非アクティブ、スワップ、共有メモリ) のディスク使用量の比率も表示されます。

重要なサービス モニタリング カテゴリでは、次の情報が提供されます。

- 重要なサービスの名前
- 重要なサービスのステータス（アップ、ダウン、アクティブ、管理者によって停止されている、起動中、停止中、または不明な状態）
- サービスがシステム上でアップ状態になり、動作している間の経過時間

各状態の具体的な説明については、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 重要なサービスのステータス

重要なサービスのステータス	説明
起動中 (starting)	現在、サービスが起動モードになっています。[重要なサービス (Critical Services)] ペインおよび Cisco Unified Serviceability の [コントロール センター (Control Center)] で示されます。
アップ (up)	現在、サービスが動作しています。[重要なサービス (Critical Services)] ペインおよび Cisco Unified Serviceability の [コントロール センター (Control Center)] で示されます。
停止中 (stopping)	現在、サービスが停止中です。[重要なサービス (Critical Services)] ペインおよび Cisco Unified Serviceability の [コントロール センター (Control Center)] で示されます。
ダウン (down)	予期せずに（つまり、サービスを停止するタスクを実行していないのに）サービスが実行を停止しました。[重要なサービス (Critical Services)] ペインにサービスがダウン状態であることが示されます。 サービス ステータスがダウンになると、CriticalServiceDown アラートが生成されます。
管理者によって停止されている (stopped by Admin)	サービスを意図的に停止するタスクを実行しました。たとえば、Cisco Unified Presence をバックアップまたは復元した、アップグレードを実行した、Cisco Unified Serviceability またはコマンドライン インターフェイス (CLI) でサービスを停止したなどの理由によってサービスが停止しました。 [重要なサービス (Critical Services)] ペインにこのステータスが示されます。
アクティブにされていない (not activated)	現在、サービスは、アクティブにされたステータスになっていません。[重要なサービス (Critical Services)] ペインおよび Cisco Unified Serviceability の [サービスの開始 (Service Activation)] で示されます。
不明ステータス (Unknown Status)	システムがサービスの状態を判別できません。[重要なサービス (Critical Services)] ペインで示されます。

システム概要とサーバステータスの表示およびモニタリング

Real-Time Monitoring Tool では、クイック起動チャンネルで [システム (System)] を選択するか、[システム (System)] > [システム概要 (System Summary)] を選択すると、事前に定義されたシステムオブジェクトに関する情報がモニタリング ペインに表示されます。サーバ関連の情報をモニタリング ペインに表示するには、クイック起動チャンネルで [サーバ (Server)] を選択するか、[システム (System)] > [サーバ (Server)] > <predefined object of choice> を選択します。Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の全体的なパフォーマンスに関する情報を表示するには、クイック起動チャンネルで [CUP] を選択するか、[CUP] > [CUP 概要/Cisco Jabber 概要 (CUP Summary/Cisco Jabber Summary)] を選択します。

はじめる前に

RTMT でパフォーマンス モニタリングに関する情報を確認します。

表 2-2 に、RTMT でモニタされる事前に定義されたオブジェクトに関する情報を示します。

表 2-2 システム カテゴリ

カテゴリ	説明
システム概要	<p>仮想メモリの使用率、CPU 使用率、共通パーティションの使用率、およびアラート履歴のログに関する情報を表示します。</p> <p>事前に定義されたシステム オブジェクトに関する情報を表示するには、[システム (System)] > [システム概要 (System Summary)] を選択します。</p>
サーバ	<ul style="list-style-type: none"> [CPU とメモリ (CPU and Memory)] : サーバの CPU 使用率と仮想メモリの使用率に関する情報を表示します。 CPU と仮想メモリの使用率に関する情報を表示するには、[システム (System)] > [サーバ (Server)] > [CPU とメモリ (CPU and Memory)] を選択します。特定のサーバに対して CPU とメモリの使用率をモニタするには、そのサーバを [ホスト (Host)] リストボックスから選択します。 [プロセス (Process)] : サーバ上で実行中のプロセスに関する情報を表示します。 システム上で実行中のプロセスに関する情報を表示するには、[システム (System)] > [サーバ (Server)] > [プロセス (Process)] を選択します。特定のサーバに対してプロセスの使用率をモニタするには、そのサーバを [ホスト (Host)] リストボックスから選択します。 [ディスク使用率 (Disk Usage)] : サーバ上のディスク使用率に関する情報を表示します。 システム上のディスク使用率に関する情報を表示するには、[システム (System)] > [サーバ (Server)] > [ディスク使用率 (Disk Usage)] を選択します。特定のサーバに対してディスク使用率をモニタするには、そのサーバを [ホスト (Host)] リストボックスから選択します。 [重要なサービス (Critical Services)] : 重要なサービスの名前、ステータス (アップ、ダウン、アクティブ、管理者によって停止されている、起動中、停止中、または不明な状態)、およびそのサービスが特定の Cisco Unified Communications ノードで特定の状態に入ってから経過時間を表示します。 重要なサービスに関する情報を表示するには、[システム (System)] > [サーバ (Server)] > [重要なサービス (Critical Services)] を選択します。システムの重要なサービスを表示するには、システムのタブを選択します。特定のサーバに対して重要なサービスをモニタするには、そのサーバを [ホスト (Host)] リストボックスから選択し、対象となる重要なサービスのタブを選択します。 重要なサービスのステータスで管理者によるサービスの停止が示されている場合、管理者が、サービスを意図的に停止するタスクを実行しました。たとえば、Cisco Unified Communications Manager をバックアップまたは復元した、アップグレードを実行した、Cisco Unified CallManager Serviceability またはコマンドライン インターフェイス (CLI) でサービスを停止したなどの理由によってサービスが停止しました。 重要なサービスのステータスが不明な状態として表示されている場合、システムは、サービスの状態を判別できていません。 重要なサービスの状態の詳細については、「サーバステータス」(P.2-2) を参照してください。

トラブルシューティングのヒント

事前に定義されたオブジェクトのモニタを拡大するには、対象となるチャートの領域上でマウスの左ボタンを押し、ドラッグします。必要な領域を選択してから、マウスの左ボタンを放します。RTMT によってモニタ対象のビューが更新されます。モニタを縮小して初期のデフォルト ビューにリセットするには、R キーを押します。

関連項目

- 「Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の概要の表示およびモニタリング」 (P.2-6)
- 「RTMT でのパフォーマンス モニタリングについて」 (P.2-1)

Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の概要の表示およびモニタリング

Real-Time Monitoring Tool は、Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の全体的なパフォーマンスをモニタするのに役立つ一連の重要なパフォーマンス カウンタを提供します。RTMT の Cisco Unified Presence 概要と Cisco Jabber 概要により、重要な共通情報を単一のモニタリング ペインでモニタできます。

Cisco Unified Presence と Cisco Jabber の全体的なパフォーマンスを反映している重要なパフォーマンス カウンタに関する情報を表示するには、[CUP] > [CUP 概要 (CUP Summary)] または [CUP] > [Cisco Jabber 概要 (Cisco Jabber Summary)] を選択します。

[CUP 概要 (CUP Summary)] では、次の情報を確認できます。

Cisco Unified Presence Release 8.6(2) 以前の場合

- Presence Engine のアクティブなサブスクリプション (Presence Engine Active Subscriptions)
- プロキシ SIP メッセージ要求の入力 (Proxy SIP Message Requests In)
- IPPM メッセージ要求の出力 (IPPM Message Requests Out)
- プロキシ SIP 要求の入力 (Proxy SIP Requests In)
- プロキシ SIP サブスクライブ要求の入力 (Proxy SIP Subscribe Requests In)
- JVM 仮想メモリ (JVM Virtual Memory)

Cisco Unified Presence Release 8.6(3) 以降の場合

- PE アクティブ JSM セッション (PE Active JSM Sessions)
- XCP JSM IM セッション (XCP JSM IM Sessions)
- 処理された IM の合計 (Total IMs Handled)
- 現在接続されている XMPP クライアント (Current XMPP Clients Connected)
- アドホック チャット ルームの合計 (Total Ad hoc Chat Rooms)
- 永続的なチャット ルームの合計 (Total Persistent Chat Rooms)

[Cisco Jabber 概要 (Cisco Jabber Summary)] では、次の情報を確認できます。

- クライアント Soap インターフェイス (Client Soap interface)
- SIP クライアントの登録ユーザ (SIP Client Registered Users)
- SIP クライアントの登録ユーザ エラー (SIP Client Registered User Failures)
- SIP クライアントの IM メッセージ (SIP Client IM Messages)



CHAPTER 3

RTMT での設定プロファイルおよびカテゴリの使用

- 「RTMT での設定プロファイルの管理方法」 (P.3-1)
- 「RTMT でのカテゴリの管理方法」 (P.3-3)

RTMT での設定プロファイルの管理方法

- 「デフォルトの設定プロファイル」 (P.3-1)
- 「設定プロファイルの追加」 (P.3-2)
- 「設定プロファイルの復元」 (P.3-2)
- 「設定プロファイルの削除」 (P.3-3)

デフォルトの設定プロファイル

RTMT を使用して、Cisco Unified Presence クラスタ内の任意のノードに接続できます。ノードにログインすると、RTMT はローカル キャッシュから、またはバックエンドバージョンに一致するモニタリング モジュールがローカル キャッシュに含まれていない場合はリモート ノードから、モニタリング モジュールを起動します。

RTMT には、Default と呼ばれるデフォルト設定があります。初めて RTMT を使用するときは、Default プロファイルが使用され、モニタ ペインにシステム サマリー ページが表示されます。

また、Default プロファイルはすべての Cisco Unified Presence ノードに登録されているすべてのデバイスを動的にモニタします。Cisco Unified Presence で設定されたノードがクラスタ内に 5 つあるとすると、Default にはクラスタ内の各ノードに登録されたすべてのデバイスのほか、アクティブなゲートウェイ ポートおよびチャネルが表示されます。

各機能のさまざまなパフォーマンス カウンタなど、関心のある情報が RTMT のモニタ ペインに表示されるように RTMT を設定し、設定のフレームワークをプロファイルに保存することができます。保存したプロファイルは、同一セッション中や、次に RTMT ログインするときに復元できます。各プロファイルには固有の情報が表示されるので、複数のプロファイルを作成し、プロファイルを切り替えることで、さまざまな情報をすばやく表示できます。

設定プロファイルの追加

RTMT で複数のモニタリング ウィンドウ（CPU とメモリ、およびパフォーマンス カウンタなど）を開いた後は、独自の設定プロファイルを作成することで、各ウィンドウを再び開くのではなく、それらのモニタリング ウィンドウの設定をワンステップで復元できます。同一の RTMT セッション中に別のプロファイルに切り替えたり、後続の RTMT セッションで設定プロファイルを使用したりすることができます。

はじめる前に

最初に RTMT をロードするときに、Default と呼ばれるデフォルトプロファイルが含まれます。初めて RTMT を使用するときは、この Default プロファイルが使用され、モニタ ペインにサマリー ページが表示されます。

手順

-
- ステップ 1 [ファイル (File)] > [プロファイル (Profile)] を選択します。
 - ステップ 2 [保存 (Save)] を選択します。
 - ステップ 3 [設定名 (Configuration name)] フィールドに、この特定の設定プロファイルの名前を入力します。
 - ステップ 4 [設定の説明 (Configuration description)] フィールドに、この特定の設定プロファイルの説明を入力します。
 - ステップ 5 [OK] を選択します。
 - ステップ 6 [閉じる (Close)] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

- 設定プロファイルの名前と説明に関しては、任意の情報を入力できます。
- プロファイルはクラスタ内のすべてのノードに適用されますが、別のクラスタに保存し、適用することはできません。

関連項目

[「デフォルトの設定プロファイル」 \(P.3-1\)](#)

設定プロファイルの復元

手順

-
- ステップ 1 [ファイル (File)] > [プロファイル (Profile)] を選択します。
 - ステップ 2 復元するプロファイルを選択します。
 - ステップ 3 [復元 (Restore)] を選択します。
-

設定プロファイルの削除

手順

- ステップ 1 [ファイル (File)] > [プロファイル (Profile)] を選択します。
- ステップ 2 削除するプロファイルを選択します。
- ステップ 3 [削除 (Delete)] を選択します。
- ステップ 4 [閉じる (Close)] を選択します。

RTMT でのカテゴリの管理方法

カテゴリを使用して、パフォーマンス モニタリング クラスタやデバイスなどの RTMT 内のオブジェクトを整理できます。たとえば、Cisco UP SIP Proxy というカテゴリを使用して、SIP プロキシに関するパフォーマンスモニタリング カウンタをチャート形式でモニタできます。さらに多くのカウンタをモニタする場合は、新しいカテゴリを設定し、データを表形式で表示できます。

カテゴリは、モニタするパフォーマンス カウンタのグループで構成されます。RTMT モニタリング ペインのタブには、カテゴリ名が記されます。このタブ内のモニタ対象のパフォーマンス カウンタはすべて 1 つのカテゴリに属します。システムは、タブ内のパフォーマンス カウンタに対して同じレートでポーリングを行います。各カテゴリは、独自のポーリング レートを持つように設定されています。

電話やゲートウェイなど、さまざまなデバイスの検索を実行する場合は、検索ごとにカテゴリを作成し、その結果をカテゴリに保存できます。

RTMT モニタリング ペインでカスタム カテゴリを作成し、特定のパフォーマンス、システム、またはデバイスに関する問題のトラブルシューティングに役立つ情報を表示できます。特定のオブジェクトに関するパフォーマンス上の問題が発生している場合は、カスタム カテゴリを作成して、そのオブジェクト内のカウンタのパフォーマンスをモニタできます。特定のデバイスに関する問題が発生している場合は、カスタム カテゴリを作成して、システム内のデバイスをモニタできます。また、これらのカスタム カテゴリにカウンタおよびゲートウェイに関するアラート通知を作成できます。カスタム カテゴリを作成するには、新規のカテゴリ タブを追加します。タブを作成したら、そのタブ内で特定のパフォーマンス カウンタ、デバイス、およびアラートを指定し、プロファイルを使用してカスタム カテゴリを保存します。

- 「カテゴリの追加」(P.3-4)
- 「カテゴリの名前変更」(P.3-4)
- 「カテゴリの削除」(P.3-5)

カテゴリの追加

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - b. [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** [編集 (Edit)] > [新規カテゴリ (New Category)] を選択します。
- ステップ 3** [入力 (Input)] ダイアログボックスにカテゴリの名前を入力します。
- ステップ 4** [OK] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

カテゴリのパフォーマンス カウンタを表形式で表示するには、[データを表形式で表示する (Present Data in Table View)] チェックボックスをオンにする必要があります。

カテゴリの名前変更

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - b. [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- 名前を変更するカテゴリ タブを選択し、[編集 (Edit)] > [カテゴリの名前変更 (Rename Category)] を選択します。
 - 名前を変更するカテゴリ タブを右クリックし、[カテゴリの名前変更 (Rename Category)] を選択します。
- ステップ 3** [入力 (Input)] ダイアログボックスに新しい名前を入力します。
- ステップ 4** [OK] を選択します。
-

カテゴリの削除

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- a. クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
- b. [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- 削除するカテゴリ タブを選択し、[編集 (Edit)] > [カテゴリの削除 (Delete Category)] を選択します。
 - 名前を変更するカテゴリ タブを右クリックし、[カテゴリの削除 (Remove Category)] を選択します。
-



CHAPTER 4

RTMT でのパフォーマンス カウンタの表示および設定

Cisco Unified Presence は、パフォーマンス カウンタ（PerfMon カウンタと呼ばれる）を直接更新しません。カウンタは、アクティブ化されたサブスクリプションの数や、処理される PUBLISH メッセージの数などの単純で有益な情報を示します。

RTMT を使用して任意のオブジェクトのカウンタを選択することで、システムのコンポーネントとシステム上のアプリケーションのコンポーネントのパフォーマンスをモニタできます。各オブジェクトのカウンタは、フォルダを展開すると表示されます。

コンピュータで perfmon カウンタをローカルに記録し、RTMT でパフォーマンス ログ ビューアを使用して、収集した perfmon CSV ログ ファイルまたは Realtime Information Server Data Collection (RISDC) の perfmon ログを表示することができます。

Troubleshooting perfmon データ ログギングを有効にして、システム状態の総合的な情報を示す一連の perfmon カウンタから自動的に統計情報を収集することもできます。Troubleshooting perfmon データ ログギングを有効にすると、サーバ上のシステム パフォーマンスが影響を受ける場合があることに注意してください。

- [「RTMT でのパフォーマンス カウンタの表示方法」 \(P.4-1\)](#)
- [「RTMT でのパフォーマンス カウンタの管理方法」 \(P.4-4\)](#)
- [「カウンタ データの表示方法」 \(P.4-6\)](#)
- [「Perfmon カウンタからのデータをローカルに記録する方法」 \(P.4-10\)](#)
- [「Troubleshooting Perfmon データ ログギング」 \(P.4-12\)](#)
- [「Perfmon ログ ビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールでのログ ファイルの表示について」 \(P.4-14\)](#)
- [「SysLog ビューアのログ ファイルについて」 \(P.4-18\)](#)

RTMT でのパフォーマンス カウンタの表示方法

Real-Time Monitoring Tool は、perfmon カウンタをチャート形式または表形式で表示します。チャート形式では、perfmon カウンタ情報が折れ線グラフを使用して表示されます。作成した各カテゴリ タブの [RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインに最大 6 つのチャートを表示でき、1 つのチャートに最大 3 つのカウンタを表示できます。

デフォルトでは、perfmon カウンタはチャート形式で表示されます。また、perfmon カウンタを表形式で表示するように選択することもできます。perfmon カウンタを表形式で表示するには、新しいカテゴリを作成するときに [データを表形式で表示する (Present Data in Table View)] チェックボックスをオンにする必要があります。

機能ベースのカウンタのセットを表示し、1つのカテゴリに保存するように、perfmon カウンタを整理できます。RTMT プロファイルを保存した後は、関心のあるカウンタにすばやくアクセスできます。カテゴリを作成した後で、チャート形式から表形式に、またはその逆に表示を変更することはできません。

- 「パフォーマンスカウンタの表示」(P.4-2)
- 「パフォーマンスカウンタの拡大」(P.4-4)

パフォーマンスカウンタの表示

はじめる前に

パフォーマンスカウンタの表示に関する情報を参照してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
- [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。

ステップ 2 モニタするカウンタを追加するサーバの名前を選択します。

ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。

ステップ 3 次の1つまたは複数の操作を実行します。

目的	アクション
カウンタを表形式で表示する	<ol style="list-style-type: none"> a. [編集 (Edit)] > [新規カテゴリ (New Category)] を選択します。 b. [名前を入力 (Enter Name)] フィールドにタブの名前を入力します。 c. [データを表形式で表示する (Present Data in Table View)] チェックボックスをオンにして、perfmon カウンタを表形式で表示します。 d. [OK] を選択します。 e. モニタするカウンタを示すオブジェクト名の横のファイルアイコンを選択します。
カウンタをチャート形式で表示する	<ol style="list-style-type: none"> a. モニタするカウンタを示すオブジェクト名の横のファイルアイコンを選択します。ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。 b. カウンタ情報を表示するには、次のいずれかの作業を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • カウンタを右クリックし、[カウンタ モニタリング (Counter Monitoring)] を選択します。 • カウンタをダブルクリックします。 • [RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインにカウンタをドラッグアンドドロップします。

トラブルシューティングのヒント

- [RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインでは、1つのチャートに最大3つのカウンタを表示できます。チャートに別のカウンタを追加するには、カウンタを選択して [RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインにドラッグします。この操作を繰り返して、最大3つまでカウンタを追加します。
- カウンタを表形式で表示した後にチャート形式で表示するには、カテゴリ タブを右クリックして [カテゴリの削除 (Remove Category)] を選択し、新しいカテゴリを作成します。このとき、[データを表形式で表示する (Present Data in Table View)] が選択されていないことを確認し、カウンタをチャート形式で表示する手順 (前述の **ステップ 3**) を実行します。

関連項目

- 「カテゴリの追加」(P.3-4)
- 付録 B 「Cisco Unified Presence のパフォーマンス オブジェクトおよびカウンタ」

パフォーマンス カウンタの拡大

perfmon カウンタがよく見えるようにするには、[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインで perfmon モニタ カウンタを拡大します。

はじめる前に

必要なカウンタを表示します。

手順

-
- ステップ 1** [RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT Performance Monitoring)] ペインで、次のいずれかの操作を実行します。
- 拡大するカウンタをダブルクリックします。
 - 拡大するカウンタを選択し、[システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [チャートの拡大 (Zoom Chart)] を選択します。
- ステップ 2** [OK] を選択してウィンドウを閉じます。
-

トラブルシューティングのヒント

最小、最大、平均、および最終の各フィールドに、そのカウンタに対するモニタリングが開始されてからの値が表示されます。

関連項目

[「パフォーマンス カウンタの表示」 \(P.4-2\)](#)

RTMT でのパフォーマンス カウンタの管理方法

- [「パフォーマンス カウンタの追加」 \(P.4-4\)](#)
- [「パフォーマンス カウンタの削除」 \(P.4-5\)](#)
- [「パフォーマンス モニタリング カウンタのポーリング レートの設定」 \(P.4-6\)](#)

パフォーマンス カウンタの追加

システム パフォーマンスの問題をトラブルシューティングするには、perfmon オブジェクトに関連付けられたカウンタを [RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT performance monitoring)] ペインに追加し、カウンタに関するチャートを表示します。

はじめる前に

カウンタを追加する前に、カテゴリに関する情報を参照してください。カテゴリ タブには、最大 6 つの perfmon カウンタ チャートが含まれます。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** モニタするカウンタを追加するサーバの名前を選択します。
ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行して、パフォーマンス モニタリング カウンタを表示します。
- パフォーマンス モニタリングのツリー階層で、パフォーマンス モニタリング カウンタをダブルクリックします。
 - パフォーマンス モニタリングのツリー階層でパフォーマンス モニタリング カウンタを右クリックし、[カウンタ モニタリング (Counter Monitoring)] を選択します。
-

関連項目

- [「カテゴリの追加」 \(P.3-4\)](#)
- [「パフォーマンスカウンタの表示」 \(P.4-2\)](#)

パフォーマンスカウンタの削除

不要になったカウンタは、[RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT Performance Monitoring)] ペインから削除できます。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行して、パフォーマンス モニタリング カウンタを表示します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- 削除するカウンタを右クリックし、[削除 (Remove)] を選択します。
 - 削除するカウンタを選択し、[システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [チャート / 表エントリの削除 (Remove Chart/Table Entry)] を選択します。
-

関連項目

「パフォーマンス カウンタの表示」(P.4-2)

パフォーマンス モニタリング カウンタのポーリング レートの設定

Cisco Unified Presence は、パフォーマンス カウンタをポーリングして、ステータス情報を収集します。RTMT モニタリング ペインで、作成した各カテゴリ タブのパフォーマンス カウンタに対するポーリング間隔を設定します。頻度の高いポーリング レートを設定すると、サーバ上のパフォーマンスに影響します。チャート形式でパフォーマンス カウンタをモニタするための最小ポーリング レートは 5 秒です。表形式でパフォーマンス カウンタをモニタするための最小レートは 1 秒です。いずれもデフォルト値は 10 秒です。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行して、パフォーマンス モニタリング カウンタを表示します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** デバイスを選択し、[編集 (Edit)] > [ポーリング レート (Polling Rate)] を選択します。
- ステップ 3** ポーリング レート フレームで使用する時間を指定します。
- ステップ 4** [OK] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

頻度の高いポーリング レートを設定すると、Cisco Unified Presence のパフォーマンスが低下する場合があります。チャート形式でパフォーマンス カウンタをモニタするための最小ポーリング レートは 5 秒です。表形式でパフォーマンス カウンタをモニタするための最小ポーリング レートは 1 秒です。いずれもデフォルト値は 10 秒です。デバイスに対するデフォルト値は 10 分です。

関連項目

「パフォーマンス カウンタの表示」(P.4-2)

カウンタ データの表示方法

カウンタのプロパティを使用して、パフォーマンス カウンタの説明を表示し、データサンプリングパラメータを設定できます。

[カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウには、カウンタのデータ サンプルを設定するためのオプションがあります。[RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT performance monitoring)] ペインに表示されるパフォーマンス カウンタには、経時的なデータのサンプルが緑色の点で表示されます。収集するデータ サンプルの数やチャートに表示するデータ点の数は設定することができます。データ サンプルを設定した後は、[すべてのデータを表示/現在のデータを表示 (View

All Data/View Current Data)]メニュー オプションを使用して perfmon カウンタに収集されたすべてのデータを表示することで、情報を表示します。[すべてのデータを表示/現在のデータを表示 (View All Data/View Current Data)]メニュー オプションにアクセスするには、必要なチャートを選択し、そのチャートを右クリックします。ポップアップメニューに表示されるオプションは、現在の表示によって異なります。

- 「カウンタの説明の表示」 (P.4-7)
- 「カウンタデータの表示」 (P.4-8)
- 「データ サンプルの表示」 (P.4-8)

カウンタの説明の表示

[カウンタのプロパティ (Counter Property)]ウィンドウには、カウンタの説明が表示されます。この説明には、ホストアドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、およびカウンタの内容の概要が含まれます。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)]を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)]をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)]アイコンを選択します。
 - [システム (System)]>[パフォーマンス (Performance)]>[パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)]を選択します。

- ステップ 2** カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。
ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。

- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。

現在の場所 :	アクション
Perfmon ツリー階層	<p>a. プロパティ情報が必要な対象のカウンタを選択します。</p> <p>b. カウンタを右クリックし、[カウンタの説明 (Counter Description)]を選択します。</p>
[RTMT パフォーマンス モニタリング (RTMT Performance Monitoring)] ペイン	<p>a. カウンタを選択します。</p> <p>b. [システム (System)]>[パフォーマンス (Performance)]>[カウンタの説明 (Counter Description)]を選択します。</p>

- ステップ 4** [OK] を選択します。

カウンタデータの表示

パフォーマンスカウンタについて収集されたデータを表示できます。カウンタチャートには、サンプリングされたすべてのデータが表示されます。緑色の点は近接して表示され、ほぼ実線のようになります。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。
ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。
- ステップ 3** [RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインで、データサンプルを表示するカウンタのカウンタチャートを右クリックします。
- ステップ 4** [すべてのデータを表示 (View All Data)] を選択します。
- ステップ 5** 現在表示されているカウンタを右クリックします。
- ステップ 6** [現在のデータを表示 (View Current)] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

カウンタチャートには、最後に設定され、収集されたデータサンプルが表示されます。

データサンプルの表示

カウンタのデータサンプルを設定し、表示することができます。[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインに表示される perfmon カウンタには、経時的なデータのサンプルが緑色の点で表示されます。収集するデータサンプルの数やチャートに表示するデータ点の数は設定することができます。データサンプルを設定した後は、[すべてのデータを表示/現在のデータを表示 (View All Data/View Current Data)] メニューオプションを使用して情報を表示できます。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンスアイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。

- [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。
ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- データ サンプル情報が必要な対象のカウンタを右クリックし、チャート形式を使用している場合は [モニタリングのプロパティ (Monitoring Properties)]、表形式を使用している場合は [プロパティ (Properties)] を選択します。
 - データ サンプル情報が必要な対象のカウンタを選択し、[システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [モニタリングのプロパティ (Monitoring Properties)] を選択します。
- ステップ 4** [データ サンプル (Data Sample)] タブを選択して、カウンタのデータ サンプル数を設定します。
- ステップ 5** [データ サンプル数 (No. of data samples)] リスト ボックスからサンプルの数 (100 ~ 1000) を選択します。デフォルトは 100 です。
- ステップ 6** [チャートに表示するデータ点の数 (No. of data points shown on chart)] リスト ボックスから、チャートに表示するデータ点の数 (10 ~ 50) を選択します。デフォルトは 20 です。
- ステップ 7** パラメータを 1 つ選択します。
表 4-1 に、データ サンプル パラメータの説明を示します。

表 4-1 データ サンプル パラメータ

パラメータ	説明
絶対値 (Absolute)	一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在の状態を表示するには [絶対値 (Absolute)] を選択します。
差分 (Delta)	[差分 (Delta)] を選択すると、現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分が表示されます。
差分比率 (Delta Percentage)	[差分比率 (Delta Percentage)] を選択すると、カウンタ パフォーマンスの変化が比率で表示されます。

- ステップ 8** [OK] を選択して [カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウを閉じ、[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインに戻ります。

トラブルシューティングのヒント

[カウンタのプロパティ (Counter Property)] ウィンドウには、カウンタの説明のほか、データ サンプルを設定するためのタブが表示されます。この説明には、ホスト アドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、およびカウンタの内容の概要が含まれます。

関連項目

- 「パフォーマンスカウンタの表示」 (P.4-2)
- 「カウンタデータの表示」 (P.4-8)

Perfmon カウンタからのデータをローカルに記録する方法

サーバデータは、5分ごとに単一レコードとしてファイルに記録されます。次に示すカウンタのデータが、それぞれの計算に基づいて5分ごとに記録されます。

- **cpuUsage** : 最後の5分間に収集されたすべての値の平均
- **MemoryInUse** : 最後の5分間に収集されたすべての値の平均
- **DiskSpaceInUse** : アクティブパーティションについて最後の5分間に収集されたすべての値の平均

Cisco AMC サービスは、サーバデータを CSV 形式で記録します。ログのヘッダーは、タイムゾーン情報と、Cisco Unified Presence ノードに関する以前のカウンタを示したカラムのセットで構成されます。これらのカラムのセットは、各ノードに対して繰り返されます。

サーバログのファイル名には、ServerLog_MM_DD_YYYY_hh_mm.csv という形式が適用されます。各ログファイルの最初の行はヘッダーです。ローカルコンピュータで表示するためにサーバログをダウンロードするには、第6章「RTMTのTrace and Log Centralの設定」を参照してください。

- 「カウンタ ログの開始」(P.4-10)
- 「カウンタ ログの停止」(P.4-11)

カウンタ ログの開始

Real-Time Monitoring Tool の使用により、異なる perfmon カウンタを選択して、perfmon カウンタデータをローカルの CSV ログファイルに記録することができます。その perfmon CSV ログのデータは、パフォーマンス ログ ビューアを使用して表示できます。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックします。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。
- ステップ 2** カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。
- ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- a. perfmon カウンタをチャート形式で表示している場合は、データ サンプル情報が必要な対象のチャートを右クリックし、[カウンタ ロギングの開始 (Start Counter(s) Logging)] を選択します。
 - b. 画面上のすべてのカウンタを記録するには (チャート形式および表形式のいずれも)、ウィンドウの一番下にあるカテゴリ名タブを右クリックして、[カウンタ ロギングの開始 (Start Counter(s) Logging)] を選択します。
- ステップ 4** [ログ ファイル名 (Log File Name)] フィールドにファイル名を入力します。

ステップ 5 [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

- Real-Time Monitoring Tool は、ユーザのホーム ディレクトリにある .jrtmt ディレクトリ内のログ フォルダに CSV ログ ファイルを保存します。たとえば、Windows ではパスが D:\Documents and Settings\userA\jrtmt\log となり、Linux では /users/home/.jrtmt/log となります。
- ファイルの数とサイズを制限するには、トレース出力設定で最大ファイル サイズと最大ファイル 数のパラメータを指定します ([システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [カウンタ ログgingの設定 (Counter Logging Configuration)])。

関連項目

- 「パフォーマンスカウンタの表示」(P.4-2)
- 『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』

カウンタ ログの停止

はじめる前に

この手順は、カウンタ ログを実行していることが前提となります。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
- [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。

ステップ 2 カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。

ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの操作を実行します。

- a. perfmon カウンタをチャート形式で表示している場合は、カウンタ ログgingが開始されているチャートを右クリックし、[カウンタ ログgingの停止 (Stop Counter(s) Logging)] を選択します。
- b. 画面上のすべてのカウンタのログgingを停止するには (チャート形式および表形式のいずれも)、ウィンドウの一番下にあるカテゴリ名タブを右クリックして、[カウンタ ログgingの停止 (Stop Counter(s) Logging)] を選択します。

関連項目

- 「カウンタ ログの開始」(P.4-10)
- 「パフォーマンスカウンタの表示」(P.4-2)
- 「Perfmon ログ ビューアでのログ ファイルの表示」(P.4-14)

Troubleshooting Perfmon データ ログギング

Troubleshooting perfmon データ ログギング機能は、Cisco TAC がシステムの問題を識別する際に役立ちます。Troubleshooting perfmon データ ログギングを有効にすると、選択したノードでの Cisco Unified Presence とオペレーティング システムのパフォーマンス統計情報の収集が開始されます。収集された統計情報には、システム診断に使用できる総合的な情報が含まれます。

Troubleshooting perfmon データ ログギングは、システムの状態に関する総合的な情報を提供する一連の perfmon カウンタから統計情報を収集するように、自動的に設定されます。Troubleshooting Perfmon データ ログギングが有効である場合、CPU 使用率の増加は 5 パーセント未満であり、使用されるメモリ量にも目立った増加はなく、毎日約 50 MB の情報がログ ファイルに書き込まれることが推測されます。

Troubleshooting perfmon データ ログギング機能を使用して、次の管理タスクを実行できます。

- Troubleshooting perfmon データ ログギング用のトレース フィルタを有効または無効にする。
- 各サーバで事前に定義されたシステムと Cisco Unified Presence のパフォーマンス オブジェクトおよびカウンタをモニタする。
- モニタされたパフォーマンス データをサーバ上のアクティブ ログ パーティションの `var/log/active/cm/log/ris/csv` ディレクトリに CSV ファイル形式で記録する。ログ ファイルに使用される命名規則は `PerfMon_<node>_<month>_<day>_<year>_<hour>_<minute>.csv` です。たとえば、`PerfMon_172.19.240.80_06_15_2005_11_25.csv` となります。ポーリング レートを指定する。このレートは、パフォーマンス データが収集され、ログに記録されるレートを示します。ポーリング レートは 5 秒まで縮めることができます。デフォルトのポーリング レートは 15 秒です。
- Microsoft Windows パフォーマンス ツールを使用するか、Real-Time Monitoring Tool のパフォーマンス ログ ビューアを使用して、ログ ファイルをグラフィック形式で表示する。
- ディスクに保存するログ ファイルの最大数を指定する。この制限を超えると、最も古いログ ファイルが削除される方法でログ ファイルは自動的にページされます。デフォルトは 50 ファイルです。
- メガバイト単位の最大ファイル サイズに基づいて、ログ ファイルのロールオーバー基準を指定する。デフォルト値は 2 MB です。
- Real-Time Monitoring Tool の Trace & Log Central 機能またはコマンドライン インターフェイスを使用して、Cisco RIS Data Collector PerfMonLog ログ ファイルを収集する。

Troubleshooting perfmon データ ログギング機能は、perfmon オブジェクト内のカウンタから情報を収集します。

カウンタの説明については、[付録 A 「システムのパフォーマンス オブジェクトとカウンタ」](#) を参照してください。


はじめる前に

- RISDC perfmon ログギングも Troubleshooting Perfmon データ ログギングとして知られています。RISDC perfmon ログギングを有効にすると、サーバは問題のトラブルシューティングに使用されるパフォーマンス データを収集します。
- RIS Data Collector (RISDC) perfmon ログを有効にすると、Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Presence サーバに書き込まれるログからシステムの情報を収集します。Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameter)] を選択し、[サービス (Service)] リスト ボックスから [Cisco RIS Data Collector] サービスを選択することにより、RISDC perfmon ログを有効または無効にできます。デフォルトでは、RISDC perfmon ログギングは有効になります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] リスト ボックスで、サーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] リスト ボックスから [Cisco RIS Data Collector] を選択します。
- ステップ 4** 次の表の説明に従って、適切な設定を入力します。

表 4-2 Troubleshooting Perfmon データ ロギングのパラメータ

フィールド	説明
Enable Logging	リスト ボックスから [はい (True)] を選択すると Troubleshooting perfmon データ ロギングが有効になり、[いいえ (False)] を選択すると無効になります。デフォルト値は True です。
Polling Rate	ポーリング レートの間隔 (秒単位) を入力します。5 (最小) ~ 300 (最大) の値を入力できます。デフォルト値は 15 です。
Maximum No. of Files	<p>ディスクに保存する Troubleshooting Perfmon データ ロギング ファイルの最大数を入力します。1 (最小) ~ 100 (最大) の値を入力できます。デフォルト値は 50 です。</p> <p>[最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] パラメータと [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] パラメータを設定する際は、ストレージ容量を考慮してください。[最大ファイル数 (Maximum Number of Files)] の値と [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] の値を掛けたときに、100 MB を超えない値にすることが推奨されます。</p> <p>ファイル数が、このフィールドに指定した最大ファイル数を超えると、タイムスタンプの最も古いログ ファイルが削除されます。</p> <p> 注意 このパラメータを変更する前に別のコンピュータにログ ファイルを保存しておかないと、ログ ファイルが失われるおそれがあります。</p>
Maximum File Size (MB)	<p>新しいファイルが開始される前に、perfmon ログ ファイルに保存する最大ファイルサイズ (メガバイト単位) を入力します。1 (最小) ~ 500 (最大) の値を入力できます。デフォルト値は 2 MB です。</p> <p>[最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] パラメータと [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] パラメータを設定する際は、ストレージ容量を考慮してください。[最大ファイル数 (Maximum Number of Files)] の値と [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] の値を掛けたときに、100 MB を超えない値にすることが推奨されます。</p>

- ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

RTMT を使用してログ ファイルをダウンロードすることにより、サーバ上の Cisco RIS Data Collector サービスに関するログ ファイルを収集できます。CLI を使用してログ ファイルをダウンロードする場合は、『Cisco Unified Communications Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』を参照してください。ログ ファイルを収集した後は、RTMT でパフォーマンス ログビューアを使用するか、Microsoft Windows パフォーマンス ツールを使用してログ ファイルを表示できます。

関連項目

- 「Perfmon ログビューアでのログ ファイルの表示」(P.4-14)
- 「Microsoft パフォーマンス ツールを使用した Perfmon ログ ファイルの表示」(P.4-17)

Perfmon ログビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールでのログ ファイルの表示について

パフォーマンス ログビューアには、選択したカウンタのデータを示すチャートが表示されます。下部のペインには、選択したカウンタ、それらのカウンタの色凡例、表示オプション、平均値、最小値、および最大値が表示されます。

表 4-3 に、パフォーマンス ログビューアで使用できる各ボタンの機能の説明を示します。

表 4-3 パフォーマンス ログビューア

ボタン	機能
カウンタの選択 (Select Counters)	パフォーマンス ログビューアに表示するカウンタの追加を可能にします。カウンタを表示しない場合は、カウンタの横にある [表示 (Display)] カラムのチェックマークを外します。
表示のリセット (Reset View)	パフォーマンス ログビューアを初期のデフォルト表示にリセットします。
ダウンロードしたファイルの保存 (Save Downloaded File)	ローカル コンピュータへのログ ファイルの保存を可能にします。

- 「Perfmon ログビューアでのログ ファイルの表示」(P.4-14)
- 「パフォーマンス ログビューアの拡大と縮小」(P.4-16)
- 「Microsoft パフォーマンス ツールを使用した Perfmon ログ ファイルの表示」(P.4-17)

Perfmon ログビューアでのログ ファイルの表示

パフォーマンス ログビューアには、perfmon CSV ログ ファイルからのカウンタのデータがグラフィック形式で表示されます。パフォーマンス ログビューアを使用して、収集したローカル perfmon ログのデータを表示することも、Real-time Information Server Data Collection (RISDC) perfmon ログのデータを表示することもできます。

はじめる前に

ローカル perfmon ログは、コンピュータで選択し、ローカルに保存したカウンタのデータで構成されます。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックしてパフォーマンス アイコンを表示します。
 - [パフォーマンス ログ ビューア (Performance Log Viewer)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス ログ ビューアを開く (Open Performance Log Viewer)] を選択します。
- ステップ 2** 表示する perfmon ログのタイプを選択します。
- RisDC Perfmon ログについては、次の手順を実行します。
 - [Perfmon ログの場所の選択 (Select Perfmon Log Location)] セクションでいずれかの RisDC Perfmon ログを選択します。
 - リスト ボックスからノードを選択します。
 - [開く (Open)] を選択します。
 - ファイルを選択し、[ファイルを開く (Open File)] を選択します。
 - 表示するカウンタにチェックマークを付けます。
 - [OK] を選択します。
 - ローカルに保存されたデータについては、次の操作を実行します。
 - [ローカル Perfmon ログ (Local Perfmon Logs)] を選択します。
 - [開く (Open)] を選択します。
 - ファイル ディレクトリを参照します。
 - 表示するファイルを選択するか、ファイル名フィールドにファイル名を入力します。
 - [開く (Open)] を選択します。
 - 表示するカウンタにチェックマークを付けます。
 - [OK] を選択します。
- ステップ 3** 表示するカウンタを選択します。
- ステップ 4** [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

- Real-Time Monitoring Tool は、ユーザのホーム ディレクトリにある .jrtmt ディレクトリ内のログ フォルダに perfmon CSV ログ ファイルを保存します。Windows ではパスが D:\Documents and Settings\userA\jrtmt\log となり、Linux では /users/home/.jrtmt/log となります。
- RISDC perfmon ロギングは、Troubleshooting Perfmon データ ロギングとしても知られています。RISDC perfmon ロギングを有効にすると、サーバは問題のトラブルシューティングに使用されるデータを収集します。Cisco Unified Presence は短期間に大量のデータを収集するので、RISDC perfmon データ ロギング (Troubleshooting perfmon データ ロギング) を有効にする時間を制限するようにしてください。

- カラムの見出しを選択することにより、各カラムを整理できます。カラムの見出しを最初に選択したときは、レコードが昇順で表示されます。上向きの小さい三角形が、昇順を示します。カラムの見出しを再び選択すると、レコードは降順で表示されます。下向きの小さい三角形が、降順を示します。カラムの見出しをもう一度選択すると、レコードのソートは解除されます。

関連項目

- 「Perfmon カウンタからのデータをローカルに記録する方法」(P.4-10)
- 「カウンタ ログの停止」(P.4-11)

パフォーマンス ログビューアの拡大と縮小

パフォーマンス ログビューアには、チャートの一部を拡大および縮小できるズーム機能が備わっています。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[パフォーマンス (Performance)] をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
 - [パフォーマンス (Performance)] アイコンを選択します。
- [システム (System)] > [パフォーマンス (Performance)] > [パフォーマンス モニタリングを開く (Open Performance Monitoring)] を選択します。

ステップ 2 カウンタが配置されているサーバの名前を選択します。

ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。

ステップ 3 モニタするパフォーマンスカウンタをダブルクリックします。

ステップ 4 次のいずれかの操作を実行します。

目的	アクション
チャートの一部を拡大する	a. マウスの左ボタンをクリックし、チャート内で関心のあるエリアにドラッグします。 b. 必要な領域を選択してから、マウスの左ボタンを放します。
チャートを初期のデフォルト表示にリセットする	a. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> – [表示のリセット (Reset View)] を選択します。 – チャートを右クリックし、[リセット (Reset)] を選択します。

Microsoft パフォーマンス ツールを使用した Perfmon ログ ファイルの表示

手順

-
- ステップ 1** [スタート (Start)] > [設定 (Settings)] > [コントロールパネル (Control Panel)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [パフォーマンス (Performance)] を選択します。
 - ステップ 2** アプリケーション ウィンドウで次の操作を実行します。
 - a. マウスの右ボタンをクリックします。
 - b. [プロパティ (Properties)] を選択します。
 - ステップ 3** [システム モニタのプロパティ (System Monitor Properties)] ダイアログボックスで [ソース (Source)] タブを選択します。
 - ステップ 4** perfmon ログ ファイルをダウンロードしたディレクトリを参照し、perfmon csv ファイルを選択します。ログ ファイルに使用される命名規則は PerfMon_<node>_<month>_<day>_<year>_<hour>_<minute>.csv です。たとえば、PerfMon_172.19.240.80_06_15_2005_11_25.csv となります。
 - ステップ 5** [適用 (Apply)] を選択します。
 - ステップ 6** [時間の範囲 (Time Range)] を選択します。表示する perfmon ログ ファイルで時間の範囲を指定するには、適切な開始時刻と終了時刻までバーをドラッグします。
 - ステップ 7** [カウンタの追加 (Add Counters)] ダイアログボックスを開くには、[データ (Data)] タブを選択し、[追加 (Add)] を選択します。
 - ステップ 8** [パフォーマンス オブジェクト (Performance Object)] リスト ボックスから、perfmon オブジェクトを選択します。オブジェクトに複数のインスタンスがある場合は、[すべてのインスタンス (All instances)] を選択するか、表示するインスタンスだけを選択します。
 - ステップ 9** [すべてのカウンタ (All Counters)] を選択することも、表示するカウンタだけを選択することもできます。
 - ステップ 10** [追加 (Add)] を選択して、選択したカウンタを追加します。
 - ステップ 11** カウンタの選択が終了したら、[閉じる (Close)] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

- [パフォーマンス (Performance)] にアクセスする方法は、コンピュータにインストールされている Windows のバージョンによって異なります。

SysLog ビューアのログファイルについて

表 4-4 に、syslog メッセージ内の機能の説明を示します。

表 4-4 SysLog ビューアのボタン

ボタン	機能
更新 (Refresh)	SysLog ビューア上の現在のログの内容を更新します。 ヒント [自動更新 (Auto Refresh)] チェックボックスをオンにすることにより、SysLog ビューアで自動的に syslog メッセージが更新されるように設定できます。
クリア (Clear)	現在のログの表示をクリアします。
フィルタ (Filter)	選択したオプションに基づいて、表示されるメッセージを制限します。
フィルタのクリア (Clear Filter)	表示するメッセージのタイプを制限するフィルタを解除します。
検索 (Find)	現在のログ内で特定の文字列を検索できます。
保存 (Save)	現在選択されているログを PC に保存します。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- クイック起動チャンネルで、[ツール (Tools)] タブを選択します。
 - [SysLog ビューア (SysLog Viewer)] を選択します。
 - [SysLog ビューア (SysLog Viewer)] アイコンを選択します。
 - [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [SysLog ビューア (SysLog Viewer)] > [SysLog ビューアを開く (Open SysLog Viewer)] を選択します。
- ステップ 2** [ノードの選択 (Select a Node)] リスト ボックスから、表示するログが保存されているサーバを選択します。
- ステップ 3** 表示するログのタブを選択します。
- ステップ 4** ログ アイコンをダブルクリックして、同じウィンドウ内にファイル名を表示します。
- ステップ 5** ファイル名を選択して、ウィンドウの一番下にファイルの内容を表示します。
- ステップ 6** 表示するエントリを選択します。
- ステップ 7** syslog メッセージをダブルクリックして、完全な syslog メッセージを表示します。表 4-4 に説明のあるボタンを使用して、syslog メッセージを表示することもできます。

トラブルシューティングのヒント

- カラムを拡大または縮小するには、2つのカラムの見出しの間にマウス ポインタを置いたときに表示される矢印をドラッグします。
- カラムの見出しを選択することにより、メッセージを整理できます。カラムの見出しを最初に選択したときは、レコードが昇順で表示されます。上向きの小さい三角形が、昇順を示します。カラムの見出しを再び選択すると、レコードは降順で表示されます。下向きの小さい三角形が、降順を示します。カラムの見出しをもう一度選択すると、レコードのソートは解除されます。
- [フィルタの条件 (Filter By)] リスト ボックスのオプションを選択して、結果をフィルタに掛けることができます。フィルタを解除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] を選択します。フィルタをクリアした後は、すべてのログが表示されます。



CHAPTER 5

アラートの使用

- 「アラートについて」 (P.5-1)
- 「Alert Central での作業」 (P.5-5)
- 「アラートプロパティの設定」 (P.5-7)
- 「アラートアクションの設定方法」 (P.5-10)
- 「トレースダウンロードの有効化」 (P.5-12)
- 「Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止」 (P.5-14)
- 「Log Partition Monitoring の設定」 (P.5-15)
- 「ベストプラクティス」 (P.5-16)

アラートについて

アクティブになっているサービスが停止したときなど、事前に定義された条件に達したときに管理者に通知するためのアラートメッセージが生成されます。アラートは電子メール/電子ページとして送信できます。

アラートの定義、設定、表示をサポートする RTMT には、事前に設定されたアラートとユーザ定義のアラートが含まれます。両方のタイプの設定作業を実行できますが、事前設定のアラートは削除できません（ユーザ定義のアラートの追加および削除は可能です）。

アラートのオプション

[アラート (Alert)] メニュー ([システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)]) は、次のメニュー オプションで構成されます。

- [Alert Central] : このオプションは、システム内のすべてのアラートの履歴と現在のステータスで構成されます。



(注) システム ドロワの階層ツリーにある [Alert Central] アイコンを選択して [Alert Central] にアクセスすることもできます。

- [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] : このメニュー オプションを使用すると、アラートとアラートプロパティを設定できます。

- [アラートの削除 (Remove Alert)] : このメニュー カテゴリを使用すると、アラートを削除できます。
- [アラートの有効化 (Enable Alert)] : このメニュー カテゴリで、アラートを有効にできます。
- [アラートの無効化 (Disable Alert)] : このカテゴリでアラートを無効にできます。
- [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend cluster/Node Alerts)] : このメニュー カテゴリを使用すると、特定の Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ全体のアラートを一時的に停止できます。
- [アラートのクリア (Clear Alerts)] : このメニュー カテゴリを使用すると、アラートをリセットして (アラート項目の色が赤から黒に変わります)、アラートが処理済みであると示すことができます。アラートが発生すると、RTMT でアラートの色が自動的に変わり、アラートを手動でクリアするまでそのままになります。
- [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)] : このメニュー カテゴリを使用すると、すべてのアラートをクリアできます。
- [すべてのアラートをデフォルト設定にリセット (Reset all Alerts to Default Config)] : このメニュー カテゴリを使用すると、すべてのアラートをデフォルト設定にリセットできます。
- [アラートの詳細 (Alert Detail)] : このメニュー カテゴリはアラート イベントに関する詳細情報を表示します。
- [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] : このカテゴリでは、電子メール サーバを設定してアラートを有効にできます。
- [アラート アクションの設定 (Config Alert Action)] : このカテゴリを使用すると、特定のアラートに対するアクションの設定、および目的の電子メール受信者にアラートを送信するアクションの設定ができます。

RTMT では、perfmn カウンタのしきい値に対するアラート通知を設定し、そのアラートのアラートプロパティ (しきい値、期間、頻度など) を設定します。

[Alert Central] は、クイック起動の [ツール (Tools)] 階層ツリーの配下にあります。[Alert Central] には、システム内のすべてのアラートの現在のステータスと履歴が表示されます。

- 「事前設定のアラート」 (P.5-2)
- 「アラートのフィールド」 (P.5-3)
- 「アラート ログ」 (P.5-5)

事前設定のアラート

[Alert Central] で事前設定のアラートとカスタム アラートを有効または無効にできます。ただし、事前設定のアラートは削除できません。

次に、システムに事前設定されているアラートを示します。

- AuthenticationFailed
- CiscoDRFFailure
- CoreDumpFileFound
- CpuPegging
- CriticalServiceDown



(注) CriticalServiceDown アラートは、サービスのステータスがダウンのときにのみ生成されます (その他の状態では生成されません)。

- HardwareFailure
- LogFileSearchStringFound
- LogPartitionHighWaterMarkExceeded
- LogPartitionLowWaterMarkExceeded
- LowActivePartitionAvailableDiskSpace
- LowAvailableVirtualMemory
- LowInactivePartitionAvailableDiskSpace
- LowSwapPartitionAvailableDiskSpace
- ServerDown



(注) ServerDown アラートは、現在「アクティブ」な AMC (プライマリ AMC、または、プライマリが使用不可の場合はバックアップ AMC) がクラスタ内の別のノードに到達できない場合に生成されます。このアラートは、サーバダウン状態以外に、ネットワーク接続の問題も示します。

- SparePartitionLowWaterMarkExceeded
- SparePartitionHighWaterMarkExceeded
- SyslogSeverityMatchFound
- SyslogStringMatchFound
- SystemVersionMismatched
- TotalProcessesAndThreadExceededThreshold

アラートのフィールド

RTMT で、事前に設定されたアラートとユーザ定義のアラートを設定できます。また、事前設定のアラートとユーザ定義のアラートの両方を無効にすることもできます。パフォーマンス モニタリング ウィンドウではユーザ定義のアラートを追加および削除できます。ただし、事前設定のアラートは削除できません。

表 5-1 に、各アラートの設定に使用できるフィールドのリストを示します。特に記載がない限り、ユーザは事前に設定されたフィールドを設定できます。

表 5-1 アラートのカスタマイズ

フィールド	説明	コメント
アラート名 (Alert Name)	RTMT がアラートに関連付けるモニタリング項目の概略的な名前	説明的な名前。事前設定のアラートの場合、このフィールドは変更できません。事前設定のアラートのリストについては、「事前設定のアラート」(P.5-2)を参照してください。
説明 (Description)	アラートの説明	事前設定のアラートの場合、このフィールドは編集できません。事前設定のアラートのリストについては、「事前設定のアラート」(P.5-2)を参照してください。
パフォーマンス カウンタ (Performance Counter(s))	パフォーマンス カウンタのソース	このフィールドは変更できません。
しきい値 (Threshold)	アラートの生成条件 (値)	上限 <-> 下限 (#、%、レートより小さい、#、%、レートより大きい) を指定します。
次の値で算出 (Value Calculated As)	しきい値条件を確認する方法	評価する値を絶対値、差分 (現在と前回)、または差分比率で指定します。
期間 (Duration)	アラートの生成条件 (アラートを生成するまでのしきい値の持続時間)	すぐにアラートを送信させるオプション、またはアラートが指定時間持続した後に送信させるオプションがあります。
アラート アクション ID (Alert Action ID)	実行するアラート アクションの ID (アラート アクションに関係なく、システムは常にアラートを記録します)。	アラート アクションは最初に定義されます。このフィールドが空白の場合は、電子メールが無効になっていることを示します。
アラートの有効化 (Enable Alerts)	アラートを有効または無効にします。	オプションは、有効化または無効化です。
アラートのクリア (Clear Alert)	アラートをリセットして (アラート項目の色が赤から黒に変わります)、アラートが解決されたことを示します。	アラートが発生すると、アラートの色が自動的に赤に変わり、アラートを手動でクリアするまでそのままになります。すべてのアラートをクリアするには、[すべてをクリア (Clear All)] を使用します。
アラート生成率 (Alert Generation Rate)	アラート条件が持続したときにアラートを生成する頻度	X 分ごとに指定します。(条件が持続した場合には、X 分ごとに 1 回アラートが生成されます)。 X 分ごとに最大 Y 回と指定します。(条件が持続した場合には、X 分ごとに Y 回アラートが生成されます)。
テキスト入力ユーザ (User Provide Text)	定義済みのアラート テキストにテキストを付加する管理者	該当なし
重大度 (Severity)	表示用 (たとえば、重大度 1 のアラートだけを表示する)	定義済みのアラート (Error、Warning、Information など) に割り当てられるデフォルトを指定します。

アラート ログ

アラートは、アラート ログに保存されます。また、メモリにも保存されます。メモリは一定間隔でクリアされ、最後の 30 分間のデータがメモリに残されます。サービスが開始または再開されると、クラスター内のすべてのサーバに存在するアラート ログから最後の 30 分間のアラート データが読み込まれ、メモリにロードされます。メモリ内のアラート データは、要求に応じて RTMT クライアントに送信されます。

RTMT の起動時に、RTMT は最後の 30 分間に発生したすべてのログを Alert Central ログ履歴に表示します。アラート ログは定期的に更新され、新しいログがログ履歴ウィンドウに挿入されます。ログ件数が 100 に達すると、RTMT は最も古い 40 件のログを削除します。

アラート ログのファイル名の形式は、AlertLog_MM_DD_YYYY_hh_mm.csv です。

アラート ログには次の属性が含まれます。

- Time Stamp : RTMT がデータを記録した時刻
- Alert Name : 説明的なアラート名
- Node : RTMT がアラートを生成した場所のノード名
- Alert Message : アラートに関する詳細説明
- Description : モニタされるオブジェクトの説明
- Severity : アラートの重大度
- PollValue : アラート条件が発生したモニタ対象オブジェクトの値
- Action : 実行されたアラート アクション
- Group ID : アラートの生成元を特定

各ログ ファイルの最初の行はヘッダーです。各アラートの詳細は 1 行に書き込まれ、カンマで区切られています。

Alert Central での作業

[Alert Central] にアクセスし、次の作業を実行できます。

- アラート情報のソート
- アラートの有効化、無効化、または削除
- アラートのクリア
- アラートの詳細の表示

はじめる前に

アラートに関する情報を確認してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- a. クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[ツール (Tools)] をダブルクリックします。
 - [Alert Central] アイコンを選択します。
- b. [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [Alert Central] を選択します。

ステップ 2 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

目的	アクション
アラートプロパティを設定する	「アラートプロパティの設定」(P.5-7) を参照してください。
Cisco Unified Presence ノードのアラートを一時停止する	「Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止」(P.5-14) を参照してください。
アラート通知用電子メールを設定する	「アラート通知用電子メールの設定」(P.5-12) を参照してください。
アラートアクションを設定する	「アラートアクションの設定」(P.5-10) を参照してください。
[アラートステータス (Alert Status)] ペイン内のアラート情報をソートする	<p>a. 列見出しに表示される上/下矢印を選択します。たとえば、[有効 (Enabled)] または [InSafeRange] 列に表示される上/下矢印を選択します。</p>
アラート履歴情報をソートする	<p>a. [アラート履歴 (Alert History)] ペイン内の列にある上/下矢印を選択します。</p> <p>b. ペインに表示されていないアラート履歴を表示するには、[アラート履歴 (Alert History)] ペインの右側のスクロールバーを使用します。</p>
アラートを有効化、無効化、または削除する	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <p>a. [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウで、アラートを右クリックし、目的に応じて [アラートの無効化/有効化 (Disable/Enable Alert)] (オプションが切り替わります) または [アラートの削除 (Remove Alert)] を選択します。</p> <p>b. [アラートステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートの有効化/無効化 (または削除) (Disable/Enable (または Remove) Alert)] を選択します。</p>

目的	アクション
アラートの解決後にアラートを個別または一括でクリアする	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <p>a. [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックして [アラートのクリア (Clear Alerts)] (または [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)]) を選択します。</p> <p>b. [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートのクリア (Clear Alerts)] (または [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)]) を選択します。</p>
アラートの詳細を表示する	<p>a. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> – [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。 – [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。 <p>b. アラートの詳細の表示が完了したら、[OK] を選択します。</p>

トラブルシューティングのヒント

RTMT で削除できるのは、ユーザ定義のアラートだけです。事前設定のアラートを選択すると、[アラートの削除 (Remove Alert)] オプションはグレー表示されます。

関連項目

[「アラートについて」 \(P.5-1\)](#)

アラート プロパティの設定

アプリケーションは、アラート通知機能を使用してシステムの問題を通知します。システム パフォーマンス カウンタのアラート通知をアクティブにするには、次の設定が必要です。

[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインで、システムの perfmon カウンタを選択します。

- アラート通知の電子メールまたはメッセージ ポップアップ ウィンドウを設定します。
- アラートのしきい値を決定します。
- アラート通知の頻度を決定します (アラートが 1 回または毎時に発生するなど)。
- アラートがアクティブになるスケジュールを決定します (毎日、または 1 日の特定の時刻など)。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

目的	アクション
パフォーマンス カウンタのアラート プロパティを設定する	<p>a. パフォーマンス カウンタを表示します。</p> <p>b. カウンタの図または表で、アラート通知を設定するカウンタを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。</p> <p>c. [アラートの有効化 (Enable Alert)] をオンにします。</p>
[Alert Central] からアラート プロパティを設定する	<p>a. [Alert Central] にアクセスします。</p> <p>b. アラート プロパティを設定するアラートを選択します。</p> <p>c. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。 • [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - [アラートの有効化 (Enable Alert)] をオンにします。

ステップ 2 [重大度 (Severity)] リスト ボックスで、通知を受ける重大度レベルを選択します。

ステップ 3 [説明 (Description)] ペインでアラートの説明を入力します。

ステップ 4 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 5 [しきい値 (Threshold)]、[次の値で算出 (Value Calculated As)]、[期間 (Duration)]、[頻度 (Frequency)]、および [スケジュール (Schedule)] の各ペインで設定を行います。

表 5-2 カウンタのアラート設定パラメータ

設定	説明
[しきい値 (Threshold)] ペイン	
次の条件に達したときにアラートをトリガー (Trigger alert when following conditions met) (超 (Over)、未満 (Under))	<p>オンにして適用する値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [超 (Over)] : オンにして、アラート通知がアクティブになる前に達する必要がある最大しきい値を設定します。[以上 (Over)] の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 • [未満 (Under)] : オンにして、アラート通知がアクティブになる前に達する必要がある最小しきい値を設定します。[以下 (Under)] の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 <p>ヒント これらのチェックボックスは、[頻度 (Frequency)] および [スケジュール (Schedule)] の設定パラメータと組み合わせて使用します。</p>

設定	説明
[次の値で算出 (Value Calculated As)] ペイン	
[絶対値 (Absolute)]、[差分 (Delta)]、[差分比率 (Delta Percentage)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [絶対値 (Absolute)]: 一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在のステータスを表示する場合に選択します。 [差分 (Delta)]: 現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分を表示する場合に選択します。 [差分比率 (Delta Percentage)]: カウンタ パフォーマンスの変化を比率で表示する場合に選択します。
[期限 (Duration)] ペイン	
[値が常に次の場合にアラートをトリガー (Trigger alert only when value constantly...)]、[アラートをすぐにトリガー (Trigger alert immediately)]	<ul style="list-style-type: none"> [値が常に次の場合にアラートをトリガー (Trigger alert only when value constantly...)]: 指定した秒数にわたって値が常にしきい値の下限または上限を超えた場合に限りアラート通知を送信する場合は、このオプション ボタンを選択して、アラートを送信するまでの秒数を入力します。 [アラートをすぐにトリガー (Trigger alert immediately)]: アラート通知をすぐに送信する場合は、このオプション ボタンを選択します。
[頻度 (Frequency)] ペイン	
[各ポーリングでアラートをトリガー (Trigger alert on every poll)]、[トリガーの間隔 (trigger up to...)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [各ポーリングでアラートをトリガー (Trigger alert on every poll)]: 各ポーリングでしきい値条件に達したときにアラート通知をアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択します。 [トリガーの間隔 (trigger up to...)]: アラート通知を一定間隔でアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択して、送信するアラートの数とアラートを送信する時間 (分) を入力します。
[スケジュール (Schedule)] ペイン	
[24 時間毎日 (24-hours daily)]、[開始/停止 (Start/Stop)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [24 時間毎日 (24-hours daily)]: アラートを 1 日 24 時間トリガーする場合は、このオプション ボタンを選択します。 [開始/停止 (Start/Stop)]: アラート通知を特定のタイムフレームでアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択して、開始時刻と停止時刻を入力します。オンにした場合は、日次タスクの開始時刻と停止時刻を入力します。たとえば、カウンタを毎日午前 9 時から午後 5 時まで、または午後 9 時から午前 9 時までチェックするように設定することができます。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Presence クラスタ全体のアラートの場合は、[アラート プロパティ (Alert Properties)] ウィンドウに [次のサーバでこのアラートを有効化/無効化 (Enable/Disable this alert on following server(s))] が表示されません。クラスタ全体のアラートには、登録済みの電話機の数、ゲートウェイの数、メディア デバイスの数、使用されているルート リスト、使用されているメディア リスト、アウトオブサービスの MGCP D チャネル、悪意のあるコールのトレース、および限度を超えている品質レポートが含まれます。

次の作業

[「アラート アクションの設定」 \(P.5-10\)](#)

関連項目

- [「パフォーマンス カウンタの表示」 \(P.4-2\)](#)
- [「Alert Central での作業」 \(P.5-5\)](#)

アラート アクションの設定方法

RTMT では、生成されるアラートごとにアラート アクションを設定して、アラート アクション リストで指定した電子メール受信者にアラート アクションを送信できます。

[表 5-3](#) に、アラート アクションの設定に使用するフィールドのリストを示します。特に記載がない限り、ユーザはすべてのフィールドを設定できます。

表 5-3 アラート アクションの設定

フィールド	説明	コメント
アラート アクション ID (Alert Action ID)	実行するアラート アクションの ID	説明的な名前を指定します。
メール受信者 (Mail Recipients)	電子メール アドレスのリスト。リスト内の個別の電子メールを選択的に有効または無効にできます。	該当なし

- [「アラート アクションの設定」 \(P.5-10\)](#)
- [「アラート通知用電子メールの設定」 \(P.5-12\)](#)

アラート アクションの設定

はじめる前に

アラート プロパティを設定します。

手順

ステップ 1 [アラート プロパティ：電子メール通知 (Alert Properties: Email Notification)] ウィンドウで、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

目的	アクション
このアラートでアラート アクションをトリガーする	リスト ボックスから、送信するアラート アクションを選択します。
新しいアラート アクションを追加する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 [アラート アクション (Alert Action)] ウィンドウで [追加 (Add)] を選択します。 [名前 (Name)] フィールドにアラート アクションの名前を入力します。 [説明 (Description)] フィールドにアラート アクションの説明を入力します。
既存のアラート アクションを編集する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 アラート アクションを強調表示します。 [編集 (Edit)] を選択します。 設定を更新します。 [OK] を選択します。
アラート アクションを削除する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 アラート アクションを強調表示します。 [削除 (Delete)] を選択します。
アラート アクションを受信する電子メール受信者を追加する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 [アラート アクション (Alert Action)] ウィンドウで [追加 (Add)] を選択します。 [アクションの設定 (Action Configuration)] ウィンドウの [受信者 (Recipients)] フレームで、もう一度 [追加 (Add)] を選択します。 [電子メール/電子ページアドレスの入力 (Enter email/epage address)] フィールドに、受信者の電子メールまたは電子ページアドレスを入力します。 [OK] を選択します。
指定した電子メール受信者の電子メールを有効にする	[電子メールの有効化 (Enable Email)] をオンにします。
電子メール受信者を無効にする、または削除する	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> – 受信者を強調表示し、[有効 (Enable)] をオフにします。 – 受信者を強調表示し、[削除 (Delete)] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ定義の電子メール テキスト (User-defined email text)] ボックスに、電子メール メッセージに表示するテキストを入力します。

ステップ 3 アラート アクションの設定が終了したら、[保存 (Save)] を選択します。

次の作業

「トレース ダウンロードの有効化」(P.5-12)

関連項目

- 「アラート プロパティの設定」(P.5-7)
- 「アラート通知用電子メールの設定」(P.5-12)

アラート通知用電子メールの設定

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] を選択します。
- ステップ 2** [メール サーバ (Mail Server)] フィールドに、メール サーバを入力します。
- ステップ 3** [ポート (Port)] フィールドに、メール サーバのポート番号を入力します。デフォルト ポートは 25 です。
- ステップ 4** アラート プロパティに移動します (「アラート プロパティの設定」(P.5-7) のステップ 1 を参照)。
- ステップ 5** [アラート プロパティ : 電子メール通知 (Alert Properties: Email Notification)] ダイアログボックスで [設定 (Configure)] を選択します。
- ステップ 6** [アラート アクション (Alert Action)] ダイアログボックスで [追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 7** [アクションの設定 (Action Configuration)] ダイアログボックスの [受信者 (Recipients)] 領域で [追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 8** [電子メール/電子ページ アドレスの入力 (Enter email/epage address)] フィールドに、受信者の電子メールまたは電子ページ アドレスを入力します。
- ステップ 9** [OK] を選択します。
- ステップ 10** [アクションの設定 (Action Configuration)] ダイアログボックスで [OK] を選択します。
- ステップ 11** [アラート アクション (Alert Action)] ダイアログボックスで [閉じる (Close)] を選択します。
- ステップ 12** [ユーザ定義の電子メール テキスト (User-defined email text)] ボックスに、電子メール メッセージに表示するテキストを入力します。
- ステップ 13** [保存 (Save)] を選択します。

トレース ダウンロードの有効化

事前に設定されたアラートの中には、イベントが発生するとトレース ダウンロードを開始できるアラートがあります。次のアラートで [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] の [TCT ダウンロードの有効化 (Enable TCT Download)] チェックボックスをオンにすると、特定のイベントが発生したときに、トレースを自動的に取り込みます。

- CriticalServiceDown

- CoreDumpFileFound

**注意**

トレース ダウンロードを有効にすると、サーバのサービスに影響を与える場合があります。多数のダウンロードを設定すると、サーバの QoS に悪影響が生じます。

はじめる前に

アラート アクションを設定します。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの手順を実行して、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] オプションにアクセスします。
- アラームを選択し、そのアラームを右クリックします。
 - [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。
- ステップ 2** [アラートプロパティ: トレース ダウンロード (Alert Properties: Trace Download)] ウィンドウが表示されるまで [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 3** [トレース ダウンロードの有効化 (Enable Trace Download)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** 次の操作を実行します。
- a. プロトコル、ホスト IP アドレス、ユーザ名、パスワード、ポート、およびトレースを保存するためのダウンロード ディレクトリ パスを入力します。
 - b. [テスト接続 (Test Connection)] を選択して SFTP サーバとの接続性を確認します。接続テストに失敗した場合、設定は保存されません。
 - c. [OK] を選択します。
 - d. [TCT ダウンロードのパラメータ (TCT Download Parameters)] ウィンドウに、ダウンロードの回数と頻度を入力します。ダウンロードの回数と頻度を設定すると、ダウンロードされるトレース ファイルの数を制限するのに役立ちます。ポーリングの設定が、頻度のデフォルト設定の基準となります。
 - e. [次へ (Next)] を続けて選択し、[保存 (Save)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

TCT ダウンロードを有効にすると、サーバのサービスに影響を与える場合があります。多数のダウンロードを設定すると、サーバの QoS に悪影響が生じます。

関連項目

- 「アラート アクションの設定」 (P.5-10)

Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止

特定の Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ全体で、一部またはすべてのアラートを一時的に停止する必要がある場合があります。たとえば、Cisco Unified Presence を新しいリリースにアップグレードする場合、アップグレード中に電子メールや電子ページを受信しないように、アップグレードが完了するまですべてのアラートを一時停止する必要があると考えられます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend Cluster/Node Alerts)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

目的	アクション
クラスタ内のすべてのアラートを一時停止する	<ul style="list-style-type: none"> a. [クラスタ全体 (Cluster Wide)] を選択します。 b. [すべてのアラートを一時停止 (Suspend all alerts)] をオンにします。 c. [OK] を選択します。
サーバごとにアラートを一時停止する	<ul style="list-style-type: none"> a. [サーバごと (Per Server)] を選択します。 b. アラートを一時停止する各サーバの [一時停止 (Suspend)] をオンにします。 c. [OK] を選択します。
アラートを再開する	<ul style="list-style-type: none"> a. [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend Cluster/Node Alerts)] を選択します。 b. アラートを再開する各サーバの [一時停止 (Suspend)] をオフにします。 c. [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

サーバごとの一時停止の状態は、Cisco Unified Presence クラスタ全体のアラートには適用されません。

Log Partition Monitoring の設定

Log Partition Monitoring は、システムとともに自動的にインストールされ、設定可能なしきい値を使用して、サーバ上のログパーティションのディスク使用率をモニタします。Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスは、Cisco Unified Presence のインストール後に自動的に開始されます。

Log Partition Monitoring は、次の設定済みのしきい値を使用して、サーバ上のログパーティションのディスク使用率を 5 分ごとにモニタします。

- **LogPartitionLowWaterMarkExceeded** (ディスク領域使用率) : ディスク使用率が指定のパーセンテージを超えると、LPM は **syslog** にアラーム メッセージを送信し、**RTMT Alert Central** にアラートを送信します。ログ ファイルを保存してディスク領域を回復するには、**RTMT** の [Trace & Log Central] オプションを使用します。
- **LogPartitionHighWaterMarkExceeded** (ディスク領域使用率) : ディスク使用率が指定のパーセンテージを超えると、LPM は **syslog** にアラーム メッセージを送信し、**RTMT Alert Central** にアラートを送信します。

さらに、Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスは 5 秒ごとにサーバをチェックして、新たに作成されたコア ダンプ ファイルの有無をチェックします。新しいコア ダンプ ファイルが存在した場合、Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスは、新しい各コア ファイルに関する情報とともに **CoreDumpFileFound** アラームとアラートを **Alert Central** に送信します。

Log Partition Monitoring サービスは、システム起動時に開始されたときに、現在のディスク領域の使用率をチェックします。ディスク使用率のパーセンテージが下限を上回っていても、上限を下回っている場合には、**syslog** にアラーム メッセージが送信され、**RTMT Alert Central** で対応するアラートが生成されます。

Log Partitioning Monitoring を設定するには、**Alert Central** で **LogPartitionLowWaterMarkExceeded** アラートと **LogPartitionHighWaterMarkExceeded** アラートのアラート プロパティを設定します。

サーバからトレースまたはログ ファイルをダウンロードするときに、ユーザはダウンロード後にファイルをサーバから削除することもできます。ログ ファイルをオフロードし、**Real-Time Monitoring Tool** を使用して目的のトレースを収集し、これらのトレースを保存することにより、サーバ上のディスク領域を回復できます。

ディスク使用率のパーセンテージが設定した上限を上回っている場合は、**syslog** にアラーム メッセージが送信され、**RTMT Alert Central** で対応するアラートが生成され、値が下限に達するまでログ ファイルが自動的にページされます。



(注)

Log Partition Monitoring は、アクティブなディレクトリと非アクティブなディレクトリを含む共通のパーティションを自動的に識別します。アクティブなディレクトリには、現行バージョンの Cisco Unified Presence のログ ファイルが含まれており、非アクティブなディレクトリには、以前にインストールされたバージョンの Cisco Unified Presence のログ ファイルが含まれています。必要に応じて、サービスは非アクティブなディレクトリのログ ファイルを先に削除します。次に、すべてのアプリケーションの最も古いログ ファイルから順に、ディスク領域のパーセンテージが設定された下限を下回るまで、アクティブなディレクトリのログ ファイルを削除します。Log Partition Monitoring によってログ ファイルがページされても、システムは電子メールを送信しません。

システムがディスク使用率を判断し、必要なタスク (アラームの送信、アラートの生成、またはログのページ) を実行した後は、ログパーティション モニタリングが通常の 5 分間隔で行われます。

はじめる前に

ログパーティション モニタを利用するには、ネットワーク サービスである Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスが Cisco Unified Serviceability 上のサーバで稼働していることを確認します。サービスを停止すると、機能が失われます。

手順

-
- ステップ 1** [ツール (Tools)] > [Control Center] > [ネットワーク サービス (Network Services)] を選択します。
 - ステップ 2** [サーバ (Servers)] リスト ボックスから、ディスク使用率をモニタする対象のサーバを選択します。
 - ステップ 3** [実行 (Go)] を選択します。
 - ステップ 4** [パフォーマンスおよびモニタリング サービス (Performance and Monitoring Services)] で、Cisco Log Partition Monitoring Tool (LPM) のステータスを確認します。
 - ステップ 5** LPM が稼動していない場合は、[Cisco LPM] の横にあるオプションボタンを選択します。
 - ステップ 6** [開始 (Start)] を選択します。
-

関連項目

「アラート プロパティの設定」(P.5-7)

ベスト プラクティス

これらの推奨事項は、アラートを設定する際に役立ちます。

- 「コア ダンプに関するアラートの設定と関連ログの収集」(P.5-16)

コア ダンプに関するアラートの設定と関連ログの収集

コア ダンプは再現が難しい場合があるため、コア ダンプが発生してから上書きされる前に、関連するログ ファイルを収集することが特に重要です。したがって、コア ダンプの発生時にはすぐに通知を受け取ってトラブルシューティングを支援できるように、コア ダンプに関する電子メール アラートを設定することを検討しておく必要があります。

Real-Time Monitoring Tool での電子メール アラートの有効化

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [Alert Central] を選択します。
 - ステップ 2** [CoreDumpFileFound] アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。
 - ステップ 3** [電子メールの有効化 (Enable Email)] をオンにするなど、ウィザードに従って必要な基準を設定します。
 - ステップ 4** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] を選択します。
 - ステップ 5** 電子メール サーバの設定を入力します。
-

ログの収集

電子メール アラートを受信した際には、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** アラートを発信したサービスを確認します。電子メール メッセージ内では「Core」で示されます。
- ステップ 2** [ツール (Tools)] > [Trace & Log Central] > [ファイルの収集 (Collect Files)] を選択し、影響を受けるすべてのサービスに関連するログを選択します。
- たとえば、サービスが Cisco UP Presence Engine の場合は、Cisco UP Presence Engine、Cisco XCP Router および Cisco UP XCP Connection Manager のログを収集します。または、サービスが Cisco UP XCP Router の場合は、Cisco UP XCP Router と、Cisco UP XCP Connection Manager および Cisco UP Presence Engine のログを収集します。
- ステップ 3** CLI から次のコマンドを実行して、スタック トレースを生成します。
- ```
utils core active list
utils core active analyze core file name
```
- ステップ 4** [ツール (Tools)] > [Trace & Log Central] > [ファイルの収集 (Collect Files)] を選択し、[RIS Data Collector PerfMon ログ (RIS Data Collector PerfMon Log)] を選択します。
- ステップ 5** [ツール (Tools)] > [Syslog ビューア (SysLog Viewer)] を選択してシステム ログを収集します。
- ノードを選択します。
  - [システム ログ (System Logs)] > [メッセージ (messages)] をクリックしてメッセージを表示し、保存します。
  - [アプリケーション ログ (Application Logs)] > [CiscoSyslog] をクリックしてログ ファイルを表示し、保存します。
- ステップ 6** 収集したファイルをシスコのテクニカル サポート ケースに添付します。
-





## CHAPTER 6

# RTMT の Trace and Log Central の設定

- 「トレース収集について」 (P.6-1)
- 「トレース収集の準備方法」 (P.6-3)
- 「トレース収集の設定方法」 (P.6-5)
- 「ローカルブラウザを使用した収集されたトレース ファイルの表示」 (P.6-20)
- 「収集されたトレース ファイルをリモートブラウザで表示する方法」 (P.6-21)
- 「リアルタイム トレースを使用してトレース ファイルを表示する方法」 (P.6-25)
- 「RTMT のトレース設定の更新」 (P.6-29)

## トレース収集について

Trace and Log Central (Cisco Unified Presence Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のオプション) を使用して、各種サービス トレースやその他のログ ファイルを収集、表示、および zip 圧縮できます。Trace and Log Central オプションを使用すると、SDI トレース、アプリケーション ログ、システム ログ (イベント ビューア アプリケーション ログ、セキュリティ ログ、システム ログなど)、クラッシュ ダンプ ファイルを収集できます。

Trace and Log Central 機能では、特定の日付範囲や絶対時間に対してオンデマンドのトレース収集を設定できます。指定した検索条件が含まれているトレース ファイルを収集し、後で使用するためにそのトレース収集条件を保存したり、繰り返し行う 1 つのトレース収集をスケジュールし、トレース ファイルをネットワーク上の SFTP サーバまたは FTP サーバにダウンロードしたり、クラッシュ ダンプ ファイルを収集したりできます。ファイルを収集した後、それらのファイルは、RTMT 内の対応するビューアで表示できます。また、リモートブラウザ機能を使用すると、トレース ファイルをダウンロードしなくても、サーバ上のトレースを表示できます。トレース ファイルは、RTMT に付属する内部ビューアを選択するか、外部ビューアとして適切なアプリケーションを選択することで、開くことができます。

次の推奨事項を考慮してください。

- CSA ログを収集するには、RTMT の [システム サービス/アプリケーションの選択 (Select System Services/Applications) ] タブで [Cisco Security Agent] をオンにします。ログイン中およびログアウト中のユーザに関する情報が得られるユーザ ログにアクセスするには、[システム サービス/アプリケーションの選択 (Select System Services/Applications) ] タブで [セキュリティ ログ (Security Logs) ] をオンにします。
- 暗号化をサポートするデバイスでは、SRTP キー情報はトレース ファイルに出力されません。

- RTMT からは、サーバ上のトレースに対する指定済みのトレース設定を編集することもできます。トレース設定を有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。そのため、トラブルシューティングを目的とした場合にだけトレースを有効にします。
- 収集されたトレース ファイルは、NotePad を使用して表示しないでください。
- 「トレース収集の時間帯と日付範囲」(P.6-2)
- 「トレース収集のログ」(P.6-2)

## トレース収集の時間帯と日付範囲

クライアント コンピュータの時間帯により、[リファレンス サーバ時間帯の選択 (Select Reference Server Time Zone)] フィールドのデフォルトが設定されます。すべての標準時間帯が [時間帯の選択 (Select Time Zone)] リスト ボックスに表示され、[サマータイム (Daylight Saving)] 設定のある時間帯用に独立した一連のエントリも表示されます。

選択された時間帯がサーバ (たとえば、サーバ 1) の時間帯設定と一致していれば、日付範囲内 (開始日から終了日までの間) に修正されたトレース ファイルまたはクラッシュ ダンプ ファイルが収集されます。同じ Cisco Unified Presence クラスタ内に別のサーバ (サーバ 2) が存在する場合、そのサーバが異なる時間帯に属していると、サーバ 2 内の対応する日付範囲内に修正されたファイルがサーバ 2 から収集されます。

- [絶対範囲 (Absolute Range)] : トレースの収集範囲をサーバ時間帯と時間範囲 (開始と終了の日時) で指定します。
- [相対範囲 (Relative Range)] : トレースの収集範囲を現在時刻までの時間 (分数、時間数、日数、週数、または月数) で指定します。

## トレース収集のログ

Cisco Unified Serviceability は、Cisco Unified Presence のログを最大 2 つの Linux ベース バージョンについて保存します。Cisco Unified Serviceability は、ユーザがログイン中の Cisco Unified Presence のバージョンに対するログをアクティブ パーティションに保存し、Cisco Unified Presence の他のバージョン (インストールされている場合) に対するログは非アクティブ ディレクトリに保存します。

Linux プラットフォーム上で動作中の Cisco Unified Presence のバージョンを別のバージョンにアップグレードし、Linux プラットフォーム上で動作している新しいバージョンの Cisco Unified Presence にログインすると、Cisco Unified Serviceability は、前のバージョンのログを非アクティブ パーティションに移し、新しいバージョンのログをアクティブ パーティションに保存します。前のバージョンの Cisco Unified Presence にログインすると、Cisco Unified Serviceability は、新しいバージョンの Cisco Unified Presence のログを非アクティブ パーティションに移し、前のバージョンに対するログをアクティブ ディレクトリに保存します。



(注)

Cisco Unified Serviceability は、Windows プラットフォーム上で動作する Cisco Unified Presence バージョンからのログを保持しません。



## トレース収集の準備方法

RTMT の Trace and Log Central 機能を使用する場合は、Network Access Translation (NAT) なしで RTMT からクラスタ内のすべてのノードに直接アクセスできることを確認します。デバイスへのアクセス用に NAT をセットアップしている場合は、Cisco Unified Presence を IP アドレスではなくホスト名で設定し、ホスト名とそれらに対するルーティング可能な IP アドレスが DNS サーバまたはホストファイルに設定されていることを確認します。

- 「証明書のインポート」 (P.6-3)
- 「RTMT の Trace & Log Central オプションの表示」 (P.6-3)

## 証明書のインポート

クラスタ内の各サーバ用に認証局が発行するサーバ認証証明書をインポートできます。Trace and Log Central オプションを使用する前に、それらの証明書をインポートしておくことを推奨します。証明書をインポートしていないと、RTMT にログインして Trace and Log Central オプションにアクセスするたびに、クラスタ内の各ノードのセキュリティ証明書が表示されます。その証明書に表示される情報を変更することはできません。

### 手順

- 
- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [トレース (Trace)] > [証明書のインポート (Import Certificate)] を選択します。
- ステップ 2** インポートが完了したことを確認するメッセージダイアログが表示されたら、[OK] を選択します。
- 

## RTMT の Trace & Log Central オプションの表示

### はじめる前に

証明書をインポートします。

### 手順

- 
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行して、Trace and Log Central にアクセスします。
- a. クイック起動チャンネル内の [システム (System)] を選択します。
  - b. [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [トレース (Trace)] > [Trace & Log Central] を選択します。
  - c. ツリー階層で [Trace & Log Central] アイコンを選択します。
- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool の Trace and Log Central オプションが表示されたら、次のいずれかの作業を実行します。
- クラスタ内の 1 台以上のサーバに対し、サービス、アプリケーション、およびシステム ログのトレースを収集します。
  - 指定した検索条件が含まれているトレース ファイルを収集し、ダウンロードします。それと同時に、後で使用するためにトレース収集条件を保存します。

## ■ トレースのサポートの種類について

- 繰り返し行うトレース収集をスケジュールし、トレース ファイルをネットワーク上の SFTP サーバまたは FTP サーバにダウンロードします。
- ネットワーク上の 1 台以上のサーバに対してクラッシュ ダンプ ファイルを収集します。
- 収集したトレース ファイルを表示します。
- サーバ上のすべてのトレース ファイルを表示します。
- アプリケーションごとにサーバ上で書き込みが行われている現在のトレース ファイルを表示します。検索文字列がトレース ファイル内で見つかったときに、指定した操作を実行できます。

**トラブルシューティングのヒント**

- ツリー階層に表示されている任意のオプションから、トレースするサービスやアプリケーションの指定、使用するログとサーバの指定、収集日時のスケジュールリング、ファイルをダウンロードする機能の設定、zip ファイルの設定、収集されたトレース ファイルの削除を実行できます。
- 暗号化をサポートするデバイスでは、SRTP キー情報はトレース ファイルに出力されません。

**関連項目**

- 「[トレース収集の設定方法](#)」(P.6-5)
- 「[証明書のインポート](#)」(P.6-3)

## トレースのサポートの種類について

- 「[RTMT の Trace & Log Central におけるディスク I/O と CPU 制御](#)」(P.6-4)
- 「[トレース圧縮サポート](#)」(P.6-4)

## RTMT の Trace & Log Central におけるディスク I/O と CPU 制御

RTMT は、Trace and Log Central の重要なオペレーションとジョブの制御をサポートしています。そのオペレーションとジョブがオン デマンドで実行されているのか、スケジュールされているのか、または自動なのかは問いません。

オンデマンドのオペレーションを要求するとき、ノードが IO 負荷の高い条件下で稼動していると、システムから警告が表示され、そのオペレーションをキャンセルすることができます。警告が表示されるタイミングを制御する IO レートしきい値は、次のサービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) で設定可能です。

- TLC Throttling CPU Goal
- TLC Throttling IOWait Goal

これらのパラメータの値は、実際のシステムの CPU 値と IOWait 値と比較されます。目標 (サービスパラメータの値) が実際の値よりも小さければ、システムから警告が表示されます。

## トレース圧縮サポート

この機能により、ROS (Recoverable Outstream) ライブラリでトレース ファイルの圧縮出力がサポートされます。システムは、ファイルが生成されるときにそれらを圧縮します。トレース ファイルの圧縮の適用には次の利点があります。

- トレース ファイルの保存に必要な容量の削減。
- ディスク ヘッドの移動が減少することによるコール負荷の大幅な改善。これにより、トレース ファイルの要求が原因で CPU がブロックされることがなくなります。

エンタープライズ パラメータ **Trace Compression** を使用して、トレース圧縮の有効化または無効化を行います。このパラメータのデフォルト値では、**Disabled** が指定されます。

圧縮ファイルには **.gz** 拡張子が付きます（ファイルがまだ書き込み中の場合は **.gzo**）。圧縮ファイルを開くには、そのファイル名をダブルクリックします。拡張子にビューアが関連付けられている場合、そのビューアでファイルが開きます。拡張子にビューアが関連付けられていない場合、[ファイルを開くプログラムの選択 (Open With)] ダイアログボックスが表示されます。使用するビューアを選択し、[この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う (Always use this program)] をオンにして、次回からはこのビューア選択プロセスが省略されるようにします。

## トレース収集の設定方法

- 「トレース ファイルの収集」 (P.6-5)
- 「インストール ログの収集」 (P.6-8)
- 「クエリー ウィザードの使用法」 (P.6-8)
- 「トレース収集のスケジュール方法」 (P.6-13)
- 「トレース収集ステータスの表示とスケジュールされた収集の削除」 (P.6-17)
- 「クラッシュ ダンプの収集」 (P.6-17)

## トレース ファイルの収集

Trace and Log Central 機能のトレースの収集オプションを使用して、クラスタ内の 1 台以上のサーバに対してサービス、アプリケーション、およびシステム ログのトレースを収集します。トレースを収集する日時の範囲、トレース ファイルをダウンロードするディレクトリ、収集されたファイルをサーバから削除するかどうかなどを指定します。ここでは、Trace and Log Central 機能を使用してトレースを収集する方法について説明します。

### はじめる前に

- [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウから、各サービスのトレース ファイルに含める情報を設定します。
- アラームがトレース ファイルに送信されるようにする場合は、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでアラーム宛先に SDI トレース ファイルを選択します。
- 指定した検索条件が含まれるトレース ファイルを収集する場合、または後で使用するために保存しておいたトレース収集条件を使用する場合は、クエリー ウィザードを使用します。
- TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定して、Trace and Log Central の重要なオペレーションとジョブの制御を設定します。
- 必要に応じて、Trace Compression エンタープライズ パラメータの値を Enabled に設定して、トレース圧縮を有効にします。

## 手順

**ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。

**ステップ 2** ツリー階層で [ファイルの収集 (Collect Files)] をダブルクリックします。

**ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行して、Cisco Unified Presence のサービスおよびアプリケーションのトレースを収集します。

| 目的                                          | アクション                                                                  |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバからすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する  | [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。 |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する         | 対象サーバの名前をオンにします。                                                       |
| 特定のサーバ上の特定のサービスまたはアプリケーションのトレースを収集する        | 適用するトレースをオンにします。                                                       |
| サービスまたはアプリケーションのトレースを収集しないでトレース収集ウィザードを続行する | <a href="#">ステップ 4</a> に進みます。                                          |

**ステップ 4** [次へ (Next)] を選択します。

**ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行して、システムのサービスおよびアプリケーションのトレースを収集します。

| 目的                                  | アクション                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバのすべてのシステムログを収集する       | [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。                                                                                  |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する | 対象サーバの名前をオンにします。                                                                                                                                        |
| 特定のサーバ上の特定のシステム ログのトレースを収集する        | 適用するトレースをオンにします。<br>たとえば、CSA ログを収集するには、[Cisco Security Agent] をオンにします。ログイン中およびログアウト中のユーザに関する情報が得られるユーザ ログにアクセスするには、[セキュリティ ログ (Security Logs)] をオンにします。 |
| システム ログのトレースを収集しないでトレース収集ウィザードを続行する | <a href="#">ステップ 6</a> に進みます。                                                                                                                           |

**ステップ 6** [次へ (Next)] を選択します。

**ステップ 7** トレースを収集する時間帯と時間範囲を [収集時間 (Collection Time)] グループ ボックスで指定します。

**ステップ 8** トレースを収集するログが格納されているパーティションを [パーティションの選択 (Select Partition)] リスト ボックスから選択します。

**ステップ 9** 次のいずれかの操作を実行して、トレース ファイルをダウンロードします。

| 目的                                | アクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| トレース ファイルをダウンロードするディレクトリを指定する     | <p>a. [ダウンロード ファイル ディレクトリ (Download File Directory) ] フィールドの隣にある [参照 (Browse) ] を選択します。</p> <p>b. 対象のディレクトリに移動します。</p> <p>c. [開く (Open) ] を選択します。</p> <p> (注) デフォルトでは、C:\Program Files\Cisco\Presence Serviceability\jrtmt\&lt;server IP address&gt;\&lt;download time&gt; が指定されます。</p> |
| 収集するトレース ファイルの zip ファイルを作成する      | a. [ファイルを zip 圧縮する (Zip File) ] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ファイルの zip 圧縮なしでトレース ファイルをダウンロードする | a. [ファイルを zip 圧縮しない (Do Not Zip Files) ] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 収集されたログ ファイルをサーバから削除する            | a. [収集されたログ ファイルをサーバから削除する (Delete Collected Log Files from Server) ] をオンにします。                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

**ステップ 10** [完了 (Finish) ] を選択します。

#### トラブルシューティングのヒント

- ウィンドウに、トレース収集の進捗状況が表示されます。トレース収集を中止する場合は、[キャンセル (Cancel) ] を選択します。
- トレース収集プロセスが完了すると、「ノード <IP address> に対するダウンロードが完了しました (Completed downloading for node <IP address>)」というメッセージがウィンドウの下部に表示されます。収集したトレース ファイルを表示するには、トレース収集機能のローカル ブラウズ オプションを使用します。
- クラスタ内に使用不可能なサーバが存在すると、どのサーバが使用不可能かを示すメッセージがダイアログボックスで表示されます。使用不可能なサーバは、[Trace & Log Central] ウィンドウに表示されません。
- 一部の一覧されているサービスまたはアプリケーションをクラスタ内の特定のノード上にだけインストールすることができます。それらのサービスまたはアプリケーションのトレースを収集するには、そのサービスまたはアプリケーションがアクティブにされているサーバからトレースを収集します。
- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを収集できます。

#### 関連項目

- 『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』
- 「トレース収集の時間帯と日付範囲」 (P.6-2)
- 「トレースのサポートの種類について」 (P.6-4)
- 「クエリー ウィザードの使用方法」 (P.6-8)

- 「ローカルブラウザを使用した収集されたトレースファイルの表示」(P.6-20)

## インストール ログの収集

Trace and Log Central でインストールとアップグレードのログを収集できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** 次のいずれかの作業を実行します。
- クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
    - [システム (System)] を選択します。
    - [Trace & Log Central] アイコンを選択します。
  - [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [トレース (Trace)] > [Trace & Log Central] を選択します。
- ステップ 2** [Trace & Log Central] ツリー階層で [インストール ログの収集 (Collect Install Logs)] をダブルクリックします。
- [インストール ログの収集 (Collect Install Logs)] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** どのサーバからインストール ログを収集するかを [サーバの選択オプション (Select Servers Options)] ボックスで指定します。
- a. 特定のサーバのインストール ログを収集する場合は、そのサーバをオンにします。
  - b. すべてのサーバのインストール ログを収集する場合は、[すべてのサーバを選択する (Select All Servers)] をオンにします。
- ステップ 4** ログファイルをダウンロードするディレクトリを [ファイルのダウンロード オプション (Download File Options)] で指定します。
- ログファイルをダウンロードするディレクトリを指定するには、[ダウンロードファイル ディレクトリ (Download File Directory)] フィールドの隣にある [参照 (Browse)] を選択し、対象のディレクトリに移動し、[開く (Open)] を選択します。デフォルトでは、<rtmt\_install\_directory> が指定されます。ここで、<rtmt\_install\_directory> は RTMT がインストールされているディレクトリです。
- ステップ 5** [完了 (Finish)] を選択します。
- 

## クエリー ウィザードの使用方法

- 「クエリーの開始」(P.6-9)
- 「クエリーの実行」(P.6-11)

### はじめる前に

- [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウから、各サービスのトレース ファイルに含める情報を設定します。
- アラームがトレース ファイルに送信されるようにする場合は、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでアラーム宛先に SDI トレース ファイルを選択します。

## クエリーの開始

## 手順

- ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。
- ステップ 2** ツリー階層で [クエリー ウィザード (Query Wizard) ] をダブルクリックします。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的               | アクション                                                                                                                                                      | 結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保存されているクエリーを実行する | <p><b>a.</b> [保存クエリー (Saved Query) ] を選択します。</p> <p><b>b.</b> [参照 (Browse) ] を選択して、使用するクエリーがある場所に移動します。</p> <p><b>c.</b> クエリーを選択し、[開く (Open) ] を選択します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>単一ノード汎用クエリーを選択すると、[参照 (Browse) ] の隣に RTMT の接続先ノードがチェックマークを付けて表示されます。このクエリーを他のノードに対しても実行する場合は、それらのサーバの隣にチェックマークを付けます。</li> <li>全ノード汎用クエリーを選択すると、[参照 (Browse) ] の隣にすべてのノードがチェックマークを付けて表示されます。このクエリーを実行したくないサーバがある場合は、そのサーバをオフにします。</li> <li>通常クエリーを選択すると、そのクエリーの保存時に選択したすべてのノードが、チェックマークを付けて表示されます。このリスト内の任意のサーバをオンまたはオフにできます。新しいサーバを選択する場合は、ウィザードを使用してそのノードのサービスを選択する必要があります。</li> </ul> |
| クエリーを作成する        | [クエリーの作成 (Create Query) ] を選択します。                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 修正せずにクエリーを実行する   | <p><b>a.</b> [クエリーの実行 (Run Query) ] を選択します。</p> <p><b>b.</b> <a href="#">スケジュールの実行の手順</a>を実行します。</p>                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| クエリーを修正する        | <a href="#">ステップ 4</a> に進みます。                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

- ステップ 4** [次へ (Next) ] を選択します。
- ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。
- a.** [保存クエリー (Saved Query) ] を選択してクエリーを選択した場合は、クエリーに指定していた条件が表示されます。必要に応じて、トレースを収集するサービスとアプリケーションのリストを修正します。
- b.** [クエリーの作成 (Create Query) ] を選択した場合は、トレースを収集するすべてのサービスとアプリケーションを選択する必要があります。
- ステップ 6** [次へ (Next) ] を選択します。

**ステップ 7** 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                           | アクション                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバに対して特定またはすべてのシステム ログのトレースを収集する  | <p>a. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 適用するトレースをオンにします。</li> <li>- [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。</li> </ul> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p> |
| クラスタ内のすべてのサーバに対してすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する | <p>a. [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                                                                  |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する          | <p>a. 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                                                                                                                        |

**ステップ 8** 次のいずれかの操作を実行して、トレースを収集する時間範囲を指定します。

| 目的                             | アクション                                                                                                     |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 選択したサービスについてサーバ上のすべてのトレースを収集する | [使用可能なすべてのトレース (All Available Traces)] を選択します。                                                            |
| 絶対日時範囲内のすべてのトレースを収集する          | <p>a. [絶対範囲 (Absolute Range)] を選択します。</p> <p>b. トレースを収集するサーバ時間帯と時間範囲 (開始と終了の日時) を指定します。</p>               |
| 相対日時範囲内のすべてのトレースを収集する          | <p>a. [相対範囲 (Relative Range)] を選択します。</p> <p>b. 現在時刻までのトレースをどのくらい前から収集するかを指定します (分数、時間数、日数、週数、または月数)。</p> |

**ステップ 9** 単語または句を [検索文字列 (Search String)] フィールドに入力して、トレース ファイル内に存在する句または単語を検索します。このツールでは、入力した単語または句に対して完全に一致するものが検索されます。

#### 次の作業

[「クエリーの実行」 \(P.6-11\)](#)

#### 関連項目

- 『Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence』



## クエリーの実行

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。

- a. [クエリーの実行 (Run Query)] を選択してクエリーを実行します。
  - クエリーの実行が完了したことを示すダイアログボックスが表示されたら、[OK] を選択します。
  - **ステップ 2** に進みます。
- b. [クエリーの保存 (Save Query)] を選択してクエリーを保存し、**ステップ 6** に進みます。

**ステップ 2** 次の操作を実行します。

| 目的                                | アクション                                                                                                                                                                                                       | 結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 他のノード上で実行可能なクエリーを作成する             | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [汎用クエリー (Generic Query)] を選択します。</li> <li>b. [単一ノードクエリー (Single Node Query)] または [全ノードクエリー (All Node Query)] を選択します。</li> <li>c. [完了 (Finish)] を選択します。</li> </ol> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択したサービスが単一ノード上に存在する場合、作成できるのは汎用クエリーだけです。2 つ以上のノード上にあるサービスを選択すると、メッセージが表示されます。そのクエリーを通常クエリーとして保存するか、単一ノード上のサービスを選択することができます。</li> <li>• [単一ノードクエリー (Single Node Query)] を選択した場合、そのクエリーを実行するとき、そのクエリーを作成したときのサーバがトレース収集ツールによってデフォルトで選択されます。</li> <li>• [全ノードクエリー (All Node Query)] オプションを選択した場合、そのクエリーを実行するとき、クラスタ内のすべてのサーバがトレース収集ツールによってデフォルトで選択されます。</li> </ul> |
| クエリーを作成したときのノードまたはクラスタ上でクエリーを実行する | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [通常クエリー (Regular Query)] を選択します。</li> <li>b. [完了 (Finish)] を選択します。</li> </ol>                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

**ステップ 3** クエリーを保存する場所を参照し、クエリーの名前を [ファイル名 (File Name)] フィールドに入力します。

**ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。

**ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                             | アクション                                                                                                               |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 先ほど保存したクエリーを実行する               | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [クエリーの実行 (Run Query)] を選択します。</li> <li>b. <b>ステップ 6</b> に進みます。</li> </ol> |
| 作成したクエリーを実行しないでクエリー ウィザードを終了する | [キャンセル (Cancel)] を選択します。                                                                                            |

**ステップ 6** クエリーの実行が完了したら、次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                                     | アクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 収集したファイルを表示する                                          | 次の手順に従って、ファイルの場所に移動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [クエリー結果 (Query Results)] をダブルクリックします。</li> <li>• &lt;node&gt; フォルダをダブルクリックします。ここで、&lt;node&gt; は、ウィザードで指定したサーバの IP アドレスまたはホスト名です。</li> <li>• 表示するファイルが格納されているフォルダをダブルクリックします。</li> <li>• ファイルが見つかったら、そのファイルをダブルクリックします。</li> </ul>                       |
| トレース ファイル、およびクエリーで収集されたトレース ファイルのリストを含む結果ファイルをダウンロードする | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. ダウンロードするファイルを選択します。</li> <li>b. [ダウンロード (Download)] を選択します。</li> <li>c. ダウンロードの条件を指定します。</li> <li>d. [完了 (Finish)] を選択します。</li> </ol>                                                                                                                                           |
| トレース ファイルと結果ファイルをダウンロードするディレクトリを指定する                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [すべてのファイルのダウンロード (Download all files)] フィールドの隣にある [参照 (Browse)] を選択します。</li> <li>b. 対象のディレクトリに移動します。</li> <li>c. [開く (Open)] を選択します。</li> </ol> <p>(注) デフォルトでは、C:\Program Files\Cisco\Presence Serviceability\rtmt\&lt;server IP address&gt;\&lt;download time&gt; が指定されます。</p> |
| 収集したトレース ファイルから zip ファイルを作成する                          | [ファイルを zip 圧縮する (Zip File)] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 収集されたログ ファイルをサーバから削除する                                 | [収集されたログ ファイルをサーバから削除する (Delete Collected Log Files from Server)] をオンにします。                                                                                                                                                                                                                                                |
| クエリーを保存する                                              | <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [クエリーの保存 (Save Query)] を選択します。</li> <li>b. <b>ステップ 2</b> から <b>ステップ 4</b> を実行します。</li> </ol>                                                                                                                                                                                    |

**トラブルシューティングのヒント**

- クラスタ内に使用不可能なサーバが存在すると、どのサーバが使用不可能かを示すメッセージがダイアログボックスで表示されます。使用不可能なサーバは、[Trace & Log Central] ウィンドウに表示されません。
- 一部の閲覧されているサービスまたはアプリケーションをクラスタ内の特定のノード上にだけインストールすることができます。それらのサービスまたはアプリケーションのトレースを収集するには、そのサービスまたはアプリケーションがアクティブにされているサーバからトレースを収集します。

- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを収集できます。
- トレース ファイルのダウンロードが完了したら、Trace and Log Central 機能のローカル ブラウズ オプションを使用してそれらを表示できます。
- サービス パラメータの値を超過するか、システムが Code Yellow 状態になると、エラー メッセージが表示されます。

#### 関連項目

「ローカル ブラウズを使用した収集されたトレース ファイルの表示」(P.6-20)

## トレース収集のスケジュール方法

Trace and Log Central 機能の収集のスケジュール オプションを使用して、繰り返し実行する最大 6 つの同時トレース収集をスケジュールできます。また、トレース ファイルをネットワーク上の SFTP サーバにダウンロードしたり、別の保存クエリーを実行したり、syslog ファイルを生成したりできます。スケジュールされた収集を入力後に変更するには、そのスケジュールされた収集を削除し、新しい収集イベントとして追加する必要があります。トレース収集をスケジュールするには、次の手順を実行します。



(注) トレース収集ジョブは 10 個までスケジュールできますが、同時に存在できるトレース収集は 6 つだけです。つまり、6 つのジョブだけが同時に実行状態になることができます。

- 「スケジュールの開始」(P.6-13)
- 「スケジュールの実行」(P.6-15)

## スケジュールの開始

### はじめる前に

- [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウから、各サービスのトレース ファイルに含める情報を設定します。
- アラームがトレース ファイルに送信されるようにする場合は、[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでアラーム宛先に SDI トレース ファイルを選択します。

### 手順

- ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。
- ステップ 2** ツリー階層で [収集のスケジュール (Schedule Collection)] をダブルクリックします。

**ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行して、Cisco Unified Presence ログに関するトレースを収集します。

| 目的                                           | アクション                                                                                                          |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバに対してすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する | <p>a. [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p> |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する          | <p>a. 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                       |
| 特定のサーバ上の特定のサービスまたはアプリケーションのトレースを収集する         | <p>a. 適用するトレースをオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                       |
| サービスまたはアプリケーションのトレースを収集しないでトレース収集ウィザードを続行する  | [次へ (Next)] を選択します。                                                                                            |

**ステップ 4** 次のいずれかの操作を実行して、システム ログに関するトレースを収集します。

| 目的                                  | アクション                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバのすべてのシステム ログを収集する      | <p>a. [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on all Servers)] をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                     |
| 特定のサーバ上のすべてのシステム ログのトレースを収集する       | <p>a. 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                                                                           |
| 特定のサーバ上の特定のシステム ログのトレースを収集する        | <p>適用するトレースをオンにします。</p> <p>たとえば、CSA ログを収集するには、[Cisco Security Agent] をオンにします。ログイン中およびログアウト中のユーザに関する情報が得られるユーザ ログにアクセスするには、[セキュリティ ログ (Security Logs)] をオンにします。</p> |
| システム ログのトレースを収集しないでトレース収集ウィザードを続行する | [次へ (Next)] を選択します。                                                                                                                                                |

**ステップ 5** トレースを収集するサーバ時間帯と時間範囲を指定します。

**ステップ 6** 次の操作を実行して、トレース収集を開始する日時を指定します。

- [開始日時のスケジュール (Schedule Start Date/Time)] フィールドの隣にある下矢印ボタンを選択します。
- [日付 (Date)] タブから、適切な日付を選択します。
- [時刻 (Time)] タブから、適切な時刻を選択します。

**ステップ 7** トレース収集を終了する日時を指定するには、次の操作を実行します。

- [終了日時のスケジュール (Schedule End Date/Time)] フィールドの隣にある下矢印ボタンを選択します。
- [日付 (Date)] タブから、適切な日付を選択します。
- [時刻 (Time)] タブから、適切な時刻を選択します。

### トラブルシューティングのヒント

- クライアント コンピュータの時間帯により、[リファレンス サーバ時間帯の選択 (Select Reference Server Time Zone)] フィールドのデフォルトが設定されます。すべての標準時間帯が [時間帯の選択 (Select Time Zone)] リスト ボックスに表示され、[サマータイム (Daylight Saving)] 設定のある時間帯用に独立した一連のエントリも表示されます。
- トレース収集は、設定された終了時刻を過ぎても最後まで実行します。ただし、その場合の収集は、Trace and Log Central 機能によってスケジュールから削除されません。

### 関連項目

- 『*Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』

### 次の作業

[「スケジュールの実行」 \(P.6-15\)](#)

## スケジュールの実行

### 手順

- ステップ 1** 設定されたトレース収集を実行する頻度を [スケジューラ頻度 (Scheduler Frequency)] リスト ボックスから選択します。
- ステップ 2** 現在時刻までのトレースをどのくらい前から収集するかを指定します (分数、時間数、日数、週数、または月数)。
- ステップ 3** 単語または句を [検索文字列 (Search String)] フィールドに入力して、トレース ファイル内に存在する句または単語を検索します。このツールでは、入力した単語または句に対して完全に一致するものが検索され、その検索条件に一致するファイルのみが収集されます。
- ステップ 4** [すべてのファイルを zip 圧縮する (Zip All Files)] をオンにして、収集したトレース ファイルから zip ファイルを作成します。
- ステップ 5** [収集されたログ ファイルをサーバから削除する (Delete Collected Log Files from the Server)] をオンにして、収集されたログ ファイルをサーバから削除します。

**ステップ 6** 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

| 目的            | アクション                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ファイルをダウンロードする | <p>a. [ファイルのダウンロード (Download Files)] を選択します。</p> <p>b. [SFTP サーバパラメータ (SFTP Server Parameters)] グループ ボックスに、Trace and Log Central 機能が結果をダウンロードするサーバのサーバ クレデンシアルを入力します。</p> <p>c. [接続のテスト (Test Connection)] を選択します。</p> <p>d. Trace and Log Central 機能が SFTP サーバへの接続を検証した後、[OK] を選択します。</p> |
| 別のクエリを実行する    | <p>a. [別のクエリの実行 (Run Another Query)] を選択します。</p> <p>b. [参照 (Browse)] を選択して、実行するクエリの場所を指定します。</p> <p>c. [OK] を選択します。</p>                                                                                                                                                                    |
| Syslog を生成する  | [Syslog の生成 (Generate Syslog)] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                     |

**ステップ 7** [完了 (Finish)] を選択します。

#### トラブルシューティングのヒント

- クラスタ内に使用不可能なサーバが存在すると、どのサーバが使用不可能かを示すメッセージがダイアログボックスで表示されます。使用不可能なサーバは、[Trace & Log Central] ウィンドウに表示されません。
- Real-Time Monitoring Tool が SFTP サーバにアクセスできない場合、メッセージが表示されます。入力した IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードが正しいことを確認してください。
- 一部の一覧されているサービスまたはアプリケーションをクラスタ内の特定のノード上にだけインストールすることができます。それらのサービスまたはアプリケーションのトレースを収集するには、そのサービスまたはアプリケーションがアクティブにされているサーバからトレースを収集します。
- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを収集できます。
- トレース収集は、設定された終了時刻を過ぎても最後まで実行します。ただし、その場合の収集は、Trace and Log Central 機能によってスケジュールから削除されません。
- [ダウンロード ディレクトリ パス (Download Directory Path)] フィールドは、Trace and Log Central 機能によって収集されたファイルが保存されるディレクトリを指定します。トレース収集のデフォルトでは、SFTP パラメータのフィールドに指定されたユーザ ID のユーザのホーム ディレクトリ (/home/<user>/Trace) 内にファイルが保存されます。
- Trace and Log Central 機能では、最初のクエリで結果が生成される場合、指定されたクエリのみが実行されます。

## トレース収集ステータスの表示とスケジュールされた収集の削除

トレース収集イベントのステータスを表示し、スケジュールされたトレース収集を削除できます。使用可能なジョブタイプには、[スケジュールされたジョブ (Scheduled Job)]、[オンデマンド (OnDemand)]、[リアルタイムファイルモニタ (RealTimeFileMon)]、[リアルタイムファイル検索 (RealTimeFileSearch)] などがあります。使用可能なステータスには、[保留中 (Pending)]、[終了 (Terminated)]、[実行中 (Running)]、[キャンセル (Cancel)]、[終了 (Terminated)] などがあります。

### 手順

- 
- ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。
  - ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
    - a. クイック起動チャンネルで [ジョブ ステータス (Job Status)] をダブルクリックします。
    - b. [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [トレース (Trace)] > [ジョブ ステータス (Job Status)] を選択します。
  - ステップ 3** トレース収集イベントを表示または削除するサーバを [ノードの選択 (Select a Node)] リストボックスから選択します。
  - ステップ 4** 削除するイベントを選択し、[削除 (Delete)] を選択します。
  - ステップ 5** 確認メッセージが表示されたら、[OK] を選択します。
- 

### トラブルシューティングのヒント

- ジョブを削除できるのは、そのステータスが [保留中 (Pending)] または [実行中 (Running)] で、ジョブタイプが [スケジュールタスク (ScheduleTask)] の場合だけです。
- Cisco Unified Presence は、Q931 トランスレータをサポートしません。Cisco Unified Presence は、QRT レポート情報をサポートしません。

## クラッシュ ダンプの収集

ネットワーク上の 1 台以上のサーバに対してクラッシュ ダンプ ファイルを収集できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。
  - ステップ 2** [クラッシュ ダンプの収集 (Collect Crash Dump)] をダブルクリックします。

**ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                                     | アクション                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバに対してすべてのサービスとアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する | <p>a. [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p> |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する          | <p>a. 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                       |
| 特定のサーバ上の特定のサービスまたはアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する         | <p>a. 適用するトレースをオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                       |
| サービスまたはアプリケーションのトレースを収集しないでクラッシュ ダンプの収集ウィザードを続行する      | [次へ (Next)] を選択します。                                                                                            |

**ステップ 4** 次のいずれかの操作を実行して、システム ログに関するクラッシュ ダンプ ファイルを収集します。

| 目的                                        | アクション                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバのすべてのシステム ログを収集する            | <p>a. [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on all Servers)] をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                     |
| 特定のサーバ上のすべてのシステム ログのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する   | <p>a. 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p>                                                                                                           |
| 特定のサーバ上の特定のシステム ログのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する    | <p>適用するトレースをオンにします。</p> <p>たとえば、CSA ログを収集するには、[Cisco Security Agent] をオンにします。ログイン中およびログアウト中のユーザに関する情報が得られるユーザ ログにアクセスするには、[セキュリティ ログ (Security Logs)] をオンにします。</p> |
| システム ログのトレースを収集しないでクラッシュ ダンプの収集ウィザードを続行する | [次へ (Next)] を選択します。                                                                                                                                                |

**ステップ 5** トレースを収集する時間帯と時間範囲を [収集時間 (Collection Time)] グループ ボックスで指定します。「トレース収集の時間帯と日付範囲」(P.6-2) に示されているオプションのいずれかを選択します。

**ステップ 6** トレースを収集するログが格納されているパーティションを [パーティションの選択 (Select Partition)] リスト ボックスから選択します。



**ステップ 7** 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                     | アクション                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラッシュ ダンプ ファイルをダウンロードするディレクトリを指定する     | <p>a. [ダウンロード ファイル ディレクトリ (Download File Directory) ] フィールドの隣にある [参照 (Browse) ] を選択します。</p> <p>b. 対象のディレクトリに移動します。</p> <p>c. [開く (Open) ] を選択します。</p> <p>(注) デフォルトでは、C:\Program Files\Cisco\Presence Serviceability\jrtmt\&lt;server IP address&gt;\&lt;download time&gt; が指定されます。</p> |
| 収集したクラッシュ ダンプ ファイルから zip ファイルを作成する     | [ファイルを zip 圧縮する (Zip File) ] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ファイルの zip 圧縮なしでクラッシュ ダンプ ファイルをダウンロードする | [ファイルを zip 圧縮しない (Do Not Zip Files) ] を選択します。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 収集されたクラッシュ ダンプ ファイルをサーバから削除する          | [収集されたログ ファイルをサーバから削除する (Delete Collected Log Files from the server) ] をオンにします。                                                                                                                                                                                                        |

**ステップ 8** [完了 (Finish) ] を選択します。

コア ダンプを収集することを示すメッセージが表示されます。続行するには、[はい (Yes) ] を選択します。

#### トラブルシューティングのヒント

- クラスタ内に使用不可能なサーバが存在すると、どのサーバが使用不可能かを示すメッセージがダイアログボックスで表示されます。使用不可能なサーバは、[Trace & Log Central] ウィンドウに表示されません。
- 一部の一覧されているサービスまたはアプリケーションをクラスタ内の特定のノード上にだけインストールすることができます。それらのサービスまたはアプリケーションのトレースを収集するには、そのサービスまたはアプリケーションがアクティブにされているサーバからトレースを収集します。
- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを収集できます。
- zip 圧縮されるクラッシュ ダンプ ファイルは、2 ギガバイトを超えるとダウンロードできません。[ファイルを zip 圧縮する (Zip File) ] オプション ボタンを選択した場合、クラッシュ ダンプ ファイルが 2 ギガバイトを超えると、そのサイズのクラッシュ ダンプ ファイルは [ファイルを zip 圧縮する (Zip File) ] オプション ボタンを選択して収集できないことを示すメッセージがシステムによって表示されます。[ファイルを zip 圧縮しない (Do Not Zip Files) ] オプション ボタンを選択してから、収集を再試行します。

#### 関連項目

- 「ローカル ブラウズを使用した収集されたトレース ファイルの表示」 (P.6-20)
- 「収集されたトレース ファイルをリモート ブラウズで表示する方法」 (P.6-21)
- 「リアルタイム トレースを使用してトレース ファイルを表示する方法」 (P.6-25)
- 「RTMT のトレース設定の更新」 (P.6-29)

# ローカル ブラウズを使用した収集されたトレース ファイルの表示

トレース ファイルを収集し、それらを自分の PC にダウンロードしたら、UNIX タイプの行終了文字を扱うことのできる WordPad などのテキスト エディタを使用してそれらを PC 上で表示できます。あるいは、Real-Time Monitoring Tool 内のビューアを使用してそれらを表示することもできます。



(注)

収集されたトレース ファイルは、NotePad を使用して表示しないでください。

PC へのダウンロード時にトレース ファイルを zip 圧縮した場合、Real-Time Monitoring Tool 内のビューアを使用してそれらを表示するには、それらを解凍しておく必要があります。

## はじめる前に

「[トレース ファイルの収集](#)」(P.6-5) の説明に従ってトレース ファイルを収集します。

## 手順

- ステップ 1 Trace & Log Central を開きます。
- ステップ 2 [ローカル ブラウズ (Local Browse)] をダブルクリックします。
- ステップ 3 ログ ファイルを保存したディレクトリを参照し、表示するファイルを選択します。
- ステップ 4 ファイルをダブルクリックして結果を表示します。
- ステップ 5 次の操作を実行します。
  - a. ファイルの表示に使用するプログラム (ビューア) を選択します。
  - b. 目的のプログラムがリスト上にない場合は、[その他 (Other)] を選択して別のプログラムを選択します。
  - c. このプログラムをデフォルトのビューアとして使用する場合は、[この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う (Always use this program to open these files)] をオンにします。

## トラブルシューティングのヒント

- Real Time Monitoring Tool (RTMT) は、ファイルをファイル タイプに応じて適切なビューアで表示します。他に適切なビューアがなければ、Real-Time Monitoring Tool は Generic Log Viewer でファイルを開きます。
- Cisco Unified Presence は、Q931 トランスレータをサポートしません。Cisco Unified Presence は、QRT レポート情報をサポートしません。

## 関連項目

- 「[トレース ファイルの収集](#)」(P.6-5)
- 「[クエリー ウィザードの使用](#)」(P.6-8)
- 「[トレース収集のスケジュール](#)」(P.6-13)

# 収集されたトレース ファイルをリモート ブラウズで表示する方法

- 「トレース収集属性の設定」(P.6-21)
- 「トレース結果の表示」(P.6-23)

## トレース収集属性の設定

### はじめる前に

「トレース ファイルの収集」(P.6-5) の説明に従ってトレース ファイルを収集します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。
- ステップ 2** [リモートブラウズ (Remote Browse)] をダブルクリックします。
- ステップ 3** 適切なオプション ボタン ([トレース ファイル (Trace Files)] または [クラッシュ ダンプ (Crash Dump)]) を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。
- [トレース ファイル (Trace Files)] を選択した場合、**ステップ 6** に進みます。
  - [クラッシュ ダンプ (Crash Dump)] を選択した場合、**ステップ 8** に進みます。
- ステップ 6** [CUP アプリケーション/サービス (CUP Applications/Services)] タブで、次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                           | アクション                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバに対してすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する | <ol style="list-style-type: none"> <li>[すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers)] をオンにします。</li> <li>[次へ (Next)] を選択します。</li> </ol> |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのトレースを収集する          | <ol style="list-style-type: none"> <li>対象サーバの名前をオンにします。</li> <li>[次へ (Next)] を選択します。</li> </ol>                                                       |
| 特定のサーバ上の特定のサービスまたはアプリケーションのトレースを収集する         | <ol style="list-style-type: none"> <li>適用するトレースをオンにします。</li> <li>[次へ (Next)] を選択します。</li> </ol>                                                       |
| サービスまたはアプリケーションのトレースを収集しないでトレース収集ウィザードを続行する  | [次へ (Next)] を選択します。                                                                                                                                   |

## ■ 収集されたトレース ファイルをリモート ブラウズで表示する方法

**ステップ 7** [システム サービス/アプリケーションの選択 (Select System Services/Application) ] タブで、次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                      | アクション                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバのすべてのシステム ログを収集する          | <p><b>a.</b> [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on all Servers) ] をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>                                                                                          |
| 特定のサーバ上のすべてのシステム ログのトレースを収集する           | <p><b>a.</b> 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>                                                                                                                                                 |
| 特定のサーバ上の特定のシステム ログのトレースを収集する            | <p><b>a.</b> 適用するトレースをオンにします。</p> <p>(注) たとえば、CSA ログを収集するには、[Cisco Security Agent] をオンにします。ログイン中およびログアウト中のユーザに関する情報が得られるユーザ ログにアクセスするには、[セキュリティ ログ (Security Logs) ] をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p> |
| システム ログのトレースを収集しないでリモート ブラウズ ウィザードを続行する | ステップ 10 に進みます。                                                                                                                                                                                                          |

**ステップ 8** [CUP アプリケーション/サービス (CUP Applications/Services) ] タブで、次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                                     | アクション                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバに対してすべてのサービスとアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する | <p><b>a.</b> [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers) ] をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p> |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する          | <p><b>a.</b> 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>                                                        |
| 特定のサーバ上の特定のサービスまたはアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する         | <p><b>a.</b> 適用するトレースをオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>                                                        |

**ステップ 9** [システム サービス/アプリケーションの選択 (Select System Services/Application) ] タブで、次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                                     | アクション                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クラスタ内のすべてのサーバに対してすべてのサービスとアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する | <p><b>a.</b> [すべてのサーバ上のすべてのサービスを選択する (Select All Services on All Servers) ] をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p> |
| 特定のサーバ上のすべてのサービスとアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する          | <p><b>a.</b> 対象サーバの名前をオンにします。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>                                                        |

| 目的                                             | アクション                                          |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 特定のサーバ上の特定のサービスまたはアプリケーションのクラッシュ ダンプ ファイルを収集する | a. 適用するトレースをオンにします。<br>b. [次へ (Next) ] を選択します。 |
| クラッシュ ダンプ ファイルを収集しないでクラッシュ ダンプの収集ウィザードを続行する    | <a href="#">ステップ 10</a> に進みます。                 |

**ステップ 10** [完了 (Finish) ] を選択します。

#### 関連項目

- 「[トレース ファイルの収集](#)」 (P.6-5)
- 「[クエリー ウィザードの使用](#)方法」 (P.6-8)
- 「[トレース収集のスケジュール](#)方法」 (P.6-13)

#### 次の作業

[「トレース結果の表示」](#) (P.6-23)

## トレース結果の表示

#### はじめる前に

トレース収集属性を設定します。

#### 手順

**ステップ 1** トレース結果が使用可能になったことを示すメッセージが表示されたら、[閉じる (Close) ] を選択します。

## ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                                                     | アクション                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 結果を表示する                                                | <p>a. 次のいずれかの操作を実行して、ファイルを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- マウスを右クリックして、ファイルの表示に使用するプログラムの種類を選択します。</li> <li>- ファイルをダブルクリックして、デフォルトビューアでファイルを表示します。</li> </ul>                                                                               |
| トレース ファイル、およびクエリーで収集されたトレース ファイルのリストを含む結果ファイルをダウンロードする | <p>a. ダウンロードするファイルを選択します。</p> <p>b. [ダウンロード (Download)] を選択します。</p> <p>c. ダウンロードの条件を指定します。</p> <p>d. [完了 (Finish)] を選択します。</p>                                                                                                                                 |
| トレース ファイルと結果ファイルをダウンロードするディレクトリを指定する                   | <p>a. [すべてのファイルのダウンロード (Download all files)] フィールドの隣にある [参照 (Browse)] を選択します。</p> <p>b. 対象のディレクトリに移動します。</p> <p>c. [開く (Open)] を選択します。デフォルトでは、C:\Program Files\Cisco\Presence Serviceability\rtmt\&lt;server IP address&gt;\&lt;download time&gt; が指定されます。</p> |
| 収集したトレース ファイルから zip ファイルを作成する                          | [ファイルを zip 圧縮する (Zip File)] をオンにします。                                                                                                                                                                                                                           |
| 収集されたログ ファイルをサーバから削除する                                 | [収集されたログ ファイルをサーバから削除する (Delete Collected Log Files from Server)] をオンにします。                                                                                                                                                                                     |
| トレース ファイルをノードから削除する                                    | <p>a. ウィンドウの右側のペイン内に表示されているファイルを選択します。</p> <p>b. [削除 (Delete)] を選択します。</p>                                                                                                                                                                                     |
| 特定のサービスまたはノードを更新する                                     | <p>a. サーバ名またはサービスを選択します。</p> <p>b. [更新 (Refresh)] を選択します。</p> <p>c. リモートブラウザの準備が整ったことを示すメッセージが表示されたら、[閉じる (Close)] を選択します。</p>                                                                                                                                 |
| ツリー階層に表示されているすべてのサービスとノードを更新する                         | <p>a. [すべて更新 (Refresh All)] を選択します。</p> <p>b. リモートブラウザの準備が整ったことを示すメッセージが表示されたら、[閉じる (Close)] を選択します。</p>                                                                                                                                                       |

### トラブルシューティングのヒント

- 一部の一覧されているサービスまたはアプリケーションをクラスタ内の特定のノード上にだけインストールすることができます。それらのサービスまたはアプリケーションのトレースを選択するには、そのサービスまたはアプリケーションがアクティブにされているサーバからトレースを選択します。
- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを選択できます。
- トレース ファイルのダウンロードが完了したら、Trace and Log Central 機能のローカル ブラウズ オプションを使用してそれらを表示できます。
- ペイン内に表示されているファイルをソートするには、カラム ヘッダーを選択します。たとえば、ファイルを名前ですортするには、[名前 (Name)] カラム ヘッダーを選択します。
- Real-Time Monitoring Tool は、ファイルをファイル タイプに応じて適切なビューアで表示します。他に適切なビューアがなければ、Real-Time Monitoring Tool は Generic Log Viewer でファイルを開きます。
- Cisco Unified Presence は、Q931 トランスレータをサポートしません。Cisco Unified Presence は、QRT レポート情報をサポートしません。

### 関連項目

- 「トレース収集属性の設定」(P.6-21)
- 「ローカル ブラウズを使用した収集されたトレース ファイルの表示」(P.6-20)

## リアルタイム トレースを使用してトレース ファイルを表示する方法

RTMT の Trace and Log Central 機能のリアルタイム トレース オプションでは、アプリケーションごとにサーバ上で書き込みが行われている現在のトレース ファイルを表示できます。システムがトレース ファイルへの書き込みをすでに開始していた場合、リアルタイム トレースは、トレース ファイルの先頭からではなく、モニタリングを開始したポイントからファイルの読み取りを開始します。それ以前の内容を読み取ることはできません。

- 「リアルタイム データの表示」(P.6-25)
- 「ユーザ イベントのモニタリング」(P.6-26)

## リアルタイム データの表示

Trace and Log Central 機能のリアルタイム データの表示オプションでは、トレース ファイルをシステムによるデータの書き込みを反映して表示できます。リアルタイム トレース データは、最大 10 個のサービスについて Generic Log Viewer で表示できます。そのうち 5 個のサービスは、単一ノード上に存在できます。このログ ビューアでは、5 秒ごとに更新が行われます。トレースが新しいファイルに書き込まれると、Generic Log Viewer は、その内容をビューア内に追加します。



(注) リアルタイム データの表示オプションでは、サービスがトレースを書き込む頻度によっては、Generic Log Viewer でのデータの表示に遅延が発生します。

### 手順

- ステップ 1 Trace & Log Central を開きます。
- ステップ 2 [リアルタイム トレース (Real Time Trace) ] をダブルクリックします。
- ステップ 3 [リアルタイム データの表示 (View Real Time Data) ] をダブルクリックします。
- ステップ 4 リアルタイム データを表示するノードを選択し、[次へ (Next) ] を選択します。
- ステップ 5 リアルタイム データを表示する製品、サービス、およびトレース ファイル タイプを選択し、[完了 (Finish) ] を選択します。
- ステップ 6 次のいずれかの操作を実行します。
  - a. [自動スクロールを有効にする (Enable Auto-Scrolling) ] をオンにして、新しいトレースが常に表示されるようにカーソルをウィンドウの最後に維持します。
  - b. 新しいトレースが表示されてもカーソルをウィンドウの最下部に移動させない場合は、[自動スクロールを有効にする (Enable Auto-Scrolling) ] をオフにします。
- ステップ 7 他のサービスのデータを表示するには、この手順を繰り返します。
- ステップ 8 リアルタイム データの表示が完了したら、Generic Log Viewer で [閉じる (Close) ] を選択します。

### トラブルシューティングのヒント

- 最大 10 個のサービスについてデータを表示できます。そのうち 5 個のサービスは、単一ノード上に存在できます。全体または単一ノード上での制限数を超えるサービスについてデータを表示しようとすると、メッセージが表示されます。
- クラスタ内に使用不可能なサーバが存在すると、どのサーバが使用不可能かを示すメッセージがダイアログボックスで表示されます。使用不可能なサーバは、[Trace & Log Central] ウィンドウに表示されません。
- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを収集できます。
- Cisco Unified Presence は、Q931 トランスレータをサポートしません。Cisco Unified Presence は、QRT レポート情報をサポートしません。

## ユーザ イベントのモニタリング

Trace and Log Central 機能のユーザ イベントのモニタ オプションは、リアルタイム トレース ファイルをモニタし、検索文字列がトレース ファイル内で見つかったら、指定された操作を実行します。システムは、5 秒ごとにトレース ファイルをポーリングします。1 つのポーリング間隔で検索文字列が複数回見つかったら、システムは操作を 1 回だけ実行します。各イベントでは、1 つのノード上の 1 つのサービスをモニタできます。

### はじめる前に

指定した検索文字列がモニタ対象のトレース ファイル内に存在するときにアラームが生成されるようにするには、TraceCollectionToolEvent アラートを有効にします。



## 手順

- ステップ 1** Trace & Log Central を開きます。
- ステップ 2** [リアルタイム トレース (Real Time Trace)] をダブルクリックします。
- ステップ 3** [ユーザ イベントのモニタ (Monitor User Event)] をダブルクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかの操作を実行します。

| 目的                        | アクション                                                                                                                   |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| セットアップ済みのモニタリング イベントを表示する | <p>a. [設定済みイベントの表示 (View Configured Events)] を選択します。</p> <p>b. リスト ボックスからサーバを選択します。</p> <p>c. [完了 (Finish)] を選択します。</p> |
| 新しいモニタリング イベントを設定する       | <p>a. [イベントの作成 (Create Events)] を選択します。</p> <p>b. [次へ (Next)] を選択します。</p> <p>c. <a href="#">ステップ 5</a> に進みます。</p>       |

- ステップ 5** システムでモニタするノードを [ノード (Nodes)] リスト ボックスから選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 6** システムでモニタするサービスとトレース ファイル タイプを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 7** システムでトレース ファイル内を検索する句または単語を [検索文字列 (Search String)] フィールドに指定します。このツールでは、入力した単語または句に対して完全に一致するものが検索されます。
- ステップ 8** システムでトレース ファイルをモニタするサーバ時間帯と時間範囲 (開始と終了の日時) を指定します。
- ステップ 9** 次のいずれかの操作を実行して、[検索文字列 (Search String)] フィールドに指定した検索文字列が見つかったときにシステムが実行する内容を指定します。

| 目的                                    | アクション                                                                                                               |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指定した検索文字列が見つかったらアラームを生成する             | <p>[アラート (Alert)] をオンにします。</p> <p>(注) システムでアラームを生成する場合は、TraceCollectionToolEvent アラートを有効にする必要があります。</p>             |
| SysLog Viewer のアプリケーション ログ領域にエラーを記録する | <p>[ローカル Syslog (Local Syslog)] をオンにします。</p> <p>(注) システムからアラームの説明と推奨処置が提供されます。SysLog Viewer には RTMT からアクセスできます。</p> |

## リアルタイム トレースを使用してトレース ファイルを表示する方法

| 目的                                 | アクション                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| syslog メッセージを syslog サーバに保存する      | <p>a. [ リモート Syslog (Remote Syslog) ] をオンにします。</p> <p>b. syslog サーバ名を [ サーバ名 (Server Name) ] フィールドに入力します。</p>                                                                                                                                                                     |
| 指定した検索文字列が含まれているトレース ファイルをダウンロードする | <p>a. [ ファイルのダウンロード (Download File) ] をオンにします。</p> <p>b. トレース ファイルをダウンロードするサーバのサーバ クレデンシャルを [ SFTP サーバ パラメータ (SFTP Server Parameters) ] グループ ボックスに入力します。</p> <p>c. [ 接続のテスト (Test Connection) ] を選択します。</p> <p>d. Trace and Log Central 機能が SFTP サーバへの接続を検証した後、[ OK ] を選択します。</p> |

**ステップ 10** [完了 (Finish) ] を選択します。

#### トラブルシューティングのヒント

- クラスタ内に使用不可能なサーバが存在すると、どのサーバが使用不可能かを示すメッセージがダイアログボックスで表示されます。使用不可能なサーバは、[Trace & Log Central] ウィンドウに表示されません。
- サービスは、アクティブにされていなくても表示されます。したがって、それらのサービスに対してトレースを収集できます。
- イベントを削除するには、イベントを選択し、[削除 (Delete) ] を選択します。
- [ダウンロード ディレクトリ パス (Download Directory Path) ] フィールドは、Trace and Log Central 機能によって収集されたファイルが保存されるディレクトリを指定します。トレース収集のデフォルトでは、SFTP パラメータのフィールドに指定されたユーザ ID のユーザのホーム ディレクトリ (/home/<user>/Trace) 内にファイルが保存されます。
- システムは、5 秒ごとにトレース ファイルをポーリングし、検索文字列が見つかったら、指定された操作を実行します。1 つのポーリング間隔で検索文字列が複数回見つかったら、システムは 1 回しか操作を実行しません。
- Cisco Unified Presence は、Q931 トランスレータをサポートしません。Cisco Unified Presence は、QRT レポート情報をサポートしません。

#### 関連項目

- 「アラート アクションの設定方法」(P.5-10)
- 「トレース収集の時間帯と日付範囲」(P.6-2)

## RTMT のトレース設定の更新

RTMT からは、ノード上のトレースに対する指定済みのトレース設定を編集することもできます。トレース設定を有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。そのため、トラブルシューティングを目的とした場合にだけトレースを有効にします。

### 手順

- 
- ステップ 1** [編集 (Edit) ] > [トレース設定 (Trace Settings) ] を選択します。
- ステップ 2** 適用するオプション ボタンを選択します。
- 

### トラブルシューティングのヒント

- [エラー (Error) ] オプション ボタンがデフォルトで設定されています。
- rtmt.log ファイルは、RTMT プラグインをインストールした場所にあるログ ディレクトリに保存されます。たとえば、C:\Program Files\Cisco\Presence Serviceability\rtmt\log に保存されます。





# APPENDIX **A**

## システムのパフォーマンス オブジェクトとカウンタ

---

この付録では、システムに関連するオブジェクトとカウンタについて説明します。

- 「Cisco Tomcat Connector」 (P.A-2)
- 「Cisco Tomcat JVM」 (P.A-4)
- 「Cisco Tomcat Web Application」 (P.A-5)
- 「Database Change Notification Client」 (P.A-6)
- 「Database Change Notification Server」 (P.A-6)
- 「Database Change Notification Subscription」 (P.A-7)
- 「Database Local DSN」 (P.A-7)
- 「DB User Host Information Counters」 (P.A-7)
- 「Enterprise Replication DBSpace Monitors」 (P.A-8)
- 「Enterprise Replication Perfmon Counters」 (P.A-8)
- 「IP」 (P.A-8)
- 「Memory」 (P.A-9)
- 「Network Interface」 (P.A-11)
- 「Number of Replicates Created and State of Replication」 (P.A-12)
- 「Partition」 (P.A-13)
- 「Process」 (P.A-13)
- 「Processor」 (P.A-15)
- 「System」 (P.A-15)
- 「TCP」 (P.A-16)
- 「AXL Web Service」 (P.A-18)
- 「Ramfs」 (P.A-18)



### ヒント

システムの監視に使用できる最新のパフォーマンス モニタリング カウンタ、オブジェクト、およびカウンタの説明については、Real-Time Monitoring Tool のパフォーマンス モニタリング カウンタにアクセスしてください。

---

# Cisco Tomcat Connector

Tomcat Hypertext Transport Protocol (HTTP; ハイパーテキスト転送プロトコル) /HTTP Secure (HTTPS) Connector オブジェクトは、Tomcat コネクタについての情報を提供します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連した Web ページへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL; セキュア ソケット レイヤ) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は `https://<IP Address>:8443`、非 SSL の場合は `http://<IP Address>:8080` になります。表 A-1 には、Tomcat HTTP Connector のカウンタについての情報が示されています。

表 A-1 Cisco Tomcat Connector

| カウンタ           | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Errors         | このカウンタは、コネクタで発生した HTTP エラー (401 (未認証) など) の総数を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code> 、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。 |
| MBytesReceived | このカウンタは、コネクタが受信したデータの量を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code> 、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。                        |
| MBytesSent     | このコネクタは、コネクタが送信したデータの量を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code> 、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。                        |
| Requests       | このカウンタは、コネクタで処理された要求の総数を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code> 、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。                       |

表 A-1 Cisco Tomcat Connector (続き)

| カウンタ         | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ThreadsTotal | <p>このカウンタは、使用可能なスレッドと使用中のスレッドを含む、コネクタの要求処理スレッドの現在の総数を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code>、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ThreadsMax   | <p>このカウンタは、コネクタの要求処理スレッドの最大数を表します。Cisco Unified Presence 関連のウィンドウで着信する各要求は、その要求の期間中、1 つのスレッドを必要とします。現在使用可能な要求処理スレッドで処理できる数を上回る同時要求を受信した場合は、このカウンタに表示される設定最大数を上限として、追加のスレッドが作成されます。さらに別の同時要求を受信すると、それらの要求は、内部で指定された最大数になるまで、コネクタで作成されたサーバ ソケット内に累積されます。それ以外の同時要求は、それらの要求を処理するリソースが使用可能になるまで、接続拒否メッセージを受け取ります。</p> <p>Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code>、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。</p> |
| ThreadsBusy  | <p>このカウンタは、コネクタのビジー状態/使用中の要求処理スレッドの現在の数を表します。Tomcat Connector は、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Presence に関連した Web ページへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://&lt;IP Address&gt;:8443</code>、非 SSL の場合は <code>http://&lt;IP Address&gt;:8080</code> になります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |

# Cisco Tomcat JVM

Cisco Tomcat Java Virtual Machine (JVM) オブジェクトは、Tomcat JVM についての情報を提供します。Tomcat JVM では、たとえば Cisco Unified Presence Administration、Cisco Unified Serviceability などの Cisco Unified Presence に関連した Web アプリケーションで使用される共通リソース メモリのプールが示されます。表 A-2 には、Tomcat JVM のカウンタについての情報が示されています。

表 A-2 Tomcat JVM

| カウンタ              | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| KBytesMemoryFree  | このカウンタは、Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリ ブロック（ヒープメモリ）の空き容量を表します。動的メモリ ブロックには、Tomcat とその Web アプリケーション（Cisco Unified Presence Administration、Cisco Unified Serviceability など）で作成されるすべてのオブジェクトが保存されます。動的メモリの空き容量が少なくなると、追加のメモリが自動的に割り当てられ、KbytesMemoryTotal カウンタに表示される合計メモリ サイズが増加します。ただし、KbytesMemoryMax カウンタに表示される最大容量を上限とします。使用中のメモリ容量は、KbytesMemoryTotal から KBytesMemoryFree の値を減算することで判断できます。 |
| KBytesMemoryMax   | このカウンタは、Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリ ブロック（ヒープメモリ）の空き容量を表します。動的メモリ ブロックには、Tomcat とその Web アプリケーション（Cisco Unified Presence Administration、Cisco Unified Serviceability など）で作成されるすべてのオブジェクトが保存されます。                                                                                                                                                                                             |
| KBytesMemoryTotal | このカウンタは、空きメモリと使用中メモリを含む、Tomcat Java Virtual Machine の現在の動的メモリ ブロックの合計サイズを表します。動的メモリ ブロックには、Tomcat とその Web アプリケーション（Cisco Unified Presence Administration、Cisco Unified Serviceability など）で作成されるすべてのオブジェクトが保存されます。                                                                                                                                                                                 |



# Cisco Tomcat Web Application

Cisco Tomcat Web Application オブジェクトは、Cisco Unified Presence Administration Web アプリケーションの実行方法に関する情報を提供します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified Presence Administration (https://<IP Address>:8443/ccmadmin) は ccmadmin、Cisco Unified Serviceability は ccmservice、Cisco Unified Presence User Options は ccuser で識別されます。https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 のように拡張子がない URL は、\_root で識別されます。表 A-3 には、Tomcat Web Application のカウンタについての情報が示されています。

表 A-3 Tomcat Web Application

| カウンタ           | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Errors         | このカウンタは、Cisco Unified Presence に関連した Web アプリケーションで発生した HTTP エラー（401（未認証）など）の総数を表します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified Presence Administration (https://<IP Address>:8443/ccmadmin) は ccmadmin、Cisco Unified Serviceability は ccmservice、Cisco Unified Presence User Options は ccuser で識別されます。https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 のように拡張子がない URL は、_root で識別されます。 |
| Requests       | このカウンタは、Web アプリケーションが処理する要求の総数を表します。Requests カウンタは、Web アプリケーションにアクセスするたびに増加します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified Presence Administration (https://<IP Address>:8443/ccmadmin) は ccmadmin、Cisco Unified Serviceability は ccmservice、Cisco Unified Presence User Options は ccuser で識別されます。https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 のように拡張子がない URL は、_root で識別されます。      |
| SessionsActive | このカウンタは、Web アプリケーションが現在アクティブ（使用中）になっているセッション数を表します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified Presence Administration (https://<IP Address>:8443/ccmadmin) は ccmadmin、Cisco Unified Serviceability は ccmservice、Cisco Unified Presence User Options は ccuser で識別されます。https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 のように拡張子がない URL は、_root で識別されます。                                  |

# Database Change Notification Client

Database Change Notification Client オブジェクトは、変更通知クライアントについての情報を提供します。表 A-4 には、Database Change Notification Client のカウンタについての情報が示されています。

表 A-4 Database Change Notification Client

| カウンタ               | カウンタの説明                                                                                                                                      |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| MessagesProcessed  | このカウンタは、処理されたデータベース変更通知の数を表します。このカウンタは、15 秒ごとに更新されます。                                                                                        |
| MessagesProcessing | このカウンタは、現在処理中、またはこのクライアントの変更通知キューで処理待ち状態にある変更通知メッセージの数を表します。このカウンタは、15 秒ごとに更新されます。                                                           |
| QueueHeadPointer   | このカウンタは、変更通知キューへのヘッド ポインタを表します。ヘッド ポインタは、変更通知キュー内の開始ポイントとして機能します。キュー内の通知数は、テール ポインタ値からヘッド ポインタ値を減算することで判断できます。デフォルトでは、このカウンタは 15 秒ごとに更新されます。 |
| QueueMax           | このカウンタは、このクライアントに関する処理予定の変更通知メッセージの最大数を表します。このカウンタは、Cisco Database Layer Monitor サービスの最後の再起動時から累積されます。                                       |
| QueueTailPointer   | このカウンタは、変更通知キューへのテール ポインタを表します。テール ポインタは、変更通知キュー内の終了ポイントを表します。キュー内の通知数は、テール ポインタ値からヘッド ポインタ値を減算することで判断できます。デフォルトでは、このカウンタは 15 秒ごとに更新されます。    |
| TablesSubscribed   | このカウンタは、クライアントが登録しているテーブルの数を表します。                                                                                                            |

# Database Change Notification Server

Database Change Notification Server オブジェクトは、さまざまな変更通知関連の統計情報を提供します。表 A-5 には、Database Change Notification Server のカウンタについての情報が示されています。

表 A-5 Database Change Notification Server

| カウンタ                   | カウンタの説明                                                                                                                                       |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Clients                | このカウンタは、変更を通知するために登録されている変更通知クライアント (サービス/サブレット) の数を表します。                                                                                     |
| QueuedRequestsInDB     | このカウンタは、(共有メモリのキューに入らずに) 直接 TCP/IP 接続を介して通知された、DBCNQueue (Database Change Notification Queue) テーブルに存在する変更通知レコードの数を表します。このカウンタは、15 秒ごとに更新されます。 |
| QueuedRequestsInMemory | このカウンタは、共用メモリのキューに入る変更通知要求の数を表します。                                                                                                            |

表 A-5 Database Change Notification Server (続き)

| カウンタ        | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CNProcessed | このカウンタは、リポート後にサーバで処理された変更通知メッセージの数を表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| QueueDelay  | このカウンタは、変更通知プロセスで処理する必要があるにもかかわらず、それらのメッセージが処理されていない時間を秒単位で表します。[データベースのキューに変更通知要求があります (Change Notification Requests Queued in Database)] (QueuedRequestsInDB) および [メモリのキューに変更通知要求があります (Change Notification Requests Queued in Memory)] (QueuedRequestsInMemory) が 0 以外の値に設定されているか、[処理された最新の変更通知メッセージ (Latest Change Notification Messages Processed)] のカウンタが変更されていない場合、この条件は true になります。<br>この条件は 15 秒ごとに確認されます。 |

## Database Change Notification Subscription

Database Change Notification Subscription オブジェクトは、クライアントが変更通知を受信するテーブルの名前を表示します。

SubscribedTable オブジェクトは、変更通知を受信するサービスまたはサブレットが含まれるテーブルを表示します。カウンタは増加しないため、この表示は参考目的のみに使用されます。

## Database Local DSN

Database Local Data Source Name (DSN) オブジェクトと LocalDSN カウンタは、ローカル サーバの DSN 情報を提供します。表 A-6 には、Database Local DSN についての情報が示されています。

表 A-6 Database Local Data Source Name

| カウンタ                | カウンタの説明                                        |
|---------------------|------------------------------------------------|
| CcmDbSpace_Used     | このカウンタは、消費されている Ccm DbSpace の容量を表します。          |
| CcmtempDbSpace_Used | このカウンタは、消費されている Ccmtemp DbSpace の容量を表します。      |
| LocalDSN            | このカウンタは、ローカル サーバから参照されているデータ ソース名 (DSN) を表します。 |
| RootDbSpace_Used    | このカウンタは、消費されている RootDbSpace の容量を表します。          |
| CNDbSpace_Used      | このカウンタは、消費されている変更通知 (CN) DSspace の比率を表します。     |
| SharedMemory_Free   | このカウンタは、空きのある共有メモリを表します。                       |
| SharedMemory_Used   | このカウンタは、使用されている共有メモリを表します。                     |

## DB User Host Information Counters

DB User Host Information オブジェクトは、DB User Host についての情報を提供します。

DB:User:Host Instances オブジェクトは、DB:User:Host の各インスタンスに使用できる接続の数を表します。

# Enterprise Replication DBSpace Monitors

Enterprise Replication DBSpace Monitors オブジェクトは、さまざまな ER DbSpace の使用状況を表示します。表 A-7 には、Enterprise Replication DBSpace Monitors についての情報が示されています。

表 A-7 Enterprise Replication DBSpace Monitors

| カウンタ             | カウンタの説明                                                |
|------------------|--------------------------------------------------------|
| ERDbSpace_Used   | このカウンタは、消費された Enterprise Replication DbSpace の容量を表します。 |
| ERSBDbSpace_Used | このカウンタは、消費された ERDbSpace の容量を表します。                      |

# Enterprise Replication Perfmon Counters

Enterprise Replication Perfmon Counter オブジェクトは、さまざまな複製カウンタについての情報を提供します。

ServerName:ReplicationQueueDepth カウンタは、サーバ名に続いて、複製キューの項目数を表示します。

## IP

IP オブジェクトは、システムの IP 統計についての情報を提供します。表 A-8 には、IP のカウンタについての情報が示されています。

表 A-8 IP

| カウンタ         | カウンタの説明                                                                                                                      |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Frag Creates | このカウンタは、このエンティティで生成された IP データグラム フラグメントの数を表します。                                                                              |
| Frag Fails   | このカウンタは、Do not Fragment フラグが設定されたデータグラムの場合など、データグラムをフラグメント化できなかったためにこのエンティティで破棄された IP データグラムの数を表します。                         |
| Frag OKs     | このカウンタは、このエンティティで正常にフラグメント化された IP データグラムの数を表します。                                                                             |
| In Delivers  | このカウンタは、IP ユーザ プロトコルに配信された入力データグラムの数を表します。これにはインターネット制御メッセージ プロトコル (ICMP) が含まれます。                                            |
| In Discards  | このカウンタは、問題が発生していないにもかかわらず廃棄された入力 IP データグラムの数を表します。バッファ領域の不足が考えられる原因の 1 つです。このカウンタには、再構成の待機中に廃棄されたデータグラムの数は含まれません。            |
| In HdrErrors | このカウンタは、ヘッダー エラーによって廃棄された入力データグラムの数を表します。これには、不正なチェックサム、バージョン番号の不一致、その他の形式エラー、存続可能時間の超過、および IP オプションの処理中に検出されたその他のエラーが含まれます。 |
| In Receives  | このカウンタは、すべてのネットワーク インターフェイスから受信された入力データグラムの数を表します。このカウンタには、エラーと共に受信されたデータグラムも含まれます。                                          |

表 A-8 IP (続き)

| カウンタ             | カウンタの説明                                                                                                                                                                        |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| In UnknownProtos | このカウンタは、正常に受信されたものの、プロトコルが不明またはサポートされないために廃棄されたローカルアドレス宛でのデータグラムの数を表示します。                                                                                                      |
| InOut Requests   | このカウンタは、受信された着信 IP データグラムの数および送信された発信 IP データグラムの数を表示します。                                                                                                                       |
| Out Discards     | このカウンタは、送信されずに破棄された出力 IP データグラムの数を表示します。バッファ領域の不足が考えられる原因の 1 つです。                                                                                                              |
| Out Requests     | このカウンタは、ローカル IP ユーザ プロトコル (ICMP を含む) が、要求送信で IP に与える IP データグラムの総数を表示します。このカウンタには、ForwDatagrams でカウントされたデータグラムの数は含まれません。                                                        |
| Reasm Fails      | このカウンタは、タイムアウトやエラーなど、IP 再構成アルゴリズムによって検出された IP 再構成の失敗の回数を表示します。このカウンタは、破棄された IP フラグメントの数を表示しません。RFC 815 のアルゴリズムなどの一部のアルゴリズムでは、受信するときにフラグメントを結合するので、フラグメントの数を追跡できなくなる可能性があるためです。 |
| Reasm OKs        | このカウンタは、正常に再構成された IP データグラムの数を表示します。                                                                                                                                           |
| Reasm Reqds      | このカウンタは、このエンティティで再構成が必要だった受信 IP フラグメントの数を表示します。                                                                                                                                |

## Memory

Memory オブジェクトは、サーバの物理メモリとスワップメモリの使用状況についての情報を提供します。表 A-9 には、Memory のカウンタについての情報が示されています。

表 A-9 Memory

| カウンタ             | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| % Mem Used       | このカウンタは、システムの物理メモリの使用率を比率で表示します。カウンタの値は、 $(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}) / \text{Total KBytes}$ で計算される値と等しく、 $\text{Used KBytes} / \text{Total KBytes}$ で計算される値にも一致します。                                                              |
| % Page Usage     | このカウンタは、アクティブなページの比率を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| % VM Used        | このカウンタは、システムの仮想メモリの使用率を比率で表示します。カウンタの値は、 $(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap Kbytes}) / (\text{Total KBytes} + \text{Total Swap Kbytes})$ で計算される値と等しく、 $\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM Kbytes}$ で計算される値にも一致します。 |
| Buffers KBytes   | このカウンタは、システムのバッファ容量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| Cached KBytes    | このカウンタは、キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| Free KBytes      | このカウンタは、システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| Free Swap KBytes | このカウンタは、システムで使用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                                                                                                            |

## Memory

表 A-9 Memory (続き)

| カウンタ                      | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| HighFree                  | このカウンタは、ハイメモリ領域での空きメモリの容量を表します。Linux カーネルは、仮想メモリのアドレススペースを複数のメモリ領域に分割します。ハイメモリとは、特定の物理アドレスよりも上位にあるメモリで、その容量はシステムの合計メモリとカーネルタイプによって決まります。4 GB のメモリを搭載した Cisco Unified Communications Manager システムの場合、ハイメモリは約 896 M ~ 4096 M です。 |
| HighTotal                 | このカウンタは、ハイメモリ領域でのメモリの総量を表します。Linux カーネルは、仮想メモリのアドレススペースを複数のメモリ領域に分割します。ハイメモリとは、特定の物理アドレスよりも上位にあるメモリで、その容量はシステムの合計メモリとカーネルタイプによって決まります。4 GB のメモリを搭載した Cisco Unified Communications Manager システムの場合、ハイメモリは約 896 M ~ 4096 M です。   |
| Low Free                  | このカウンタは、カーネルのローメモリ (非ページ) の空き容量を表します。                                                                                                                                                                                          |
| Low Total                 | このカウンタは、カーネルのローメモリ (非ページ) の総量を表します。                                                                                                                                                                                            |
| Page Faults Per Sec       | このカウンタは、システムで発生した 1 秒あたりのページフォールト (メジャーおよびマイナー) 数を表します (2.5 以降のカーネルのみ)。一部のページフォールトは I/O がなくても解決できるため、この数は I/O が生成されたページフォールトの数とは一致しません。                                                                                        |
| Page Major Faults Per Sec | このカウンタは、システムで発生した 1 秒あたりのメジャーフォールト数を表します (2.5 以降のカーネルのみ)。メジャーフォールトとは、ディスクからメモリページをロードする必要があるページフォールトを指します。                                                                                                                     |
| Pages                     | このカウンタは、ディスクからページインしたページの数と、ディスクにページアウトしたページの数合計を表します。                                                                                                                                                                         |
| Pages Input               | このカウンタは、ディスクからページインされたページの数を表します。                                                                                                                                                                                              |
| Pages Input Per Sec       | このカウンタは、ディスクからページインされた 1 秒あたりの総キロバイト数を表します。                                                                                                                                                                                    |
| Pages Output              | このカウンタは、ディスクにページアウトされたページの数を表します。                                                                                                                                                                                              |
| Pages Output Per Sec      | このカウンタは、ディスクにページアウトされた 1 秒あたりの総キロバイト数を表します。                                                                                                                                                                                    |
| Shared KBytes             | このカウンタは、システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                            |
| SlabCache                 | このカウンタは、さまざまなカーネルコンポーネントによって作成されたスラブキャッシュに使用されるメモリ全体を表し、proc の slabinfo 内の各エントリの合計を示す総合的カウンタとして使用されます。                                                                                                                         |
| SwapCached                | このカウンタは、キャッシュメモリとして使用されるスワップの容量を表します。これは、一旦スワップアウトされてからスワップバックされたが、まだスワップファイルに残っているメモリです。                                                                                                                                      |
| Total KBytes              | このカウンタは、システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                              |
| Total Swap KBytes         | このカウンタは、システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                           |
| Total VM KBytes           | このカウンタは、使用中のシステム物理メモリとスワップ領域 (Total Kbytes + Total Swap Kbytes) の総量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                              |

表 A-9 Memory (続き)

| カウンタ             | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Used KBytes      | このカウンタは、システムで使用中の物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。Used KBytes カウンタの値は、Total KBytes - Free KBytes - Buffers KBytes - Cached KBytes + Shared KBytes で計算されます。Used KBytes の値は、top または free コマンド出力に表示される Linux の用語とは異なります。top または free コマンド出力に表示される Used の値は、Total KBytes と Free KBytes の差に等しく、Buffers KBytes と Cached KBytes の合計値も含まれます。 |
| Used Swap KBytes | このカウンタは、システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| Used VM KBytes   | このカウンタは、システム物理メモリと、使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。値は、Total KBytes - Free KBytes - Buffers KBytes - Cached KBytes + Shared KBytes + Used Swap Kbytes で計算されます。この値は、Used Mem KBytes + Used Swap Kbytes で計算される値と一致します。                                                                                                            |

## Network Interface

Network Interface オブジェクトは、システムのネットワーク インターフェイスについての情報を提供します。表 A-10 には、Network Interface のカウンタについての情報が示されています。

表 A-10 Network Interface

| カウンタ          | カウンタの説明                                                                                                                       |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Rx Bytes      | このカウンタは、インターフェイスで受信したフレーミング文字を含めたバイト数を表します。                                                                                   |
| Rx Dropped    | このカウンタは、エラーは検出されなかったものの、破棄するように選択されたインバウンドパケットの数を表します。これによって、上位層のプロトコルにパケットが配信されなくなります。パケットを破棄してバッファ領域を開放することなどが理由として挙げられます。  |
| Rx Errors     | このカウンタは、エラーのために上位層のプロトコルに配信できなかったインバウンドパケット (パケット指向インターフェイス) の数と、インバウンド送信ユニット (文字指向または固定長インターフェイス) の数を表します。                   |
| Rx Multicast  | このカウンタは、このインターフェイスで受信したマルチキャストパケットの数を表します。                                                                                    |
| Rx Packets    | このカウンタは、このサブレイヤが上位サブレイヤに配信したパケットの数を表します。この数には、このサブレイヤでマルチキャストまたはブロードキャストアドレスにアドレス指定されたパケットは含まれていません。                          |
| Total Bytes   | このカウンタは、受信 (Rx) バイトと送信 (Tx) バイトの総数を表します。                                                                                      |
| Total Packets | このカウンタは、Rx パケットと Tx パケットの総数を表します。                                                                                             |
| Tx Bytes      | このカウンタは、インターフェイスから送信されたフレーミング文字を含むオクテットの総数を表します。                                                                              |
| Tx Dropped    | このカウンタは、エラーは検出されなかったものの、破棄するように選択されたアウトバウンドパケットの数を表します。これによって、上位層のプロトコルにパケットが配信されなくなります。パケットを破棄してバッファ領域を開放することなどが理由として挙げられます。 |

## Number of Replicates Created and State of Replication

表 A-10 Network Interface (続き)

| カウンタ        | カウンタの説明                                                                                                                    |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Tx Errors   | このカウンタは、エラーのために送信できなかったアウトバウンドパケット (パケット指向インターフェイス) の数と、アウトバウンド送信ユニット (文字指向または固定長インターフェイス) の数を表します。                        |
| Tx Packets  | このカウンタは、破棄されたものや送信されなかったものも含め、上位レベルのプロトコルが送信を要求したパケットの総数を表します。この数には、このサブレイヤでマルチキャストまたはブロードキャストアドレスにアドレス指定されたパケットは含まれていません。 |
| Tx QueueLen | このカウンタは、出力パケット キューの長さを (パケット単位で) 表します。                                                                                     |

## Number of Replicates Created and State of Replication

Number of Replicates Created and State of Replication オブジェクトは、システムでの複製状態に関する情報を提供します。表 A-11 には、複製カウンタについての情報が示されています。

表 A-11 Number of Replicates Created and State of Replication

| カウンタ                         | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Number of Replicates Created | このカウンタは、Informix が DB テーブル用に作成した複製の数を表示します。このカウンタは、複製のセットアップ中の情報を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| Replicate_State              | このカウンタは、複製の状態を示します。次の値が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 初期化中。サーバが定義されていない場合、またはサーバが定義されているが、テンプレートの実現が完了していない場合、このカウンタは 0 になります。</li> <li>1: システムが、すべてのテーブルではなく一部のテーブルの複製を作成しました。CLI で <code>utils dbreplication</code> ステータスを実行し、エラーの発生場所と発生原因を特定することを推奨します。</li> <li>2: 複製は正しく機能しています。</li> <li>3: 複製は正しく機能していません。カウンタに 3 と表示される場合は、クラスタにおけるリプリケーションが不良であると考えてください。特定のノードでリプリケーションが失敗したという意味ではありません。CLI で <code>utils dbreplication</code> ステータスを実行し、エラーの発生場所と発生原因を特定することを推奨します。</li> <li>4: 複製のセットアップに失敗しました。</li> </ul> |



# Partition

Partition オブジェクトは、システムのファイル システムとその使用状況についての情報を提供します。表 A-12 には、Partition のカウンタについての情報が示されています。

表 A-12 Partition

| カウンタ                | カウンタの説明                                                                                    |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| % CPU Time          | このカウンタは、ディスクに対して発行された I/O 要求の処理にかかった CPU 時間を比率で表します。                                       |
| % Used              | このカウンタは、このファイル システムで使用中のディスク領域を比率で表します。                                                    |
| % Wait in Read      | このカウンタは、値が -1 になると無効になります。現在は、このカウンタに代わって <b>Await Read Time</b> カウンタが使用されています。            |
| % Wait in Write     | このカウンタは、値が -1 になると無効になります。現在は、このカウンタに代わって <b>Await Write Time</b> が使用されています。               |
| Await Read Time     | このカウンタは、サービス対象のデバイスに対して発行する読み取り要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。                                       |
| Await Time          | このカウンタは、サービス対象のデバイスに対して発行する I/O 要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。これには、要求がキュー内に存在する時間と、要求を処理する時間が含まれます。 |
| Await Write Time    | このカウンタは、サービス対象のデバイスに対して発行する書き込み要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。                                       |
| Queue Length        | このカウンタは、ディスクに対して発行された要求の平均キュー長を表します。                                                       |
| Read Bytes Per Sec  | このカウンタは、ディスクから読み取られた 1 秒あたりのデータ量をバイト単位で表します。                                               |
| Total Mbytes        | このカウンタは、このファイル システムのディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。                                              |
| Used Mbytes         | このカウンタは、このファイル システムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。                                            |
| Write Bytes Per Sec | このカウンタは、ディスクに書き込まれた 1 秒あたりのデータ量をバイト単位で表します。                                                |

# Process

Process オブジェクトは、システムで実行されているプロセスについての情報を提供します。表 A-13 には、Process カウンタについての情報が示されています。

表 A-13 Process

| カウンタ            | カウンタの説明                                                       |
|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| % CPU Time      | このカウンタは、最後に更新してから経過した CPU 時間におけるタスク占有率を、合計 CPU 時間に対する比率で表します。 |
| % MemoryUsage   | このカウンタは、タスクが現在使用している物理メモリを比率で表します。                            |
| Data Stack Size | このカウンタは、タスク メモリ ステータスのスタック サイズを表します。                          |

表 A-13 Process (続き)

| カウンタ                | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Nice                | このカウンタは、タスクの Nice 値を表します。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクの割り当てを判断するときに優先順位を調整しないでください。                                                                                        |
| Page Fault Count    | このカウンタは、タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャー ページ フォールトの数を表します。                                                                                                                                                             |
| PID                 | このカウンタは、タスク固有のプロセス ID を表します。この ID は定期的にラッピングされますが、値が 0 になることはありません。                                                                                                                                                      |
| Process Status      | このカウンタは、次のプロセス ステータスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: 実行中</li> <li>• 1: スリープ中</li> <li>• 2: 割り込み不能ディスク スリープ</li> <li>• 3: ゾンビ</li> <li>• 4: 停止</li> <li>• 5: 呼び出し中</li> <li>• 6: 不明</li> </ul>         |
| Shared Memory Size  | このカウンタは、タスクが使用している共有メモリの容量 (キロバイト) を表示します。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。                                                                                                                                                      |
| STime               | このカウンタは、このプロセスがカーネル モードでスケジューリングされたシステム時間 (STime) を jiffy 単位で表示します。jiffy は CPU 時間の単位に相当し、測定単位として使用されます。1 秒は 100 jiffy です。                                                                                                |
| Thread Count        | このカウンタは、タスクで現在グループ化されているスレッドの数を表します。負の値 (-1) は、このカウンタが現在使用不可になっていることを示します。これは、システムのプロセスとスレッドの数の合計がデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタ、および Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになった場合に発生します。 |
| Total CPU Time Used | このカウンタは、タスクの開始以降、タスクがユーザ モードとカーネル モードで使用した合計 CPU 時間を jiffy 単位で表示します。jiffy は CPU 時間の単位に相当し、測定単位として使用されます。1 秒は 100 jiffy です。                                                                                               |
| UTime               | このカウンタは、タスクがユーザ モードでスケジューリングした時間を jiffy 単位で表示します。                                                                                                                                                                        |
| VmData              | このカウンタは、タスクでのヒープの仮想メモリ使用状況をキロバイト (KB) 単位で表示します。                                                                                                                                                                          |
| VmRSS               | このカウンタは、現在物理メモリ内にある仮想メモリ (Vm) の常駐セット サイズ (RSS) をキロバイト (KB) 単位で表示します。これにはコード、データ、およびスタックが含まれます。                                                                                                                           |
| VmSize              | このカウンタは、タスクでの仮想メモリの合計使用量をキロバイト (KB) 単位で表示します。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップ サイズ + 常駐サイズ)。                                                                                                |

# Processor

Processor オブジェクトは、さまざまなプロセッサ時間の使用状況を比率で提供します。表 A-14 には、Processor カウンタについての情報が示されています。

表 A-14 Processor

| カウンタ               | カウンタの説明                                                                                  |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| % CPU Time         | このカウンタは、最後に更新してから経過した CPU 時間における、アイドル時間を除いたプロセッサの占有率を表示します。この占有率は、合計 CPU 時間に対する比率で表されます。 |
| Idle Percentage    | このカウンタは、プロセッサがアイドル状態になっており、未処理のディスク I/O 要求が存在しなかった時間を比率で表示します。                           |
| IOwait Percentage  | このカウンタは、システムに未処理のディスク I/O 要求が存在し、同時にプロセッサがアイドル状態になっていた時間を比率で表します。                        |
| Irq Percentage     | このカウンタは、デバイスに割り当てられる割り込み要求を実行するためにプロセッサが費やす時間（プロセッサがコンピュータに信号を送信するために費やす時間を含む）を比率で表します。  |
| Nice Percentage    | このカウンタは、プロセッサが、Nice 優先順位に従ってユーザ レベルで実行するために費やす時間を比率で表示します。                               |
| Softirq Percentage | このカウンタは、プロセッサが、CPU のパフォーマンスを向上させるために、ソフト IRQ の実行とタスク切り替えの延期に費やす時間を比率で表します。               |
| System Percentage  | このカウンタは、プロセッサがシステム（カーネル）レベルでプロセスを実行している時間を比率で表示します。                                      |
| User Percentage    | このカウンタは、プロセッサがユーザ（アプリケーション）レベルで通常のプロセスを実行している時間を比率で表示します。                                |

# System

System オブジェクトは、システムのファイル記述子についての情報を提供します。表 A-15 には、System カウンタについての情報が示されています。

表 A-15 System

| カウンタ                  | カウンタの説明                                                                                           |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Allocated FDs         | このカウンタは、割り当てられたファイル記述子の総数を表します。                                                                   |
| Being Used FDs        | このカウンタは、システムで現在使用中のファイル記述子の数を表します。                                                                |
| Freed FDs             | このカウンタは、システム上で割り当てられているファイル記述子のうち、開放されているファイル記述子の総数を表します。                                         |
| IOAwait               | このカウンタは、サービス対象の全デバイスに対して発行された入出力 (I/O) 要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。これには、要求がキュー内に存在する時間と、要求を処理する時間が含まれます。 |
| IOcpuUtil             | このカウンタは、デバイスに対して I/O 要求が発行されていた間のサーバの CPU 時間の比率（デバイスの帯域幅利用率）を表します。                                |
| IOKBytesReadPerSecond | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスから読み取られた 1 秒あたりの総キロバイト数を表します。                                                |

表 A-15 System (続き)

| カウンタ                      | カウンタの説明                                                                                                                    |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| IOBytesWrittenPerSecond   | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに書き込まれた 1 秒あたりの総キロバイト数を表します。                                                                          |
| IOPerSecond               | このカウンタは、サーバ上ですべてのディスク パーティションに実行された I/O 処理の総数を表します。システム パフォーマンスに問題が生じた場合は、このカウンタの情報を使用して、サーバで I/O 処理を集約する事によって生じる影響を判断します。 |
| IOReadReqMergedPerSec     | このカウンタは、サーバ上でマージされ、すべてのデバイスにキューイングされた読み取り要求の 1 秒あたりの総数を表します。                                                               |
| IOReadReqPerSecond        | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに発行された読み取り要求の 1 秒あたりの合計数を表します。                                                                        |
| IOReqQueueSizeAvg         | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに対して発行された要求の平均キュー長を表します。                                                                              |
| IOSectorsReadPerSecond    | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスから読み取られたセクターの 1 秒あたりの総数を表します。                                                                         |
| IOSectorsReqSizeAvg       | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに対して発行された要求セクターの平均サイズを表します。                                                                           |
| IOSectorsWrittenPerSecond | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに書き込まれたセクターの 1 秒あたりの総数を表します。                                                                          |
| IOServiceTime             | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに対して発行された I/O 要求の平均サービス時間をミリ秒単位で表します。                                                                 |
| IOWriteReqMergedPerSecond | このカウンタは、サーバ上でマージされ、すべてのデバイスにキューイングされた書き込み要求の 1 秒あたりの総数を表します。                                                               |
| IOWriteReqPerSecond       | このカウンタは、サーバ上ですべてのデバイスに対して発行された書き込み要求の 1 秒あたりの総数を表します。                                                                      |
| Max FDs                   | このカウンタは、システムで許可されているファイル記述子の最大数を表します。                                                                                      |
| Total CPU Time            | このカウンタは、システムが稼動している合計時間を jiffy 単位で表します。                                                                                    |
| Total Processes           | このカウンタは、システム上のプロセスの総数を表します。                                                                                                |
| Total Threads             | このカウンタは、システム上のスレッドの総数を表します。                                                                                                |

## TCP

TCP オブジェクトは、システムの TCP 統計についての情報を提供します。表 A-16 には、TCP のカウンタについての情報が示されています。

表 A-16 TCP

| カウンタ          | カウンタの説明                                                                                                              |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Active Opens  | このカウンタは、TCP 接続が CLOSED 状態から SYS-SENT 状態へ直接遷移した回数を表示します。                                                              |
| Attempt Fails | このカウンタは、TCP 接続が SYN-RCVD または SYN-RCVD のいずれかの状態から CLOSED 状態に直接遷移した回数と、TCP 接続が SYS-RCVD 状態から LISTEN 状態に直接遷移した回数を表示します。 |

表 A-16 TCP (続き)

| カウンタ          | カウンタの説明                                                                                 |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| Curr Estab    | このカウンタは、現在 ESTABLISHED 状態または CLOSE-WAIT 状態になっている TCP 接続の数を表示します。                        |
| Estab Resets  | このカウンタは、TCP 接続が、ESTABLISHED または CLOSE-WAIT のいずれかの状態から CLOSED 状態に直接遷移した回数を表示します。         |
| In Segs       | このカウンタは、受信したセグメント (エラー受信したセグメントを含む) の総数を表示します。この数には、現在確立されている接続で受信したセグメントのみが含まれます。      |
| InOut Segs    | このカウンタは、送信したセグメントの総数と受信したセグメントの総数を表示します。                                                |
| Out Segs      | このカウンタは、送信したセグメントの総数を表示します。このカウンタには、現在確立されている接続で送信されるセグメントのみが含まれますが、再送信されたオクテットは除外されます。 |
| Passive Opens | このカウンタは、TCP 接続が LISTEN 状態から SYN-RCVD 状態に直接遷移した回数を表示します。                                 |
| RetransSegs   | このカウンタは、以前に送信されたオクテットが 1 つ以上含まれているために再送信されたセグメントの総数を表示します。                              |

## Threads

Thread オブジェクトは、システムで実行されているスレッドの一覧を表示します。表 A-17 には、Thread カウンタについての情報が示されています。

表 A-17 Threads

| カウンタ       | カウンタの説明                                                                          |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| % CPU Time | このカウンタは、前回の更新以降に経過した CPU 時間におけるスレッドの占有率を表示します。このカウンタは、占有率を合計 CPU 時間に対する比率で表現します。 |
| PID        | このカウンタは、スレッドリーダー プロセス ID を表示します。                                                 |

# AXL Web Service

AXL Web Service オブジェクトは、システムで実行されている AXL Web Service に関する情報を提供します。表 A-18 に、AXL Web Service カウンタについての情報を示します。

表 A-18 AXL Web Service

| カウンタ          | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ThrottleCount | このカウンタは、前回の Cisco AXL Web Service の再起動以降に実行された Administrative XML Layer (AXL) スロットリングの回数を表します。スロットリングは、AXL サービスが処理能力を超える数の変更要求を受け取ると実行されます。                                                                                                                                                                     |
| ThrottleState | このカウンタは、Administrative XML Layer (AXL) スロットリングが現在アクティブ（スロットリングが有効）かどうかを表します。このカウンタの 1 の値は、スロットリングが現在有効であることを示します。つまり、アプリケーションが AXL 経由で Cisco Unified Communications Manager に書き込み要求を送信しようとする、AXL スロットリングによって拒否されます。読み込み要求の許可と処理は、AXL スロットリングが有効であっても行われます。0 の値はスロットリングが現在実行されていないことを示し、読み込みおよび書き込み要求はすべて処理されます。 |

# Ramfs

Ramfs オブジェクトは、ram ファイルシステムに関する情報を提供します。表 A-19 に、Ramfs カウンタについての情報を示します。

表 A-19 Ramfs

| カウンタ       | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                          |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| FilesTotal | このカウンタは、ram ベースのファイルシステム (ramfs) 内のファイル総数を表します。                                                                                                                                                                  |
| SpaceFree  | このカウンタは、ram ベースのファイルシステム (ramfs) における空きデータブロックの容量を表します。ブロックとは、ファイルシステム用に統一されたデータストレージサイズの単位です。ブロックサイズによって、ファイルシステムがデータの読み取りおよび書き込みに使用するサイズが指定されます。Cisco Unified Communications Manager システムのブロックサイズは 4096 バイトです。 |
| SpaceUsed  | このカウンタは、ram ベースのファイルシステム (ramfs) 内のデータブロックの容量を表します。ブロックとは、ファイルシステム用に統一されたデータストレージサイズの単位です。ブロックサイズによって、ファイルシステムがデータの読み取りおよび書き込みに使用するサイズが指定されます。Cisco Unified Communications Manager システムのブロックサイズは 4096 バイトです。     |



# APPENDIX B

## Cisco Unified Presence のパフォーマンス オブジェクトおよびカウンタ

この付録では、Cisco Unified Presence に関連するオブジェクトとカウンタについて説明します。

- 「Cisco XCP」 (P.B-1)
- 「Presence Engine」 (P.B-5)
- 「プロキシ」 (P.B-9)
- 「Client Profile Agent」 (P.B-13)

### Cisco XCP

表 B-1 に、Cisco XCP パフォーマンス カウンタについての情報を示します。

表 B-1 Cisco XCP カウンタ

| カウンタ                 | カウンタの説明                                       |
|----------------------|-----------------------------------------------|
| <b>Cisco XCP ルータ</b> |                                               |
| NormalPackets        | このカウンタは、Cisco XCP ルータで処理された通常のパケットの総数を表します。   |
| XdbPackets           | このカウンタは、Cisco XCP ルータで処理された xdb パケットの総数を表します。 |
| RoutePackets         | このカウンタは、Cisco XCP ルータで処理されたルート パケットの総数を表します。  |
| LogPackets           | このカウンタは、Cisco XCP ルータで処理されたログ パケットの総数を表します。   |
| <b>Cisco XCP JSM</b> |                                               |
| MessagesIn           | このカウンタは、JSM コンポーネントで受信されたメッセージ スタンザの数を表します。   |
| MessagesOut          | このカウンタは、JSM コンポーネントから送信されたメッセージ スタンザの数を表します。  |
| PresenceIn           | このカウンタは、JSM コンポーネントで受信されたプレゼンス スタンザの数を表します。   |
| PresenceOut          | このカウンタは、JSM コンポーネントから送信されたプレゼンス スタンザの数を表します。  |

表 B-1 Cisco XCP カウンタ (続き)

| カウンタ                            | カウンタの説明                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| IMSessions                      | このカウンタは、Cisco Unified Presence 上でアクティブな JSM セッションの総数を表します。Cisco Unified Presence では、ライセンス済みの各ユーザごとに、起動時に Presence Engine によって JSM クライアント エミュレーションセッションが作成されます。ユーザが各自のクライアントにサインインしている間に、追加の JSM セッションも作成されます。ユーザは同時に複数のクライアントにサインインできます。その場合、ユーザごとに複数の追加 JSM セッションが作成されます。 |
| OnlineUsers                     | このカウンタは、1 つ以上の JSM セッションを所有するユーザの数を表します。Cisco Unified Presence では、ライセンス済みの各ユーザごとに、Presence Engine によって JSM クライアント エミュレーションセッションが作成されます。したがって、このカウンタの値と Presence Engine の ActiveJsmSessions カウンタの値は必ず一致します。                                                                 |
| LoginRate                       | このカウンタは、JSM コンポーネントによって追跡されている現在のログイン レートを表します。                                                                                                                                                                                                                            |
| SuccessfulLogins                | このカウンタは、成功したログインの合計回数を表します。                                                                                                                                                                                                                                                |
| FailedLogins                    | Cisco Unified Presence では、このカウンタは常に 0 です。失敗したログインについては、Cisco XCP 認証コンポーネントのカウンタを参照してください。                                                                                                                                                                                  |
| TotalMessagePackets             | このカウンタは、JSM コンポーネントで処理されたメッセージ パケットの総数を表します。                                                                                                                                                                                                                               |
| TotalPresencePackets            | このカウンタは、JSM コンポーネントで処理されたプレゼンス パケットの総数を表します。                                                                                                                                                                                                                               |
| TotalIQPackets                  | このカウンタは、JSM で処理された IQ パケットの総数を表します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| MsgsInLastSlice                 | このカウンタは、前回のタイム スライスで JSM コンポーネントによって処理されたメッセージの総数を表します。                                                                                                                                                                                                                    |
| AverageMessageSize              | このカウンタは、JSM コンポーネントで処理された平均メッセージ サイズを表します。                                                                                                                                                                                                                                 |
| TotalStateChangePackets         | このカウンタは、Cisco Unified Presence では常に 0 に設定され、将来使用するために予約されています。                                                                                                                                                                                                             |
| StateChangePacketsInSlice       | このカウンタは、Cisco Unified Presence では常に 0 に設定され、将来使用するために予約されています。                                                                                                                                                                                                             |
| AverageStateChangeSize          | このカウンタは、Cisco Unified Presence では常に 0 に設定され、将来使用するために予約されています。                                                                                                                                                                                                             |
| <b>Cisco XCP JSM IQ ネームスペース</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| IQNamespaces                    | このカウンタは、処理された 1 ネームスペースあたりの IQ パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                                 |
| <b>Cisco XCP JSM セッション カウンタ</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| SessionIQIn                     | このカウンタは、JSM で受信された 1 セッションあたりの IQ パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                              |
| SessionIQOut                    | このカウンタは、JSM から送信された 1 セッションあたりの IQ パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                             |
| SessionMessagesIn               | このカウンタは、JSM で受信された 1 セッションあたりメッセージ パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                             |
| SessionMessagesOut              | このカウンタは、JSM から送信された 1 セッションあたりのメッセージ パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                           |
| SessionPresenceIn               | このカウンタは、JSM で受信された 1 セッションあたりのプレゼンス パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                            |
| SessionPresenceOut              | このカウンタは、JSM で送信された 1 セッションあたりのプレゼンス パケット数を表します。                                                                                                                                                                                                                            |



表 B-1 Cisco XCP カウンタ (続き)

| カウンタ                                       | カウンタの説明                                                     |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| SessionRosterSize                          | このカウンタは、1セッションあたりのユーザの参加者サイズを表します。                          |
| <b>Cisco XCP TC (テキスト会議)</b>               |                                                             |
| TotalRooms                                 | このカウンタは、全種類のテキスト チャット ルームの総数を表します。                          |
| AdhocRooms                                 | このカウンタは、アドホック タイプのテキスト チャット ルームの総数を表します。                    |
| PersistentRooms                            | このカウンタは、永続的なテキスト チャット ルームの総数を表します。                          |
| CreatedRooms                               | このカウンタは、作成されたテキスト チャット ルームの総数を表します。                         |
| DeletedRooms                               | このカウンタは、削除されたテキスト チャット ルームの総数を表します。                         |
| MessagesIn                                 | このカウンタは、受信されたグループ チャット メッセージの総数を表します。                       |
| MessagesOut                                | このカウンタは、送信されたグループ チャット メッセージの総数を表します。                       |
| DirectedMessagesIn                         | このカウンタは、受信されたプライベート メッセージと招待メッセージの総数を表します。                  |
| MessagesPersisted                          | このカウンタは、外部データベースに保存されたメッセージの総数を表します。                        |
| MessagesIgnored                            | このカウンタは、外部データベースに保存されていないメッセージの総数を表します。                     |
| <b>Cisco XCP TC ルーム カウンタ</b>               |                                                             |
| RoomNumOccupants                           | このカウンタは、1 チャット ルームあたりの占有者数を表します。                            |
| RoomBytesSent                              | このカウンタは、1 チャット ルームあたりの送信バイト数を表します。                          |
| RoomBytesRecv                              | このカウンタは、1 チャット ルームあたりの受信バイト数を表します。                          |
| RoomStanzasSent                            | このカウンタは、送信された 1 チャット ルームあたりのスタンザ数を表します。                     |
| RoomStanzasRecv                            | このカウンタは、受信された 1 チャット ルームあたりのスタンザ数を表します。                     |
| RoomMsgPacketSent                          | このカウンタは、送信された 1 チャット ルームあたりのメッセージ数を表します。                    |
| RoomMsgPacketsRecv                         | このカウンタは、受信された 1 チャット ルームあたりのメッセージ数を表します。                    |
| RoomPresencePacketsSent                    | このカウンタは、送信された 1 チャット ルームあたりのプレゼンス パケット数を表します。               |
| RoomPresencePacketsRecv                    | このカウンタは、受信された 1 チャット ルームあたりのプレゼンス パケット数を表します。               |
| RoomIQPacketsSent                          | このカウンタは、送信された 1 チャット ルームあたりの IQ パケット数を表します。                 |
| RoomIQPacketsRecv                          | このカウンタは、受信された 1 チャット ルームあたりの IQ パケット数を表します。                 |
| <b>Cisco XCP CM (Connection Manager)</b>   |                                                             |
| ConnectedSockets                           | このカウンタは、Web Connection Manager コンポーネント内の接続されているソケットの数を表します。 |
| FailedRequests                             | このカウンタは、失敗した接続要求の総数を表します。                                   |
| <b>Cisco UP XCP Web Connection Manager</b> |                                                             |
| ConnectedSockets                           | このカウンタは、接続された XMPP クライアント セッションの累計数を表します。                   |
| FailedRequests                             | このカウンタは、失敗した接続要求の総数を表します。                                   |
| <b>Cisco XCP S2S (Server to Server)</b>    |                                                             |
| IncomingDomains                            | このカウンタは、着信サブスクリプションのある外部ドメインの総数を表します。                       |
| OutgoingDomains                            | このカウンタは、発信サブスクリプションのある外部ドメインの総数を表します。                       |
| FailedDialbackIn                           | このカウンタは、失敗した着信ダイヤルバックの総数を表します。                              |
| FailedDialbackOut                          | このカウンタは、失敗した発信ダイヤルバックの総数を表します。                              |

表 B-1 Cisco XCP カウンタ (続き)

| カウンタ                                          | カウンタの説明                                                                              |
|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Cisco XCP SIP S2S (Server to Server)</b>   |                                                                                      |
| IncomingDomains                               | このカウンタは、着信サブスクリプションのある外部ドメインの総数を表します。                                                |
| OutgoingDomains                               | このカウンタは、発信サブスクリプションのある外部ドメインの総数を表します。                                                |
| SubscriptionsOut                              | このカウンタは、アクティブな SIP 発信サブスクリプションの総数を表します。                                              |
| SubscriptionsIn                               | このカウンタは、アクティブな SIP 着信サブスクリプションの総数を表します。                                              |
| SubscriptionsPending                          | このカウンタは、保留中の SIP 発信サブスクリプションの総数を表します。                                                |
| NotifyIn                                      | このカウンタは、受信された SIP NOTIFY メッセージの総数を表します。                                              |
| NotifyOut                                     | このカウンタは、送信された SIP NOTIFY メッセージの総数を表します。                                              |
| MessageIn                                     | このカウンタは、受信された SIP MESSAGE メッセージの総数を表します。                                             |
| MessageOut                                    | このカウンタは、送信された SIP MESSAGE メッセージの総数を表します。                                             |
| ByeIn                                         | このカウンタは、受信された SIP BYE メッセージの総数を表します。                                                 |
| InviteIn                                      | このカウンタは、受信された SIP INVITE メッセージの総数を表します。                                              |
| InviteOut                                     | このカウンタは、送信された SIP INVITE メッセージの総数を表します。                                              |
| <b>Cisco XCP MA (Message Archiver) 基本カウンタ</b> |                                                                                      |
| ReceivedPackets                               | このカウンタは、Cisco Unified Presence で受信され、Message Archiver コンポーネントによって保存されたパケットの総数を表します。  |
| SentPackets                                   | このカウンタは、Cisco Unified Presence から送信され、Message Archiver コンポーネントによって保存されたパケットの総数を表します。 |
| SuccessfulDBWriters                           | このカウンタは、データベースに書き込まれた確認済み IM レコードを表します。                                              |
| FailedDBWriters                               | このカウンタは、失敗したデータベースへの書き込みを表します。                                                       |
| PacketsDropped                                | このカウンタは、isTyping パケットのように Message Archiver で受信されたがデータベースに書き込まれていないパケットの数を表します。       |
| DBQueueSize                                   | このカウンタは、Message Archiver がデータベースへの書き込みを保留してキューイングしたパケットの数を表します。                      |
| <b>Cisco XCP JDS</b>                          |                                                                                      |
| LDAPSuccess                                   | このカウンタは、成功した LDAP 検索の合計回数を表します。                                                      |
| LDAPFailed                                    | このカウンタは、失敗した LDAP 検索の合計回数を表します。                                                      |
| InvalidRequests                               | このカウンタは、Cisco XCP JDS で拒否されたため LDAP に送信されなかった無効な LDAP 検索要求の数を表します。                   |
| <b>Cisco XCP 認証コンポーネント</b>                    |                                                                                      |
| SASLPlainSuccess                              | このカウンタは、成功した SASL plain 認証の合計回数を表します。                                                |
| SASLPlainFailed                               | このカウンタは、失敗した SASL plain 認証の合計回数を表します。                                                |
| VtgTokenSuccess                               | このカウンタは、成功した vtg-token 認証の回数を表します。                                                   |
| VtgTokenFailed                                | このカウンタは、失敗した vtg-token 認証の回数を表します。                                                   |
| FailedLicense                                 | このカウンタは、ライセンスがないため失敗した認証の合計回数を表します。                                                  |
| FailedSASLCredentials                         | このカウンタは、ユーザ名とパスワードが無効なため失敗した SASL plain 認証の合計回数を表します。                                |
| FailedTokenCredentials                        | このカウンタは、ユーザ名とパスワードが無効なため失敗した vtg-token 認証の合計回数を表します。                                 |

表 B-1 Cisco XCP カウンタ (続き)

| カウンタ                                             | カウンタの説明                                      |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <b>Cisco XCP コンポーネント スタンザ</b> <b>トラフィック カウンタ</b> |                                              |
| BytesSent                                        | このカウンタは、1 コンポーネントあたりの送信バイト数を表します。            |
| BytesRecv                                        | このカウンタは、1 コンポーネントあたりの受信バイト数を表します。            |
| ErrorsRecv                                       | このカウンタは、送信された 1 コンポーネントあたりのエラー数を表します。        |
| ErrorsSent                                       | このカウンタは、受信された 1 コンポーネントあたりのエラー数を表します。        |
| PacketsDropped                                   | このカウンタは、ドロップされた 1 コンポーネントあたりのパケット数を表します。     |
| StanzasSent                                      | このカウンタは、送信された 1 コンポーネントあたりのスタンザ数を表します。       |
| StanzasRecv                                      | このカウンタは、受信された 1 コンポーネントあたりのスタンザ数を表します。       |
| MessagePacketsSent                               | このカウンタは、送信された 1 コンポーネントあたりのメッセージ パケット数を表します。 |
| MessagePacketsRecv                               | このカウンタは、受信された 1 コンポーネントあたりのメッセージ パケット数を表します。 |
| PresencePacketsSent                              | このカウンタは、送信された 1 コンポーネントあたりのプレゼンス パケット数を表します。 |
| PresencePacketsRecv                              | このカウンタは、受信された 1 コンポーネントあたりのプレゼンス パケット数を表します。 |
| IQPacketsRecv                                    | このカウンタは、受信された 1 コンポーネントあたりの IQ パケット数を表します。   |
| IQPacketsSent                                    | このカウンタは、送信された 1 コンポーネントあたりの IQ パケット数を表します。   |

## Presence Engine

Presence Engine オブジェクトは、Presence Engine で送受信される SIP メッセージに関する情報を提供します。表 B-2 に、Presence Engine パフォーマンス カウンタについての情報を示します。

表 B-2 Presence Engine カウンタ

| カウンタ                            | カウンタの説明                                                                                            |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>サブスクリプション</b>                |                                                                                                    |
| SubscribesReceived              | このカウンタは、Presence Engine で受信された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。これには、初回サブスクリプション、更新、取得、およびサブスクリプション解除が含まれます。 |
| SubscribesSent                  | このカウンタは、Presence Engine から送信された SUBSCRIBE メッセージの総数を表します。                                           |
| SubscribesReceivedPresence      | このカウンタは、イベントタイプ <i>presence</i> を使用して Presence Engine で受信された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。               |
| SubscribesReceivedProfileConfig | このカウンタは、イベントタイプ <i>profileconfig</i> を使用して Presence Engine で受信された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。          |
| SubscribesInitial               | このカウンタは、受信された初回 SUBSCRIBE メッセージ (カレンダー以外) の数を表します。                                                 |
| SubscribesRefresh               | このカウンタは、受信された更新 SUBSCRIBE メッセージ (カレンダー以外) の数を表します。                                                 |

## Presence Engine

表 B-2 Presence Engine カウンタ (続き)

| カウンタ                                  | カウンタの説明                                                                              |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| SubscribesFetch                       | このカウンタは、受信された取得 SUBSCRIBE メッセージ (カレンダー以外) の数を表します。                                   |
| SubscribesRemove                      | このカウンタは、受信された削除 SUBSCRIBE メッセージ (カレンダー以外) の数を表します。                                   |
| ActiveSubscriptions                   | このカウンタは、現在アクティブなサブスクリプション (カレンダー以外) の数を表します。                                         |
| SubscribesRedirect3xx                 | このカウンタは、3xx 応答によってリダイレクトされた SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                                  |
| SubscribesRejected4xx                 | このカウンタは、4xx 応答によって拒否された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                                      |
| SubscribesRejected5xx                 | このカウンタは、5xx 応答によって拒否された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                                      |
| SubscribesRejected6xx                 | このカウンタは、6xx 応答によって拒否された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                                      |
| SubscribesRejectedWith503             | このカウンタは、503 応答によって拒否された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                                      |
| SubscriptionActiveSentForeign         | このカウンタは、Presence Engine から外部ドメインへ送信されたアクティブなサブスクリプションの数を表します。                        |
| SubscriptionActiveReceivedFromForeign | このカウンタは、Presence Engine が外部ドメインから受信したアクティブなサブスクリプションの数を表します。                         |
| WatcherInfoPresenceSubscriptions      | このカウンタは、ウォッチャ情報プレゼンス サブスクリプションの数を表します。                                               |
| <b>カレンダー</b>                          |                                                                                      |
| ActiveCalendarSubscriptions           | このカウンタは、現在アクティブなカレンダー サブスクリプションの数を表します。                                              |
| SubscribesSentCalendarInitial         | このカウンタは、Presence Engine からカレンダー サーバに送信された初回 SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                  |
| SubscribesSentCalendarRefresh         | このカウンタは、Presence Engine からカレンダー サーバに送信された更新 SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                  |
| SubscribesSentCalendarRetry           | このカウンタは、Presence Engine からカレンダー サーバに送信された再試行 SUBSCRIBE メッセージの数を表します。                 |
| SubscribesReceivedCalendar            | このカウンタは、イベントタイプ <i>calendar</i> を使用して Presence Engine で受信された SUBSCRIBE メッセージの数を表します。 |
| NotifiesReceivedCalendar              | このカウンタは、イベントタイプ <i>calendar</i> を使用した Presence Engine による NOTIFY メッセージの数を表します。       |
| NotifiesSentCalendar                  | このカウンタは、イベントタイプ <i>calendar</i> を使用して Presence Engine から送信された NOTIFY メッセージの数を表します。   |
| MeetingsStarted                       | このカウンタは、カレンダーの統合によって開始された会議の数を表します。                                                  |
| MeetingsEnded                         | このカウンタは、カレンダーの統合によって終了した会議の数を表します。                                                   |
| <b>パブリッシュ</b>                         |                                                                                      |
| PublicationsProcessed                 | このカウンタは、Presence Engine で正常に処理されたパブリケーションの数を表します。                                    |
| PublishInitial                        | このカウンタは、受信された初回 PUBLISH メッセージの数を表します。                                                |
| PublishRefresh                        | このカウンタは、受信された更新 PUBLISH メッセージの数を表します。                                                |

表 B-2 Presence Engine カウンタ (続き)

| カウンタ                             | カウンタの説明                                                                                  |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| PublishModify                    | このカウンタは、受信された変更 PUBLISH メッセージの数を表します。                                                    |
| PublishRemove                    | このカウンタは、受信された削除 PUBLISH メッセージの数を表します。                                                    |
| <b>通知</b>                        |                                                                                          |
| NotificationsInQueue             | このカウンタは、Presence Engine によってキューイングされた発信 NOTIFY メッセージの現在の数を表します。                          |
| NotifiesSent                     | このカウンタは、Presence Engine から正常に送信された NOTIFY メッセージの数を表します。                                  |
| NotifiesReceived                 | このカウンタは、Presence Engine がバックエンド サブスクリプションから受信した NOTIFY メッセージの数を表します。                     |
| NotifiesSentPresence             | このカウンタは、イベント タイプ <i>presence</i> を使用して Presence Engine から送信された NOTIFY メッセージの数を表します。      |
| NotifiesSentProfileConfig        | このカウンタは、イベント タイプ <i>profileconfig</i> を使用して Presence Engine から送信された NOTIFY メッセージの数を表します。 |
| NotifiesRetried                  | このカウンタは、送信が再試行された NOTIFY メッセージの数を表します。                                                   |
| NotifiesTimeout                  | このカウンタは、タイムアウトした NOTIFY メッセージの数を表します。                                                    |
| NotifiesRejected3xx              | このカウンタは、3xx 応答によって拒否された NOTIFY メッセージの数を表します。                                             |
| NotifiesRejected4xx              | このカウンタは、4xx 応答によって拒否された NOTIFY メッセージの数を表します。                                             |
| NotifiesRejected5xx              | このカウンタは、5xx 応答によって拒否された NOTIFY メッセージの数を表します。                                             |
| NotifiesRejected503              | このカウンタは、503 応答によって拒否された NOTIFY メッセージの数を表します。                                             |
| NotifiesRejected6xx              | このカウンタは、6xx 応答によって拒否された NOTIFY メッセージの数を表します。                                             |
| WatcherInfoPresenceNotifications | このカウンタは、ウォッチャ情報プレゼンス通知の数を表します。                                                           |
| WatcherInfoPresenceSubscriptions | このカウンタは、ウォッチャ情報プレゼンス サブスクリプションの数を表します。                                                   |
| <b>HighWaterMark</b>             |                                                                                          |
| HighWaterMark                    | このカウンタは、負荷が上限値に達した回数を表します。                                                               |
| <b>アクティブ ビュー</b>                 |                                                                                          |
| ActiveViews                      | このカウンタは、Presence Engine のアクティブ ビューの数を表します。                                               |
| <b>アクティブ リソース</b>                |                                                                                          |
| ActiveResources                  | このカウンタは、Presence Engine のアクティブ リソースの数を表します。                                              |
| <b>JSM</b>                       |                                                                                          |
| ActiveJsmSessions                | このカウンタは、Presence Engine と JSM 間のクライアント エミュレーションセッションの数を表します。                             |
| <b>XMPP</b>                      |                                                                                          |
| XMPPPresenceReceived             | このカウンタは、受信された XMPP プレゼンス パケットの数を表します。                                                    |
| XMPPPresenceFiltered             | このカウンタは、受信されたフィルタリング済み XMPP プレゼンス パケットの数を表します。                                           |

## Presence Engine

表 B-2 Presence Engine カウンタ (続き)

| カウンタ                          | カウンタの説明                                                            |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| XMPPPresenceNotificationsSent | このカウンタは、構成されたプレゼンスの更新が JSM に送信された件数を表します。                          |
| XMPPIMReceived                | このカウンタは、Presence Engine で受信された XMPP インスタント メッセージ パケットの数を表します。      |
| XMPPIMSent                    | このカウンタは、Presence Engine から送信された XMPP インスタント メッセージ パケットの数を表します。     |
| XMPPIMTcInviteErrors          | このカウンタは、Presence Engine によって拒否された XMPP TC 招待の数を表します。               |
| XMPPIMResourceNotFoundErrors  | このカウンタは、未登録の SIP リソースに関する XMPP インスタント メッセージ パケットの受信件数を表します。        |
| XMPPIMIgnored                 | このカウンタは、Presence Engine によってドロップされた XMPP インスタント メッセージ パケットの数を表します。 |
| XMPPIMGoneGenerated           | このカウンタは、プレゼンス イベントで RFI に送信された送信済みメッセージの数を表します。                    |
| RFIErrors                     | このカウンタは、XMPP メッセージを RFI レイヤに送信したときのエラー数を表します。                      |
| RFIMessageQueueSize           | このカウンタは、RFI が一時停止しているためキューに入れられている XMPP メッセージの現在の数を表します。           |
| <b>SIP</b>                    |                                                                    |
| SIPIMReceived                 | このカウンタは、Presence Engine で受信された SIP インスタント メッセージ パケットの数を表します。       |
| SIPIMSent                     | このカウンタは、Presence Engine から送信された SIP インスタント メッセージ パケットの数を表します。      |
| SIPIMGoneGenerated            | このカウンタは、プレゼンス イベントでプロキシに送信された送信済みメッセージの数を表します。                     |
| SIPIMRetry                    | このカウンタは、プロキシに再送された SIP インスタント メッセージの数を表します。                        |
| SIPIMTimeout                  | このカウンタは、プロキシへの送信時にタイムアウトした SIP インスタント メッセージ パケットの数を表します。           |
| SIPIMReject3xx                | このカウンタは、プロキシへの SIP インスタント メッセージ パケットの送信時に発生した 3xx エラーの数を表します。      |
| SIPIMReject4xx                | このカウンタは、プロキシへの SIP インスタント メッセージ パケットの送信時に発生した 4xx エラーの数を表します。      |
| SIPIMReject5xx                | このカウンタは、プロキシへの SIP インスタント メッセージ パケットの送信時に発生した 5xx エラーの数を表します。      |
| SIPIMReject6xx                | このカウンタは、プロキシへの SIP インスタント メッセージ パケットの送信時に発生した 6xx エラーの数を表します。      |
| ActiveIMSessions              | このカウンタは、SIP と XMPP 間のアクティブなインスタント メッセージ セッションの数を表します。              |
| <b>Roster Sync</b>            |                                                                    |
| RosterSyncAddBuddySuccess     | このカウンタは、Roster Sync Agent で正常に処理されたバディ追加要求の数を表します。                 |

表 B-2 Presence Engine カウンタ (続き)

| カウンタ                          | カウンタの説明                                                  |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------|
| RosterSyncAddBuddyFailure     | このカウンタは、Roster Sync Agent での処理に失敗したバディ追加要求の数を表します。       |
| RosterSyncUpdateBuddySuccess  | このカウンタは、Roster Sync Agent で正常に処理されたバディ更新要求の数を表します。       |
| RosterSyncUpdateBuddyFailure  | このカウンタは、Roster Sync Agent での処理に失敗したバディ更新要求の数を表します。       |
| RosterSyncDeleteBuddySuccess  | このカウンタは、Roster Sync Agent で正常に処理されたバディ削除要求の数を表します。       |
| RosterSyncDeleteBuddyFailure  | このカウンタは、Roster Sync Agent での処理に失敗したバディ削除要求の数を表します。       |
| RosterSyncSubscribeSuccess    | このカウンタは、Roster Sync Agent で正常に処理されたサブスクライブ要求の数を表します。     |
| RosterSyncSubscribeFailure    | このカウンタは、Roster Sync Agent での処理に失敗したサブスクライブ要求の数を表します。     |
| RosterSyncUnSubscribeSuccess  | このカウンタは、Roster Sync Agent で正常に処理されたサブスクライブ解除要求の数を表します。   |
| RosterSyncUnSubscribeFailure  | このカウンタは、Roster Sync Agent での処理に失敗したサブスクライブ解除要求の数を表します。   |
| PolicyUpdateSent              | このカウンタは、XCP に送信されたプライバシー ポリシーの更新の数を表します。                 |
| PolicyUpdateReceived          | このカウンタは、XCP から受信したプライバシー ポリシーの更新の数を表します。                 |
| RosterSyncUnSubscribedSuccess | このカウンタは、Roster Sync Agent で正常に処理されたサブスクライブ解除済み要求の数を表します。 |
| RosterSyncUnSubscribedFailure | このカウンタは、Roster Sync Agent での処理に失敗したサブスクライブ解除済み要求の数を表します。 |

## プロキシ

表 B-3 に、プロキシ カウンタについての情報を示します。

表 B-3 プロキシ カウンタ

| カウンタ                | カウンタの説明                                                       |
|---------------------|---------------------------------------------------------------|
| CallMPCallBackReq   | このカウンタは、プロキシから送信された MeetingPlace コールバック要求の数を表します。             |
| CalNumFailResp      | このカウンタは、カレンダー モジュールのプロキシ コンポーネントがバックエンド サーバから受信した失敗応答の数を表します。 |
| CalNumMtgNotifySent | このカウンタは、プロキシから送信された自動会議通知メッセージの数を表します。                        |
| CalNumQueryBackend  | このカウンタは、バックエンド サーバへのカレンダー クエリーの数を表します。                        |
| CalNumReqFail       | このカウンタは、失敗したバックエンド サーバへの要求の数を表します。                            |
| CTIGWConferenceReq  | このカウンタは、CTIGW で受信された会議コール要求の数を表します。                           |
| CTIGWHoldReq        | このカウンタは、CTIGW で受信されたコール保留要求の数を表します。                           |
| CTIGWInboundCalls   | このカウンタは、CTIGW で受信された着信コールの数を表します。                             |

## ■ プロキシ

表 B-3 プロキシ カウンタ (続き)

| カウンタ                          | カウンタの説明                                                        |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| CTIGWLineOpenRequest          | このカウンタは、CTIGW で受信された LineOpen 要求の数を表します。                       |
| CTIGWMakeCallRequest          | このカウンタは、CTIGW で受信された MakeCall 要求の数を表します。                       |
| CTIGWRefreshCount             | このカウンタは、MOC クライアントから送信されて CPU サーバで受信された INVITE の更新の数を表します。     |
| CTIGWRetrieveReq              | このカウンタは、CTIGW で受信されたコール取得要求の数を表します。                            |
| CTIGWSip4XXRes                | このカウンタは、CTIGW から送信された SIP 4XX 応答の数を表します。                       |
| CTIGWSip5XXRes                | このカウンタは、CTIGW から送信された SIP 5XX 応答の数を表します。                       |
| CTIGWSSXrefReq                | このカウンタは、CTIGW で受信されたコールのシングル ステップ転送要求の数を表します。                  |
| CTIGWUsersAuthorized          | このカウンタは、CTIGW によって認証されたユーザの数を表します。                             |
| CTIGWUsersCurrentlyAuthorized | このカウンタは、リモート コール制御を行うため現在 MOC にログインしているユーザの数を表します。             |
| CTIGWXrefReq                  | このカウンタは、CTIGW で受信されたコール転送要求の数を表します。                            |
| HttpGetRequestsIn             | このカウンタは、IPPM で受信された HTTP GET 要求の数を表します。                        |
| HttpPostRequestsIn            | このカウンタは、IPPM で受信された HTTP POST 要求の数を表します。                       |
| HttpPostRequestsOut           | このカウンタは、IPPM から送信された HTTP POST 要求の数を表します。                      |
| HttpRequests                  | このカウンタは、処理された HTTP 要求の数を表します。                                  |
| IMCTRLActiveSessions          | このカウンタは、アクティブなフェデレーション IM セッションの現在の数を表します。                     |
| IMGWActiveSessions            | このカウンタは、プロキシによって管理されているアクティブな SIP XMPP IM セッションの現在の数を表します。     |
| IMGWClientMessageSent         | このカウンタは、XMPP IM ゲートウェイから SIP クライアントに送信された SIP メッセージの現在の数を表します。 |
| IMGWPeMessageReceived         | このカウンタは、XMPP IM ゲートウェイがローカル PE から受信した SIP メッセージの現在の数を表します。     |
| IMGWPeMessageSent             | このカウンタは、ローカル PE に送信された、XMPP IM ゲートウェイに関する SIP メッセージの現在の数を表します。 |
| IMReceived                    | このカウンタは、IPPM で受信された IM の数を表します。                                |
| IMSendOut                     | このカウンタは、IPPM から送信された IM の数を表します。                               |
| Ipc_Requests                  | このカウンタは、SCP プロセスからの IPC 要求の数を表します。                             |
| IPPhonesLoggedIn              | このカウンタは、IPPM を使用してログインしている IP 電話の数を表します。                       |
| IPPhonesLoggedOut             | このカウンタは、IPPM からログアウトした IP 電話の数を表します。                           |
| IPPMMessageRequestOut         | このカウンタは、IPPM から送信された MESSAGE 要求の数を表します。                        |
| IPPMNumManualMtgRmdrSent      | このカウンタは、送信された手動会議リマインダの数を表します。                                 |
| IPPMPublishRequestsOut        | このカウンタは、IPPM から送信された PUBLISH 要求の数を表します。                        |
| IPPMRegisterRequestOut        | このカウンタは、IPPM から送信された REGISTER 要求の数を表します。                       |
| IPPMSubscribeRequestOut       | このカウンタは、IPPM から送信された SUBSCRIBE 要求の数を表します。                      |
| IPPMUnPublishRequestsOut      | このカウンタは、IPPM から送信された unPUBLISH 要求の数を表します。                      |
| IPPMUnsubscribeRequestOut     | このカウンタは、IPPM から送信された unSUBSCRIBE 要求の数を表します。                    |



表 B-3 プロキシ カウンタ (続き)

| カウンタ                            | カウンタの説明                                                                   |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| NumIdleSipdWorkers              | このカウンタは、現在のインスタンスでアイドル状態の sipd ワーカー プロセスの数を表します。                          |
| NumSipdWorker                   | このカウンタは、現在のインスタンスにおける sipd ワーカー プロセスの数を表します。                              |
| Proxy_Due_Timer_Events          | このカウンタは、キューに入れられた期限切れのタイマー イベントの数を表します。                                   |
| Proxy_Timer_Events              | このカウンタは、期限切れのタイマー イベントの数を表します。                                            |
| PWSAppUserLoginRequest          | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたアプリケーション ユーザ ログイン要求の数を表します。       |
| PWSAppUserLogoutRequest         | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたアプリケーション ユーザ ログアウト要求の数を表します。      |
| PWSEndpointExpired              | このカウンタは、更新前に期限が切れたサブスクリプションの数を表します。                                       |
| PWSEndpointRefreshRequest       | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたエンドポイント更新要求の数を表します。               |
| PWSEndUserLoginRequest          | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたエンド ユーザ ログイン要求の数を表します。            |
| PWSEndUserLogoutRequest         | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたエンド ユーザ ログアウト要求の数を表します。           |
| PWSGetPolledPresenceRequest     | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信された GetPolledPresence 要求の数を表します。     |
| PWSGetSubscribedPresenceRequest | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信された GetSubscribedPresence 要求の数を表します。 |
| PWSPresenceNotifies             | このカウンタは、Presence Web Service モジュールから送信されたプレゼンス通知の数を表します。                  |
| PWSRegisterEndpointRequest      | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたエンドポイント登録要求の数を表します。               |
| PWSSetPresenceRequest           | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信された SetPresence 要求の数を表します。           |
| PWSSipNotifies                  | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信された SIP 通知の数を表します。                   |
| PWSSipPublishRequests           | このカウンタは、Presence Web Service モジュールから送信された SIP パブリッシュ要求の数を表します。            |
| PWSSipSubscribeRequests         | このカウンタは、Presence Web Service モジュールから送信された SIP サブスクライブ要求の数を表します。           |
| PWSSipUnpublishRequests         | このカウンタは、Presence Web Service モジュールから送信された SIP パブリッシュ解除要求の数を表します。          |
| PWSSipUnsubscribeRequests       | このカウンタは、Presence Web Service モジュールから送信された SIP サブスクライブ解除要求の数を表します。         |
| PWSSubscribeExpired             | このカウンタは、更新前に期限が切れたエンドポイント登録の数を表します。                                       |
| PWSSubscribeRefreshRequest      | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたサブスクライブ更新要求の数を表します。               |
| PWSSubscribeRequest             | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたサブスクライブ要求の数を表します。                 |

## ■ プロキシ

表 B-3 プロキシ カウンタ (続き)

| カウンタ                          | カウンタの説明                                                       |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| PWSUnregisterEndpointRequest  | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたエンドポイント登録解除要求の数を表します。 |
| PWSUnsubscribeRequest         | このカウンタは、Presence Web Service モジュールで受信されたサブスクライブ解除要求の数を表します。   |
| ServerLoadStatus              | このカウンタは、サーバのロードステータスをスケール 0 (アイドル) ~ 3 (スワンプ) で表します。          |
| SIPClientImMessage            | このカウンタは、プロキシで受信された SIP クライアント インスタントメッセージの数を表します。             |
| SIPClientRegistered           | このカウンタは、プロキシで受信された SIP クライアント登録要求の数を表します。                     |
| SIPClientRegisterFailed       | このカウンタは、プロキシでの受信に失敗した SIP クライアント登録要求の数を表します。                  |
| Sip_Tcp_Requests              | このカウンタは、TCP 伝送を介して受信された SIP 要求の数を表します。                        |
| Sip_Udp_Requests              | このカウンタは、UDP 伝送を介して受信された SIP 要求の数を表します。                        |
| SIPInviteRequestIn            | このカウンタは、プロキシで受信された INVITE 要求の数を表します。                          |
| SIPInviteRequestInForeign     | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシで受信された INVITE 要求の現在の数を表します。              |
| SIPInviteRequestOut           | このカウンタは、プロキシから送信された INVITE 要求の数を表します。                         |
| SIPInviteRequestOutForeign    | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシから送信された INVITE 要求の現在の数を表します。             |
| SIPMessageRequestIn           | このカウンタは、プロキシで受信された MESSAGE 要求の数を表します。                         |
| SIPMessageRequestInForeign    | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシで受信された MESSAGE 要求の現在の数を表します。             |
| SIPMessageRequestOutForeign   | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシから送信された MESSAGE 要求の現在の数を表します。            |
| SIPNotifyRequestIn            | このカウンタは、プロキシで受信された NOTIFY 要求の数を表します。                          |
| SIPNotifyRequestInForeign     | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシで受信された NOTIFY 要求の現在の数を表します。              |
| SIPNotifyRequestOutForeign    | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシから送信された NOTIFY 要求の現在の数を表します。             |
| SIPPublishRequestsIn          | このカウンタは、IPPM で受信された PUBLISH 要求の数を表します。                        |
| SIPRegisterRequestIn          | このカウンタは、プロキシで受信された REGISTER 要求の数を表します。                        |
| SIPRequestInForeign           | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシで直接受信された要求の現在の数を表します。                    |
| SIPRequestOutForeign          | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシから直接送信された要求の現在の数を表します。                   |
| SIPRetransmits                | このカウンタは、プロキシによって実行された再送信の件数を表します。                             |
| SIPSubscribeRequestIn         | このカウンタは、プロキシで受信された SUBSCRIBE 要求の数を表します。                       |
| SIPSubscribeRequestInForeign  | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシで受信された SUBSCRIBE 要求の現在の数を表します。           |
| SIPSubscribeRequestOutForeign | このカウンタは、企業の境界を超えてプロキシから送信された SUBSCRIBE 要求の現在の数を表します。          |

# Client Profile Agent

表 B-4 に、Client Profile Agent カウンタについての情報を示します。

表 B-4 Client Profile Agent カウンタ

| カウンタ                     | カウンタの説明                                                                  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| SoapLoginFailures        | このカウンタは、Cisco UP SOAP インターフェイスでの受信に失敗したログイン要求の数を表します。                    |
| SoapNodeRedirect         | このカウンタは、Cisco UP SOAP インターフェイスで受信され、他のノードにリダイレクトされたログイン要求の数を表します。        |
| SoapCrossClusterRedirect | このカウンタは、Cisco UP SOAP インターフェイスで受信され、ピア クラスタ内のノードにリダイレクトされたログイン要求の数を表します。 |





## INDEX

---

### A

Alert Central、アクセス [5-5](#)

---

### C

Cisco Tomcat Connector

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-2](#)

---

### D

Database Change Notification Client

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-6](#)

Database Change Notification Server

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-6](#)

Database Change Notification Subscription

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-7](#)

Database Local DSN

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-7](#)

DB User Host Information Counters

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-7](#)

---

### E

Enterprise Replication DBSpace Monitors

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-8](#)

Enterprise Replication Perfmon Counters

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-8](#)

---

### I

IP

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-8](#)

---

---

### L

Log Partition Monitoring

設定 [5-15](#)

---

### M

Memory

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-9](#)

---

### N

Network Interface

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-11](#)

Number of Replicates

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-12](#)

---

### P

Partition

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-13](#)

perfmon

オブジェクトとカウンタ

Cisco Tomcat Connector [A-2](#)

Database Change Notification Server [A-6](#)

Database Change Notification Subscription [A-7](#)

Database Local DSN [A-7](#)

DB User Host Information [A-7](#)

Enterprise Replication [A-8](#)

Enterprise Replication DBSpace Monitors [A-8](#)

IP [A-8](#)

Memory [A-9](#)

Network Interface [A-11](#)

---

Partition [A-13](#)  
 Process [A-13](#)  
 Processor [A-15, B-9, B-13](#)  
 System [A-15](#)  
 TCP [A-16](#)  
 Thread [A-17, A-18](#)  
 Tomcat JVM [A-4](#)  
 Tomcat Web Application [A-5](#)

## Process

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-13](#)

## Processor

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-15, B-9, B-13](#)

## R

### Real-Time Monitoring Tool

Trace and Log Central オプションの表示 [6-3](#)

アップグレード [1-3](#)

#### アラート

Alert Central へのアクセス [5-5](#)

アクションの設定 (表) [5-10](#)

一時停止 [5-14](#)

カスタマイズ (表) [5-4](#)

事前設定 [5-2](#)

電子メールの設定 [5-12](#)

プロパティの設定 [5-7](#)

ログ、説明 [5-5](#)

アンインストール [1-8](#)

インストール [1-2](#)

#### カウンタ

ズーム [4-4](#)

データ サンプル [4-8](#)

データの表示 [4-8](#)

プロパティの説明の表示 [4-7](#)

カウンタのズーム [4-4](#)

#### カテゴリ

削除 [3-5](#)

追加 [3-4](#)

クエリー ウィザードを使用したトレースの収集 [6-8](#)

クラッシュ ダンプの収集 [6-17](#)

使用 [1-6](#)

スケジュールされた収集の削除 [6-17](#)

スケジュール収集オプションを使用したトレースの収集 [6-13](#)

#### 設定プロファイル

削除 [3-3](#)

追加 [3-2](#)

デフォルトの使用 [3-1](#)

復元 [3-2](#)

データ サンプル [4-8](#)

トレース収集ステータスの表示 [6-17](#)

トレース設定の更新 [6-29](#)

トレースの収集 [6-5](#)

複数の RTMT のインストール [1-4](#)

ポーリング レート、設定 [4-6](#)

リアルタイム トレース オプションの使用 [6-25](#)

リアルタイム トレース オプションの使用、ユーザ イベントのモニタ [6-26](#)

リアルタイム トレース オプションの使用、リアルタイム データの表示 [6-25](#)

リモート ブラウズ オプションを使用したトレース ファイルの表示 [6-21](#)

ローカル ブラウズ オプションを使用したトレース ファイルの表示 [6-20](#)

ロード [1-6](#)

## S

### System

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-15](#)

## T

TCP [A-16](#)

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-16](#)

### Thread

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-17, A-18](#)

### Tomcat JVM

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-4](#)

## Tomcat Web Application

perfmon オブジェクトとカウンタ [A-5](#)

## Trace and Log Central

インストールおよびアップグレード ログの収集 [6-8](#)**あ**

## アップグレード ログ

収集 [6-8](#)

## アラート

Alert Central へのアクセス [5-5](#)アクションの設定 (表) [5-10](#)一時停止 [5-14](#)カスタマイズ (表) [5-4](#)事前設定 [5-2](#)電子メールの設定 [5-12](#)プロパティの設定 [5-7](#)ログ、説明 [5-5](#)アラート通知、設定 [5-12](#)**い**

## インストール ログ

収集 [6-8](#)**お**

## オブジェクトとカウンタ

Database Change Notification Client [A-6](#)**か**

## カウンタ

ズーム [4-4](#)データ サンプル、設定 [4-8](#)データの表示 [4-8](#)カウンタのズーム [4-4](#)

## カテゴリ

削除 [3-5](#)追加 [3-4](#)**さ**

## サーバ認証証明書

トレース収集オプションを使用したインポート [6-3](#)

## サービスアビリティ

概要 [1-1](#)**せ**

## 設定プロファイル

削除 [3-3](#)追加 [3-2](#)デフォルトの使用 [3-1](#)復元 [3-2](#)**て**

## 電子メールの設定

アラート [5-12](#)**と**

## トラブルシューティング

## Perfmon データ ログギング

パラメータ [4-13](#)ログ ファイルの表示 [4-17](#)

## トレース

## 収集

オプションの表示 [6-3](#)クエリー ウィザード オプションの使用 [6-8](#)クラッシュ ダンプ収集オプション [6-17](#)スケジュールされた収集の削除 [6-17](#)スケジュール収集オプション [6-13](#)ステータスの表示 [6-17](#)ファイル収集オプション [6-5](#)

- リアルタイム トレース オプションの使用 [6-25](#)
- リアルタイム トレース オプションの使用、ユーザ イベントのモニタ [6-26](#)
- リアルタイム トレース オプションの使用、リアルタイム データの表示 [6-25](#)
- リモート ブラウズ オプションの使用 [6-21](#)
- ローカル ブラウズ オプションの使用 [6-20](#)

---

## は

### パフォーマンス カウンタ

- カウンタ インスタンスの追加 [4-4](#)
- 削除 [4-5](#)
- 図形式で表示 [4-2](#)
- 表形式で表示 [4-2](#)

### パフォーマンスのモニタリング

- Number of Replicates [A-12](#)

### オブジェクトとカウンタ

- Cisco Tomcat Connector [A-2](#)
- Database Change Notification Server [A-6](#)
- Database Change Notification Subscription [A-7](#)
- Database Local DSN [A-7](#)
- DB User Host Information [A-7](#)
- Enterprise Replication [A-8](#)
- Enterprise Replication DBSpace Monitors [A-8](#)
- IP [A-8](#)
- Memory [A-9](#)
- Network Interface [A-11](#)
- Number of Replicates [A-12](#)
- Partition [A-13](#)
- Process [A-13](#)
- Processor [A-15, B-9, B-13](#)
- System [A-15](#)
- Thread [A-17, A-18](#)
- Tomcat JVM [A-4](#)
- Tomcat Web Application [A-5](#)

### パフォーマンス モニタリング

- カウンタ データの表示 [4-8](#)

---

## ほ

- ポーリング レート [4-6](#)

---

## ろ

### ログ

- アラート [5-5](#)